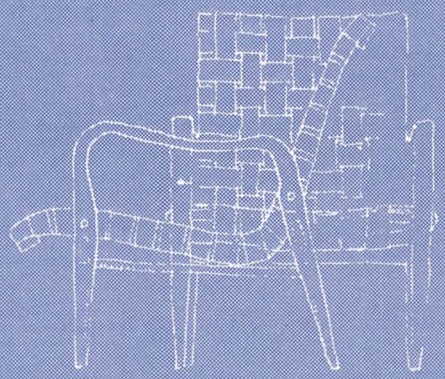
昭和二十四年三月十九日　昭和廿五年三月廿五日印刷
第三種郵便物認可　昭和廿五年四月一日發行（毎月一日發行）

建築と社會

VOL — 31



NO — 4

THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

日本建築協會

1950　4

HITACHI

日立の

建築用附帯設備

冷煖房装置

全館冷煖房にはターボ冷凍機を！
各室冷房にはユニツトクーラーを！

アンモニヤ冷凍機　ターボ冷凍機　メチルクロライト冷凍機
アンモニヤブスター冷凍機　フレオン冷凍機　蒸氣噴射式冷凍機

工事施行一式

エレベータ

客用　荷物用

ダムウエータ　ケーブルカー　電動階段　其の他建物内部特殊輸送設備

換気扇

室内のよごれた空氣を一掃して快い
新鮮な空氣と入換える事が出來ます

三相　單相

各種

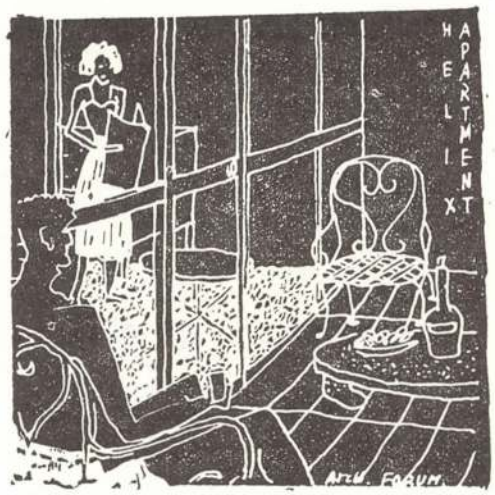
電氣井戸ポンプ

井戸水を高架タンクを使はずに自動的
に水道と同じ樣に自由に使用出來ます

淺井戸用　深井戸用

各種

東京 大阪 名古屋　**日立製作所**　福岡 仙台 札幌



建築と社會

4

1950・4

時の言葉　住宅の質的發展……2
新建築作品紹介
大阪木材會館……3
日本生命新潟支社……6
三菱化成岐阜工場再建工事……8
名古屋市分譲住宅……39
S氏邸……40
SE氏邸……41
名古屋競輪場……42
名古屋市立柳小學校……44
日本板硝子四日市工場事務所……46
家事勞働の合理化……相澤　竜……9
訪問記　我が住居を語る……13
住宅問題と講話問題……西川　清治…16
これからの婦人の服裝と住宅……河合　玲…19
小宮町市營鐵筋アパートに住んで……郡山千鶴子…22
赤川モデル住宅を觀る……深澤　一彦…26
女子學生座談會……30
わが黨の住宅政策の基本點……
日本共產黨科學技術部…34
木村寛一さんを偲ぶ……36
各會記錄（昭和24年度）……47
會　務……54
會　告……色紙綴込

時の言葉　　住宅の質的發展

復興住宅の足取りが先づその量的解決の段階にはじまり、從つてそれが質的の問題を省みるの餘裕のなかつたことは今日までの事情からしてまことに止むを得ないものがあつた。

しかしながら今日、ようやく落着きを取り戻した世情の下に於ては既に一歩前進しなければならない段階にあるといえよう。

その意味に於て、今後の住宅が質的にどうあるべきかは極めて重要な課題であり、各方面からの研究を要する問題である。

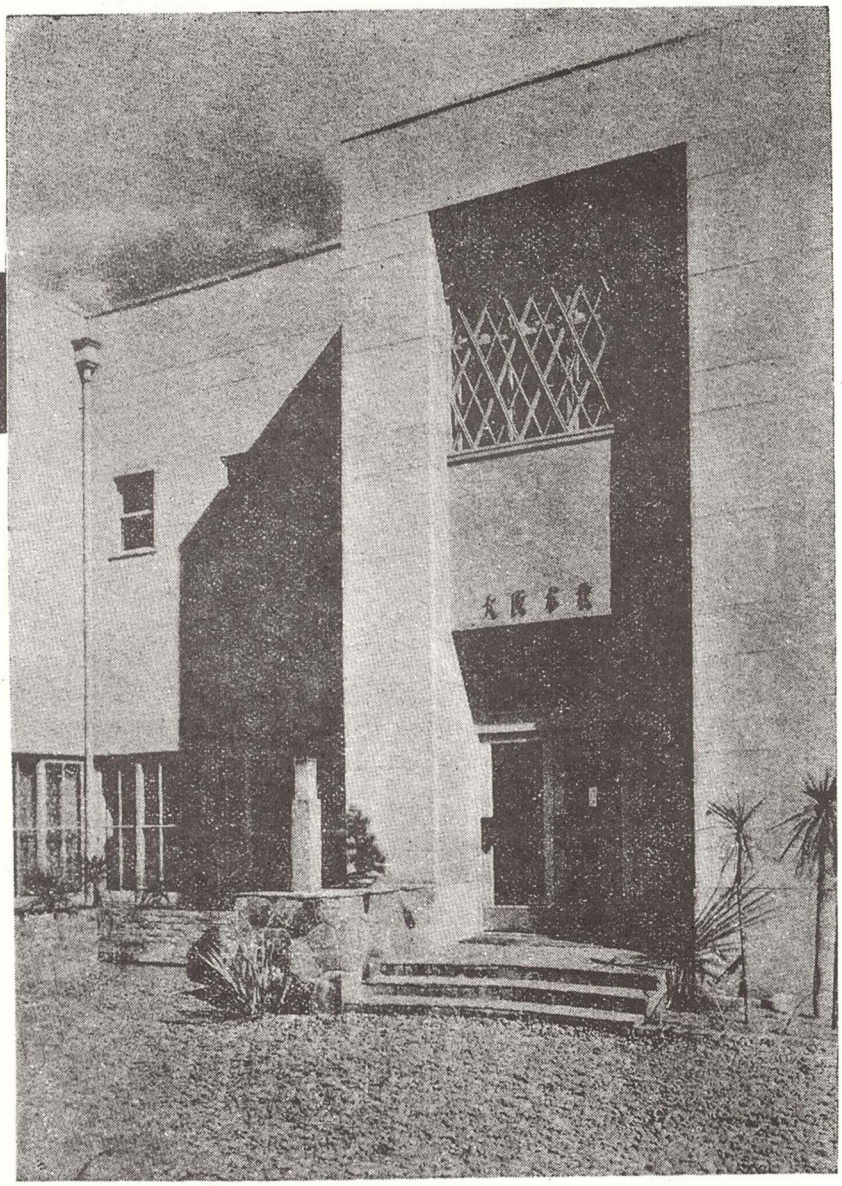
或は都市に於ける不燃集合住宅の試み、或は量産による優良組立家屋、更に設備から家具に至る合理的な規格化等何れも住宅の質的向上の問題として廣く亦深く檢討すべきものが多い。

しかもそれ等の底を貫く共通の問題は、なるべく多數の者の負擔し得る建築費の範圍内で、住ひの水準を高め、好ましい住宅を得たいことでなければならない。

幸いに住宅金融金庫の開設をみようとするこの際、斯くの如き住宅を求めようとする希望さえ、是非共實現したい絶好の機會であると思う。

限られた狹い敷地には有効な空地を設け、最少限の間取りには立體的な空間の利用を試み、これに合理的な實用設備を加える等あらゆる技術的な努力をもつてすれば、住宅の質的改善も決して無理な話してはあるまい。要は住いに對する古い觀念を根本的にかなぐり捨ててかかることである。

大阪木材会館

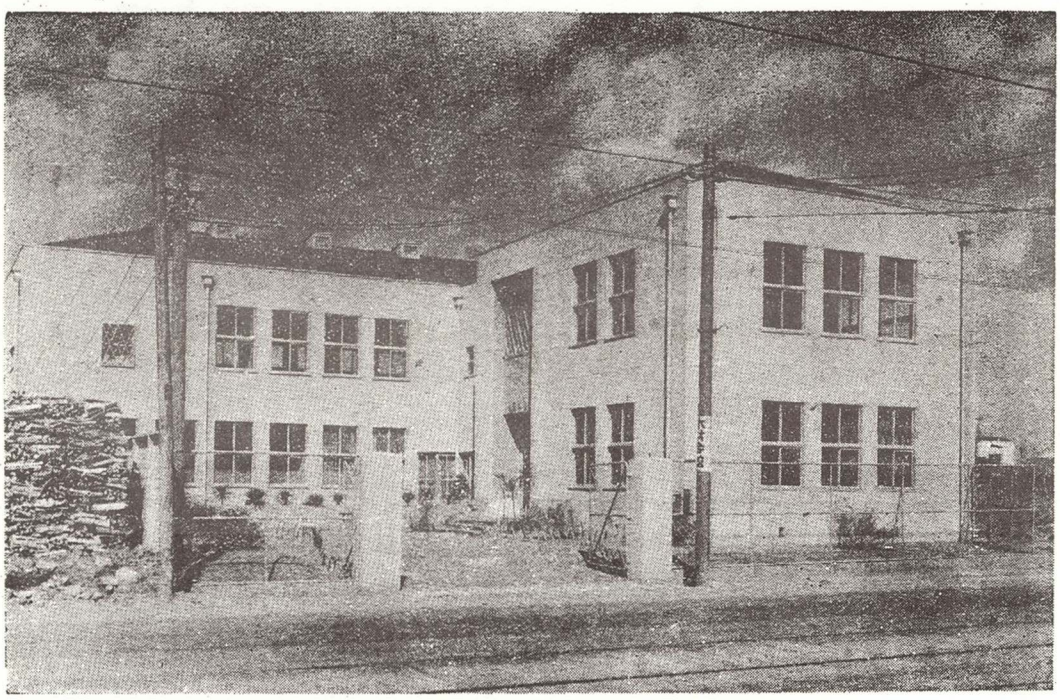


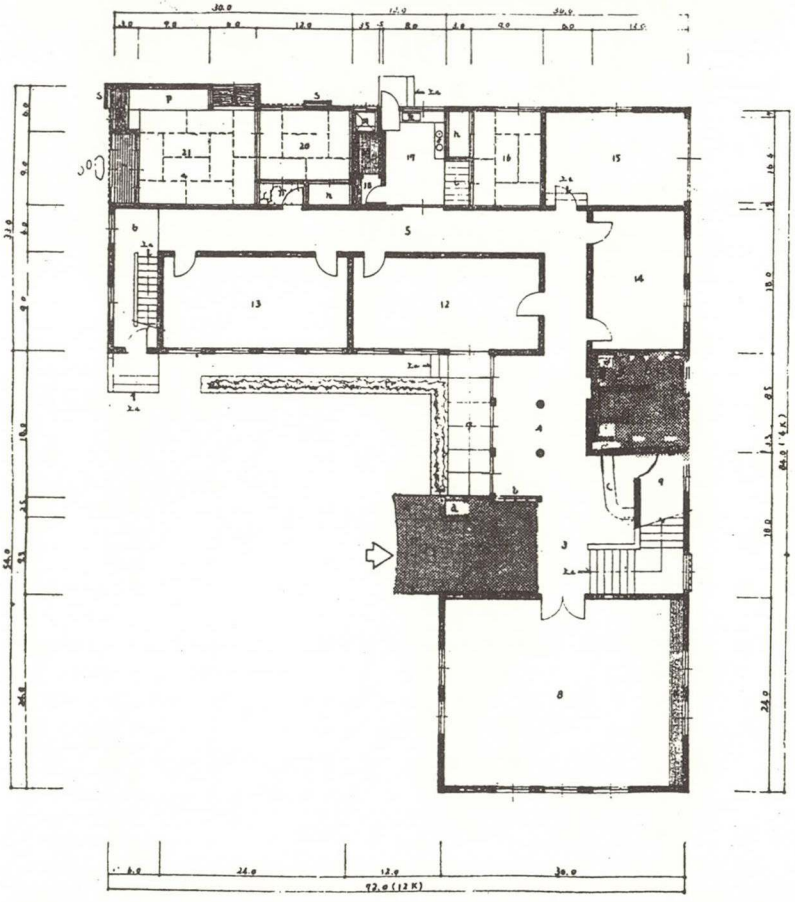
位置　大阪市西區西長堀北通三丁目一〇
設計　株式會社　大阪建築事務所
施工　株式會社　錢高組
構造　木造　2階建
　　1階　102坪72　2階　95坪61　計198坪33

仕上概要
屋根　日本瓦
外壁　セメントモルタル淡色リシン塗掻取目地切
　　但玄關廻擬石ブロック及テラゾウ研出し

内部仕上

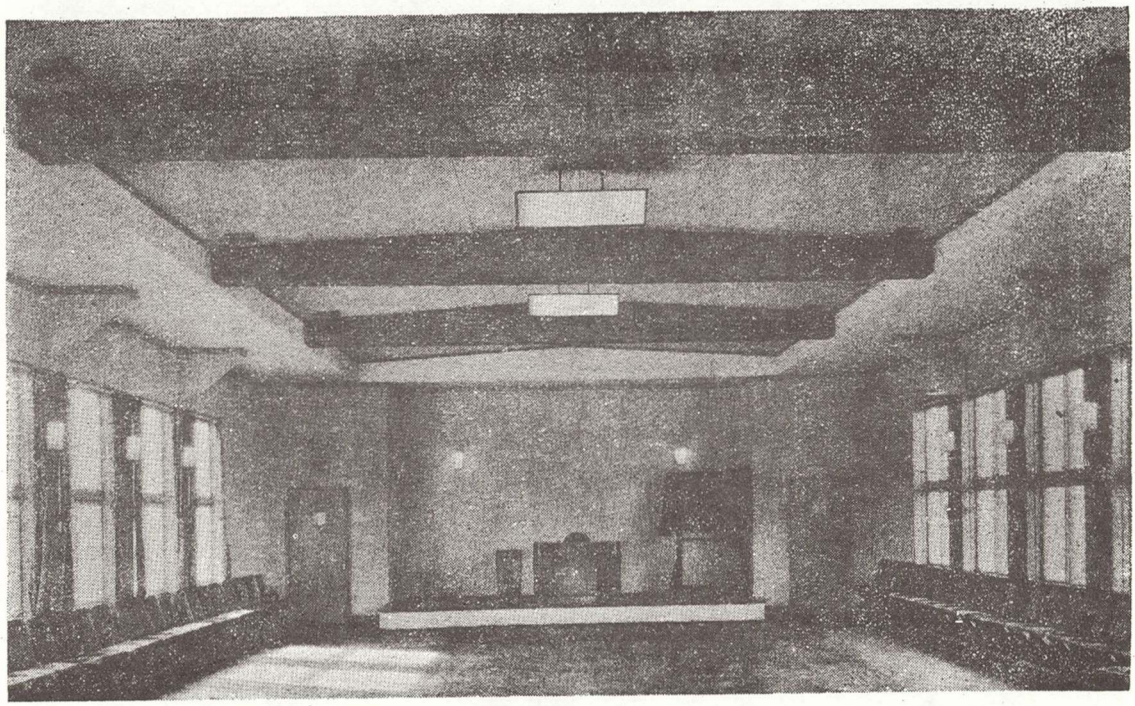
	室名	床	巾木	腰壁	壁	天井
1階	玄關	モザイツクタイル	檜ペンキ		プラスター	プラスター
	ホール	檜フローリング	同上		同上	同上
	階段室	同上	同上		同上	同上
	事務室	同上	同上	ベニヤペンキ、プラスター		高壓テツクス水性ペンキ
	休憩室、廊下	同上	同上		プラスター	ベニヤペンキ
	役員室	同上	同上	シツクヒ下地クロス貼ペンキ、スタツコ粗面		
	日本間	タタミ			砂壁	竿縁天井
	便所及手洗所	モザイツクタイル		モザイツクタイル、プラスター、プラスター		
2階	大會議室	檜フロリング	檜ペンキ	シツクヒ下地クロス貼ペンキ		化粧梁形高壓テツクス水性ペンキ及プラスター
	應接室	同上	同上	同上		高壓テツクス水性ペンキ
	廣間	同上	同上	プラスター		プラスター

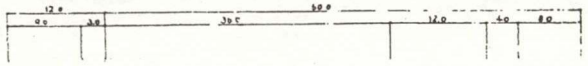




1階平面圖

1	ポーチ	a	掃除具入棚	
2	玄關	b	ガラスクリーン	
3	ホール		スクリーン	
4	休憩場	c	カウンター	
5	廊下	d	引違ひ戸	
6	裏玄關	e	パイプダクト	
7	テレス	f	シンク	
8	第一事務室	g	洗面器	
9	守衛室	h	押入合	
10	洗面及び化粧室	i	式コンロ合	
11	便所	j	コンロ合	
12	役員室	k	洗し衣棚	
13	第四事務室	l	脫衣棚	
14	第三事務室	m	浴槽	
15	車庫	n	踏込	
16	宿直室	o	地袋	
17	厨房	p	床	
18	脫衣室	q	書院	
19	浴室	r	緣側	
20	和室	s	戸袋	
21	和室	t	植込み	

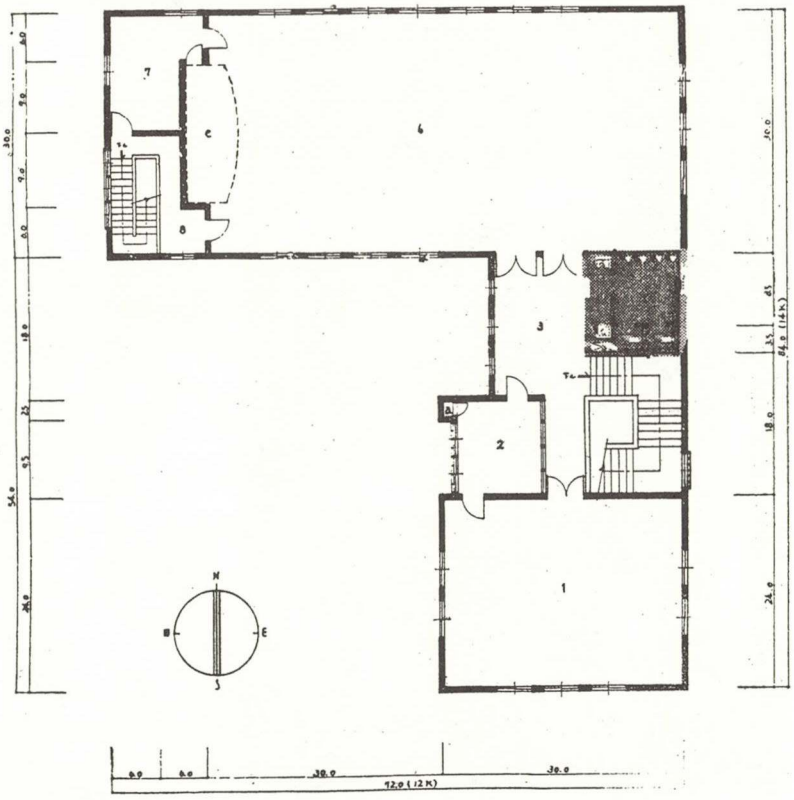




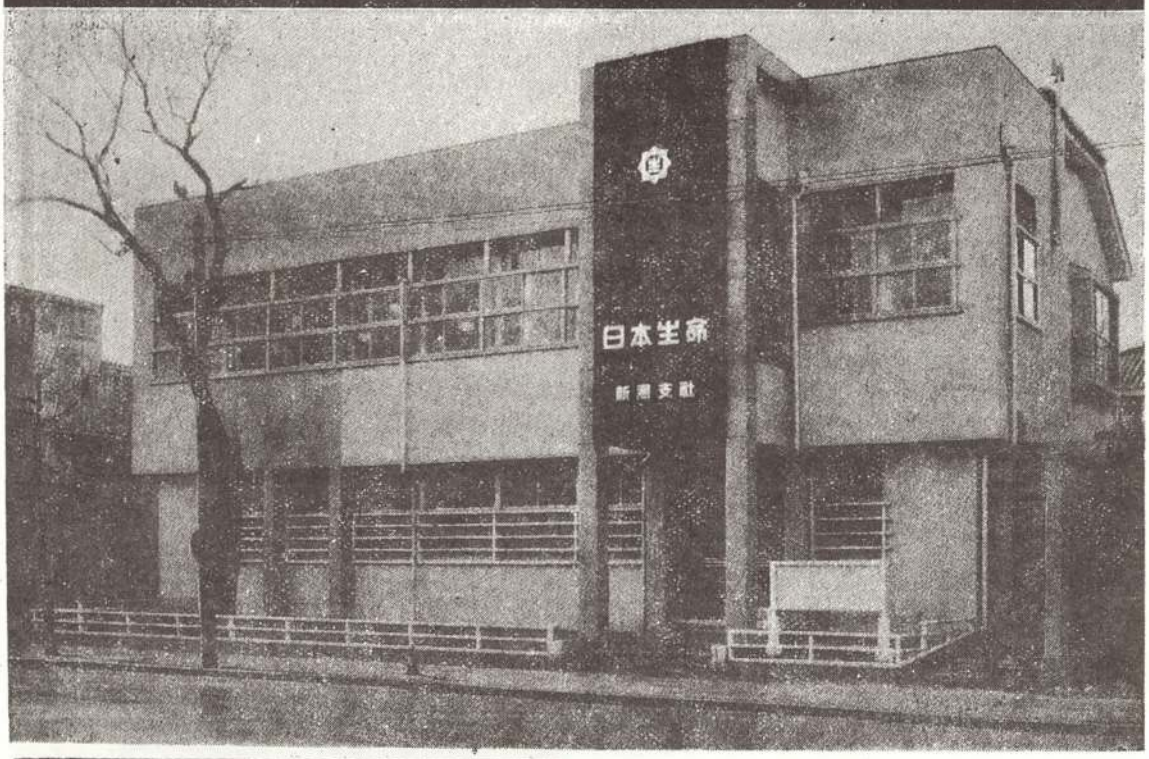
2階平面圖

1 第二事務室
2 應接室
3 ホール
4 洗面及び化粧室
5 便所
6 會議室
7 控室
8 非常口

a 物入
b パイプダクト
c シンク
d 洗面器
e 演台



日本生命新潟支社

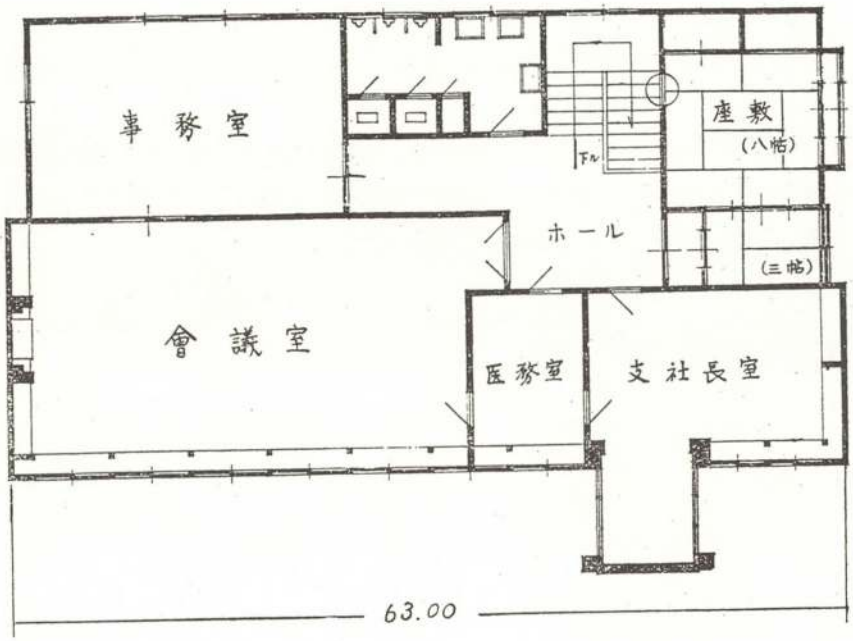




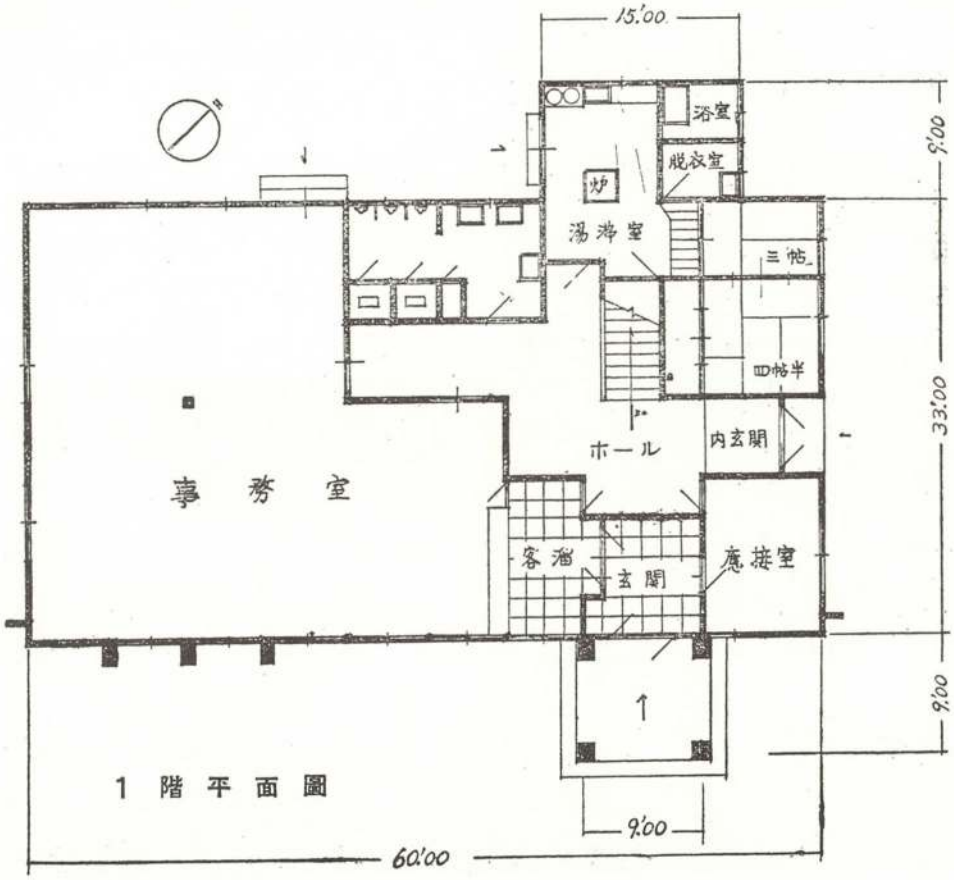
設計	松下壽吉	
施工	大林組	
位置	新潟市東中通通一番町86	
敷地	192.00坪	
建物面積	1階	61.00坪
	2階	56.80坪
	延	117.80坪

仕様概要

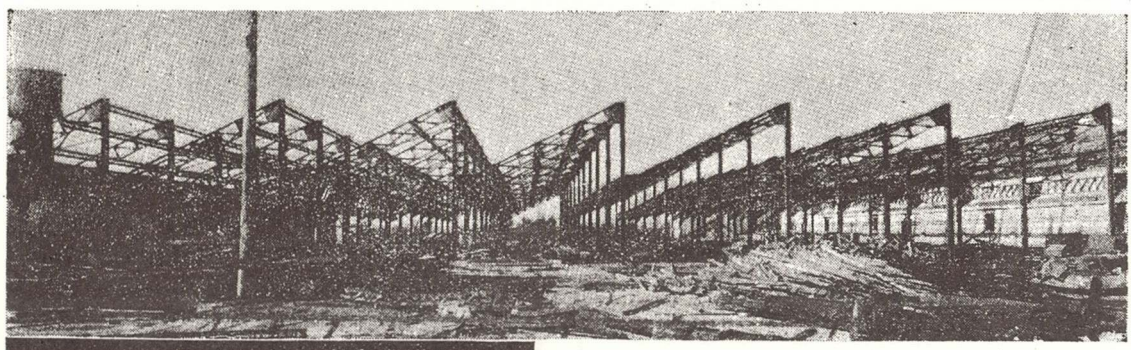
構造	主體木造瓦葺
外裝	外壁 淡黄色モルタル掻落し仕上 玄關ポーチ及外壁一部テラゾー貼り 2階ランマ柱ジユラルミン板貼り
內裝	一般壁天井漆喰仕上 一般床はフローリング板張りオイルステイン仕上 玄關及客溜り床人造石研出し
起工	昭和24年9月1日
竣工	昭和24年12月17日


事務室
座敷
(八帖)
ホール
(三帖)
會議室
医務室
支社長室
63.00

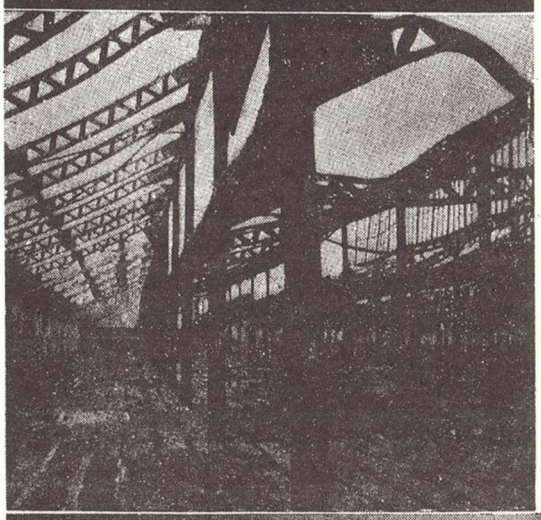
2 階 平 面 圖


15.00
浴室
脱衣室
炉
湯沸室
三帖
四帖半
ホール
内玄関
事務室
客溜
玄関
應接室
9.00
33.00
9.00
9.00
60.00

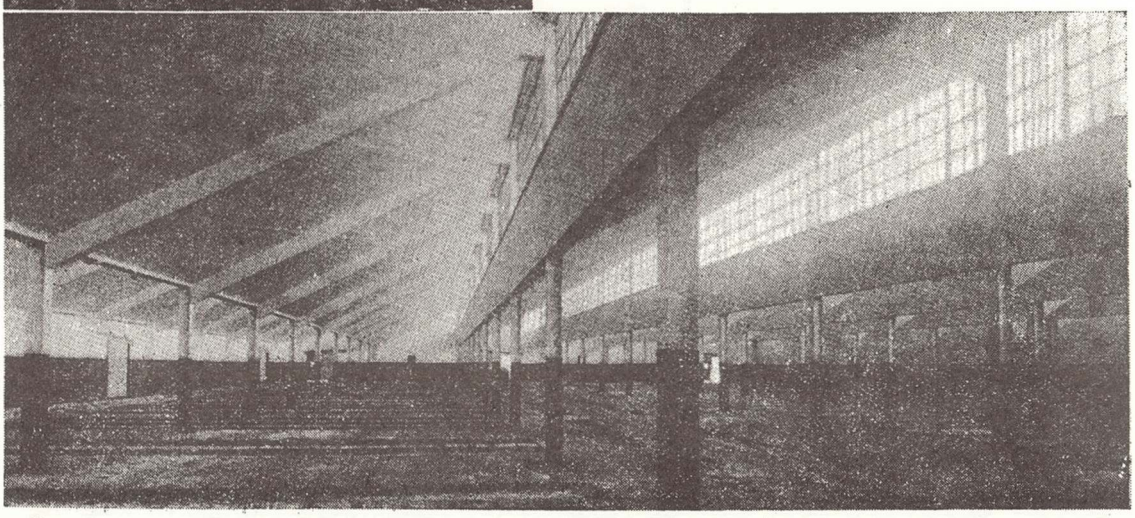
1 階 平 面 圖



三菱化成工業株式會社岐阜工場再建工事



所　在　岐阜市本荘三里
設　計　三菱化成工業株式會社岐阜工場再建事務所
監　理　同　上
施　工　株式會社　大林組名古屋支店
竣　功　昭和25年3月
構　造　鐵骨屋根厚型スレート葺平家建
規　模　約4,000坪
外　裝　セメントモルタル塗裝吹付仕上
內　裝　鐵、木、部共油性ペイント塗仕上、並に1部天井テックス張ペンキ仕上
特記事項　本工事は約5,000坪の罹災工場焼鐵骨を解體垂直しの上、約4,000坪の工場に復舊をなすものとし仕上は大略罹災前と同樣に復舊する



家事勞働の合理化

相澤龍

『健康、死亡、福利或いは生活に加えられる變動の何れの立場から見ても、家庭は根源的存在である。勿論我々は職業により相當強く捏ねまわされる。勞働の狀態が家庭生活の時間を左右するし、一日の務めを終つて歸宅する際の氣分を決定するのである。經濟、健康並に教育の諸因子も又仕事以外の我々の生活に重要な役割を演ずること勿論である。しかも我々の生活は專ら家庭に中心を置き、皆が愉しい健やかな家庭生活を營むことが社會の向上の第一條件である』とは名著「社會醫學の原理」の著者ルネ・サンドの言葉である。

この樣に社會向上の基本的條件であり、誰もが希求してやまない愉しい健康な家庭生活の理想も戰爭と戰後のインフレーション政策に依つて破局的な運命に直面している。戰爭による住宅の絕對的不足の結果、人々の住いは荒廢し、現在日本の主婦の家事勞働は著しく過重なものとなつている。

戰前に於ける主婦の家事勞働は經濟的低位と封建性の爲にみじめな狀態に置かれていた事は言う迄もない所であり、家事勞働の合理化の聲が屢々聞かれたのは周知の事である。併し之等の多くは家事勞働乃至家庭生活の合理化、即耐乏生活の倫理と言う響を持つていた事は否めない。

今日、家事勞働の合理化の問題が眞劍に取上げられなければならない理由は大體次の樣に考えられると思う。

第一は住宅難である。狹い住宅えの過住による生活の混亂、他人との同居生活による生活上の不便、遠距離通勤の問題等、之等は何れも家事勞働の主擔者である主婦の肩に大きな負擔を投げかけている。

現在日本の主婦が一日の大部分を家政にしばられているのが現實の姿である。都會の主婦は先づ12—13時間を家政の爲に費している。その內譯をみると炊事が6—7時間、洗濯、裁縫が2—3時間、掃除が1時間である。

主婦の一日の動きをみても、午前中は起床から晝食の準備まで殆んど間斷なく炊事、洗濯等種々雜多な仕事が續き休憩の時間もない。晝食後のひとときは主婦に與えられた自由な時間であるが、3時にはもう夕食の準備に台所へ追立てられる。夕食後も衣服のつくろいその他で主婦は家政に携る時間が却々多い。

一つの例を洗濯にとつてみても、夏の1月間の洗濯日數は24日、洗濯回數は28回で主婦の負擔が如何に過重であるかは大略想像出來る。

乳幼兒を抱えた母親の生活はもつと忙しく自身の休息、教養娯樂等の自由時間が犧牲にされている。又遠距離通勤者の家庭では主婦は早朝の起床を强いられ、食事時間の複雜さは生活を亂し過勞が著しい。

第二に婦人の家庭外勞働殊に既婚婦人の就業傾向の增大である。日本資本主義が低廉な婦人の勞働力に依存して跛行的に發展して來た事は周知の所であるが、戰後のインフレーション政策の爲に經濟的重壓は極點に達し、家計補助的な家庭內勞働の增加、又家庭外えの既婚婦人の就業の增加が目立つている。之等の勞働婦人は職業の爲に家事や子女の養育を犧牲にするか、さもなくば自身の健康を犧牲にしなければならない立場に追いやられている。勞働婦人（主婦の場合）の生活時間で目立つのは睡眠時間の短縮である。殊に乳兒がある場合にそれが著しいのは實態調査の成績によつて明らかであり、その生活內容は多忙と過勞と無味乾燥そして逼迫している日々の繰返しと言つても過言でないであろう。

第三に購買力の低下に基づく生活內容の貧困化

である。例を衣料にとつてみても、戰後主婦の裁縫は絕え間ないつくろい物に頭を惱ますのがその大部分になつている。

その他經濟的な苦しさの爲に病人その他一時的な人手を要する場合に於いても、多くは主婦の勞働の倍加によつて問題を解決してゆくのが一般であり、家事使用人を使い得る家庭は例外的となりつつある。

第四は歷史的に一定の生活水準に到達している國民生活が、戰爭その他の原因に依つて急激に低下し極度に貧困化した場合、生活欲求の向上と之に對する生活費の增加とが相對立して却つて生活內容の貧困化を來す。

以上の樣な諸原因に依つて今日家事勞働の合理化が再び重要な課題として取上げられつつあるのであるが、此處に吾々は見逃してはならない點は戰後に於ける家事勞働の合理化は常に婦人解放と言う點にその基礎を置かねばならない事である。

日本の民主化の爲にはなす可き問題が山積しているが、婦人の解放、婦人の社會的地位の向上がこの運動に極めて重要な役割を果している事は言うまでもない。戰爭中から戰後にかけての餘りにもいたましい家庭生活の內容や、家事の停滯、家事勞働の過重の結果、婦人は生活の基本である健康、衛生を守り、更に教養を求め知性をたかめんとする慾望の起るのは當然である。この基本的な希求が日本民主化の運動の一翼に連らなる婦人の解放運動となり、この具體的な實踐として家事勞働の合理化が問題とならなければならない。

婦人の解放は一方に於いて家庭經濟と密接に結びついており、婦人の經濟的獨立なしには婦人の解放は進まないし、他方に於いて婦人の教養が昂まりその能力の向上をまつて初めて婦人の解放が達成される。即ち經濟、教養の向上こそが婦人解放の實體をなしその推進力であり、この事は又家事勞働の合理化が日本に於いて極めて重要な課題である本質的な意義をなすものである。

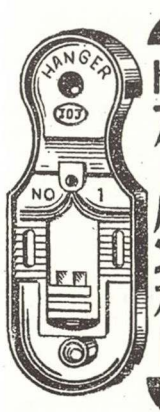
家事勞働を合理化する手段は何か。勞働が合理化に行われる爲には先づ勞働環境、勞働條件が最善に整備されなければならない、即ち勞働條件の整備を含めて最善の家事勞働樣式の確立が最も重要である。他面この勞働環境に適應する樣に婦人の教養、知性を向上させる事が必要である。兩者の交互作用に依つて家事勞働の合理化が推進せしめられる。

家事勞働の合理化の爲に具體的に問題となるのは當然に家事勞働の主要な勞働環境であり、又勞働條件である住宅を如何にするかが第一に擧げられる。即ち住宅の構造や間取りをどうするかの問題が家事勞働の合理化の面で眞劍に取り上げる必要がある。家事勞働の量と質は住宅の構造や間取りに左右される所が極めて大きいからである。

特に從來都市民の大多數がそれに依存していた零細な借家企業が存在し得ない狀況にあり、都市住宅問題の解決は國家乃至地方自治體その他の公共團體の住宅建設に依る以外に方法のない現在、家事勞働の合理化を目標とした新しい住宅の建設には絕好の機會であるとも言い得る。この機會を逃すならば家事勞働の合理化の實現は殆んど不可能であるとも言えよう。

家事勞働からの婦人の解放に於いて「婦人論」の著者アウグスト・ベーベルは次の樣に述べている。即ち『家ごとに台所のある制度は幾百萬の婦人に無限の骨折りと時間の浪費をさせ、その健康と快活とを奪い、殊に多くの家庭のように收入の乏しい場合には毎日の氣苦勞の種である。個人の台所の廢止は無數の婦人を解放するであろう。個人の台所は小さな機械の職場と同樣に既に時代おくれの制度であつて、これらは共に最大の不經濟、即ち時間、勞力、燃及び光の動力、食料等の夥しい浪費を意味する」と。

殊に現在の日本の樣に國民の到達している一定



建築 J.O.J 金物
ドアーハンガー
J.O.J印ドアーハンガー
工場、倉庫、ガレージの扉に
御使用を御奬め致します
（全國金物店にあり）
代理店
湯淺金物株式會社
大阪・東京
岡谷鋼機株式會社
大阪・名古屋・東京
大同鑄造株式會社
大阪市

の生活水準に比して社會の富が著しく不均衡に低下し「一方の極に資本の蓄積と他方の極に貧困の蓄積」が希る可き狀態にまで發展して、國民の多くが人たるに値する生活を維持する事が出來ず、國民の生活水準に應ずる獨立住居の存在が正に危機に直面している場合には、家事勞働の多くの部分を社會化して婦人を家事勞働の重壓から解放しなければならない事は必然である。

家事勞働は極めて種々雜多であるが、歷史的に婦人の肩に負わされている炊事、裁縫、洗濯、掃除、育兒等の勞働がその根幹をなすものである。之等の勞働は之を勞働の强度からみる時は多くのものはエネルギー代謝率2以下の輕勞働に屬し、僅かに洗濯、その他水道のない場合の水汲み等の勞働が中等勞働に屬し、掃除も稍々勞働强度の高い部門に屬するに過ぎず、婦人の家事勞働からの解放はそれに拘束されている時間の長さが主として問題にならねばならない。從つて家政に拘束される時間の短縮が當面家事勞働の合理化の目標であり、この爲には炊事、洗濯、裁縫等の家事勞働を社會化、共同化する方向に進む事が必要である。殊に日本の樣に一般に國民の生活程度が低く社會的な公共施設の殆んど發達しなかつた國に於てはこの種の家庭內勞働の社會化が第一に實施されなければ眞實の住い方の進步は期待し得られないと考える。

勿論、都市住宅の構造、型式はその國の氣候風土、資材關係、經濟狀況に依つて相違するであろうが、耐火耐震、土地の集散的利用、家事勞働の社會化、共同化等の見地からみれば、不燃高層の集團化、共同化住宅の方向が基本的なものである事は殆んど異論のない所であろう。そしてこの際住宅の集團共同化に當つては常に炊事、洗濯、裁縫等の家庭內勞働を社會化し更に託兒、哺育の勞働を社會化共同化する事を原則として進まねばならぬ事は前述の通りである。我國に於ては家庭生活の消費的部面の社會化、共同化はむしろその後に行わる可き問題と考える。

既設の住宅に對してもこの方向に向つて社會的な公共施設の充實を計る事が必要である。既婚の勞働婦人を惱ましているものの一つは育兒の問題である。

地域的に考慮して託兒哺育施設を充實し、又之等の指導は各地區の保健所の强力な協働が期待される。之等の問題は決して理想の問題ではなくて引揚者、戰災者、勞働組合、市民、科學技術者等のあらゆる民主的な團體の組織的な運動によつて規定の問題として解決して行かなければならぬ。

次に住宅の間取りをどうするかの問題も又家事勞働の合理化に密接な關係をもつている。家事勞働の主要な部分が臺所で行われるとしても、單なる臺所設備の合理化は家事勞働合理化の一技術的部門に過ぎない。根本的には家庭生活を秩序化、組織化する樣に間取りを計畫し、その基礎の上に初めて臺所設備の合理化が問題となるのである。間取りに對する根本的な態度は既に屢々主張されている如く、食寢分離獨立を一つの基礎にしなければならないと考える。更に個人生活確立する爲にその基本的も場所である寢室に對する考えを明確にする事が重要である。近代人の個性の自覺は封建社會以後に於いて個人の寢室が確立されて初めて明確になつたと言われているが、我國の如く封建性の極めて濃厚な國に於いては寢室に對する考えを根本的に變革する事が極めて大切であると考える。

この樣に住宅內に於ける個人の生活を尊重し、更に家族と言う近親者の小集團の共同の生活の場を明確にする事に依つて初めて家庭生活に秩序と組織を與える事が出來る。この秩序と組織の上に主婦の家事勞働も圓滑に運營され、その質的向上も期待出來るのである。

更に農家の主婦は都市生活者の主婦に比して家事勞働時間が一般に稍々短い。之は一般の豫想に反する如くであるが、一つには農村生活の簡略さにもよるのであるが、他面、農家の主婦が農業勞働者として生產的勞働に從事する爲に家事勞働が犧牲にされ、家事勞働の時間が農業勞働時間に轉換され、家事勞働の時間が必要の最小限度にまで壓縮されているのである。從つて農家の主婦の家事勞働の內容は豊かなものとする爲には、託兒哺育施設、醫療施設その他の社會的施設を充實する事が刻下の急務であり、農村民主化もこうした方面から着實に發展し得るものと信ずる。

以上の如く家事勞働の合理化の根幹は主として

婦人の肩に歴史的に負わされて來た家庭内勞働の社會化に求められるのであるが、從來の常識ではかかる場合にはもはや家庭は消滅して了うのではないかとおそれられる。併しこの場合に考えられている家庭とは「個人的台所と洗濯場とちらかし放しの子供部屋とが家庭の主要な内容である」からで、之等の私的勞働を家庭の外に追放する事によつて初めて家庭は純粹に人間同志の精神的活動の場所としてその本性を取戻すのである。

それにも不拘、日本では未だ封建的な家族制度が大きく家庭生活の上にのしかかつているため婦人の社會的地位が低く、この結果、家事勞働の合理的な節約が個人によつても社會によつても考えられず、依然として古い姿のままの家庭生活がみじめに續いているのが今日の現狀である。之は働く者の著しい低賃銀の結果、家事勞働の合理的節約のための機械の發明が家庭内えの普及をさまたげ、家事勞働を合理化する爲の社會的施設や國家の政策も生れて來ないのである。ここに吾々は政治と家庭とを結ぶ綱の本質をはつきりとみきわめねばならぬ。

以上に於いて私は家事勞働合理化の基本的な問題に就いて若干の考察を加えてみたのであるが、更に具體的な事項としては當面改善されねばならない技術的な部面も少くない。その第一に擧げられるものは家事用器具の合理化、並に家事の勞働方法の改善である。

勞働が合理的になされる爲には勞働用器具が夫々の勞働に適應して作られねばならぬ。炊事、裁縫、洗濯、掃除、育兒等の各分野に於ける家庭用器具が材料、構造、形の點で夫々の勞働の目的によく合致して作られ、時間と勞働の節約に役立たさねばならぬ。種々雜多な家庭用器具が營利的にのみ作られている現狀に對して、技術者の積極的な指導と研究が期待される。

更に上記の家事用器具の合理化と關連して勞働方法の合理化が問題になる。家事勞働に際しては正しい勞働の技術を用いる事が大切である。殊に台所の仕事は家事用器具が適切であると共に、勞働方法の點では勞働の姿勢が正しくなければならぬ。現在台所の仕事が殆んど習慣のままに續けられて勞働姿勢に就いての改善は全くなされていない。體位とエネルギー消費の關係に於いて一言すれば、樂に横になつている時に對して坐位は4%のエネルギーが餘計に要る。立位は更に12%の増加、かゞんで仕事をする姿勢であるとエネルギー消費は55%の増加になる。日本の婦人の勞働姿勢にはかがんでやる仕事が實に多い。之は日本の婦人に非常に多くの勞力の浪費を強いているもので、早急に改善する必要がある。

勿論、勞働姿勢の改善は單に主婦を指導する事によつてだけでは達せられない。之にはこの勞働生理學的原則が台所の構造や設備の改善に應用されて初めて勞働方法の合理化が可能となる。台所の構造や設備に對して主婦勞働えの理解が殆んど見られないのは遺憾である。之等に對しては科學と技術の協働が切望される。

その他、家事の機械化の問題がある。從來家事の合理化が叫ばれたのは多くは家庭内えのガス、電氣、蒸氣の應用である。併しかかる考えは深く反省されねばならぬ。家事勞働の合理化は現實の日本の家庭生活の不健康、非能率的な部面を自然科學的並に社會科學的に分析して初めて行わる可きで、家事勞働の合理化の本質は家事用器具の合理化に重點があるのでもなく、又器具や機械の利用に結びついたエネルギーの經濟的活用に問題があるのでもない。それらは何れも家事勞働合理化問題解決の一部分に過ぎず、之等の技術的部面のみが語られる時、それは家事勞働合理化の生物主義と言わざるを得ない。

(1950.1.31)

(筆者・生活科學研究所環境科技師)

建築寫眞

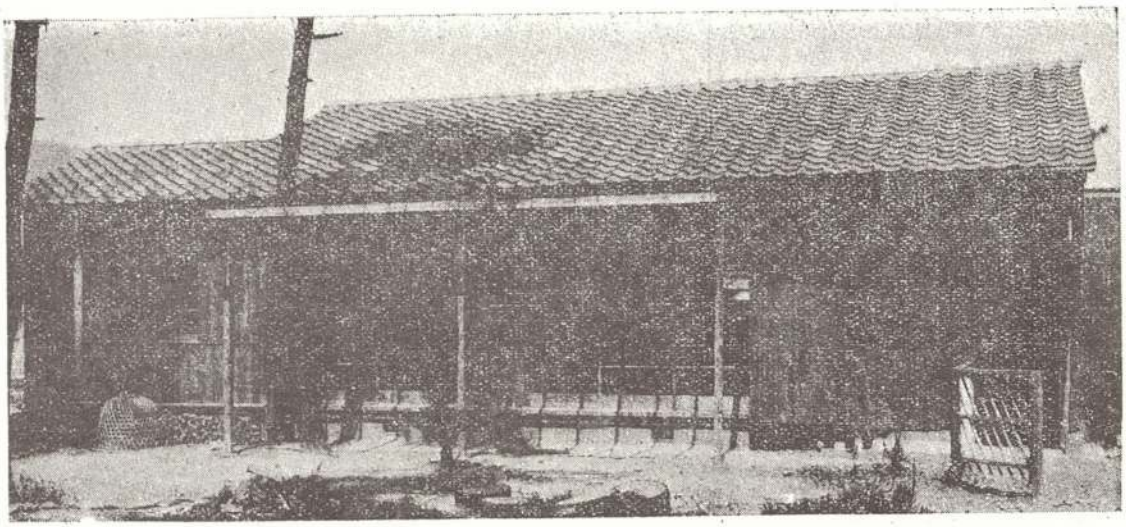
日本建築協會御用命

ユニバース寫眞工藝社

森　庄次郎

大阪市南區笠屋町四番地

電話南㉕0240番



我が住居を語る

訪問記

そぞろ小雨ふる小春を思わせる今日、大阪より電車にて約20分、バツクにカブト山から六甲連山を眺望出來るまことに絶好、快適地なる夙川驛の東、松のある高台に豫てから建築に深く關心を持たれ且つ御自身でプランニングをされ建てられた新居にお住いになつていられる大阪市立大學經濟學部教授西川清治氏宅を訪問し、一年間に於ける住宅に對する感想や種々の御意見を拜聽した。

特に御夫人は、かつての心齋橋の婦人建築工藝研究所の御出身でこの道の專門家でおられます。先づ常に家庭にあつて、住宅設備に接せられていられる奥樣に、主婦の立場からの御話を伺うことにした。

——本日は折角お休みの處御邪魔致し恐縮です。扨、現在の新居にお移りになられてこの一年間に於ける種々御氣付になられた事について御感想や御意見をお願いしたいと思つております。では最初に現在の場所をお選びになつた理由は

答　「交通の便と山手を希望し又子供の通學の事をも考慮しました。學校がこの近くにあるものですから。」

——現在の家を建てられるに際して、設計、造作等に特に御注文を出されましたか？

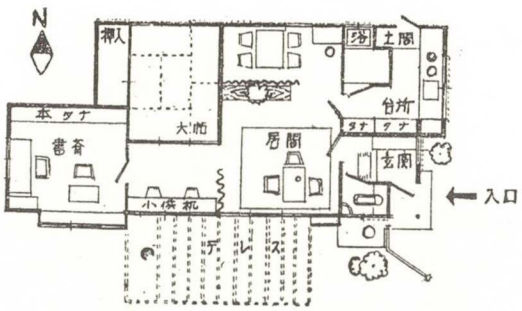
答　「間取丈のプランニングを造り、後は廣瀬樣にお願いしたのです。當時の坪數は15坪以内に制限されていた爲に、充分の配置は出來なかつたのです。子供室も考えておつたのですが主人の書齋を充分をにとるために出來なかつたのです。圖面の子供机の處をとりあえずあてております。」

——將來御子達が大きくなられた場合の間取はどういう具合におとりになりますか？

答　「現在の間取りでは子供室としての場所がありませんので、建て增しをしなければならないと思つております。」

——御自身で大體のプランをもつて建てられたのですが、實際お住いになつてみられての御感想は如何ですか？

答　「まあ自分でプランをたてて出來た家なので不足は言えません。併し最初の案では天井裏を使うなど實質的な考えもあつたのですが、急いだのと建て方の都合で出來なかつたのです。台所等も裏へもつてゆきもつと擴げる積りでしたが、坪數の關係で出來なかつたのです。が、間取に對して



は別に不便を感じません。只矢張、寢室として和室6疊を充てておりますのが少し不便です。8疊位はほしいです。それも制限一杯でとつた爲に餘裕がなかつたのです。敷地としては200坪位ありますので將來は少し餘裕をとりたく思つております。」

——洋式を採り入れられておられますが和室に住まわれていた時との比較といいますか、實生活における感じは如何ですか。

答　「大變能率的です。和室の時の起居動作が省ける丈でも活動的に動けるからです。又ほこりが餘り立たず、掃除も簡單にすみ衛生的で、子供の育成上にも大變よいと思つております。疊の間が一つ丈ですが別に懷しいとも思いません。將來は寢室もベツト式にしてもよいと思つております。始めは考えていたのですが、家具や設備の關係で實現しなかつたのです。」

——若しベツドにすれば押し入れ等は？

答　「ベツドにすれば押し入れは要らないと思いますが、押し入れとしてより家具として考えたらよいと思います。まだ疊の上での休息なので、現在押入れは寢具のみに使用しています。併し寢具を入れないとすると現在の押入れは深いと思います。大體日本の押入れは皆深いのですが。淺くして棚を造れば實用的だと思つております。家具も住宅の一つとして考え、建築の場合一緒に設計したらよいと思います。大工さん達に建具、家具等を造つて貰うとしまつたりしまらなかつたりする場合があります。」

——洋式ですと椅子に腰をかける事が多いのですが、この椅子等は大變深いですが、特別に考案されたのですか？

答　「一泊等の來客のあつた場合、寢台代りに使えるのと又座布團をのせる爲にそうしたのです。」

——テレスに面した戸が全部ガラス張りにしてありますが？

答　「それは明りを充分採り入れる爲に總ガラスにしたのですが、夏は日中太陽が差し込むので、テレスの上にヨシズをかけますが、近くカーテンを張らうと思つております。その戸も普通の日本障子をガラス張りにした丈なのです。書齋のドアーが內側になつていますので開け閉めの場合部屋の勝手が違い不便に感ずることがあります。又材質がよくない爲か板がそつて來ました。」

——寒暑に對する暖冷房とかの設備に對しては？

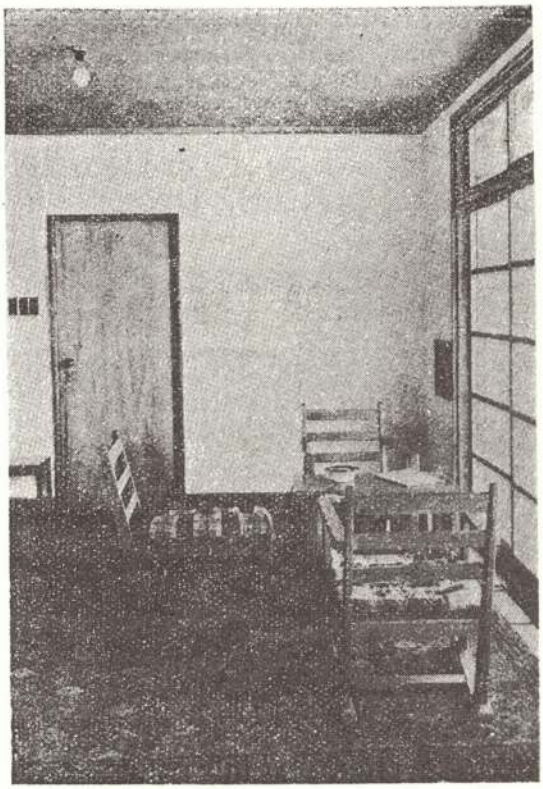
答　「冬は現在リヴイング・ルームにあるストーブ丈で充分家中が溫ります。只先も申しました様にテレスに面した戸は洋式でなく三本溝の日本式なので僅かですが隙間風が入ることもあります。戸や窓からの隙間風は大した事はないのですが、和室の天井から風が多く入つて來ますのには困つています。和室6疊は中央の半疊を掘り込み爐の様にしてあり、炬燵代用にもなりますので充分暖をとれます。和風の建物もオンドル式等を採り入れたらよいと思います。床下丈で現在の住宅ですと充分溫まります。將來は電熱式も考えられぬことはないと思います。」

——オンドル式の様に床下を溫めるのもよいですが、壁等を厚くしてその中に暖氣を通される事もよいと思いますが？

答　「現在の日本家屋で厚壁にしますとその中を鼠が走るので困ります。この家も以前はおつたのですが、猫を飼つたり、ケラバの空氣抜きに網をはりましたので出なくなりました。」

——鼠と大いに緣の深い台所の設備に關しては？

答　「別に之といつた意見もありませんが、最初はガスが引けるかどうか判らないので、ガス設備の設計なしにしまして、電熱七輪の設計をして木炭と兩方使つていたのですが、最近はガスも出る様になりガス設備に變えましたが、最初からガス設備にしておけばもつとよかつたと思つております。レンヂの場所等もとつておけばと思つています。只浴室、台所、玄關、便所等は居間に間取を充分にとつた爲坪數の關係上小さく纏めましたが



そう不便は感じません。」

——玄關の傍に便所がありますが、來客の時臭氣等にお困りになる様な事はありませんか？

答　「別に不便や困つた事はありません。空氣抜きとしては窓丈ですが、別に臭氣のもれる様な事もありませんので。」

——浴室に對しては？

答　「バルベツトの關係でしようか、內部が大變暗いのです。それは最初の豫定では台所を廊下にする積りだつたので、浴室の入口上部に廊下と內部との兩方の明りとして兩面バルベツトをつけた爲だと思つております。又浴室に空氣抜けでなく、窓丈なので少し困る事があります。ベンチレーターをつけられればと思つているのですが。」

——そうですね、浴室の明り等は直接照明にされるか、電球を大きくしてグローブ等を使われたらよいと思います。では少し話題をかえまして住という基礎の上に立つ主婦の立場からの衣食の問題に移りますが、現在のお住いで和服を着て仕事をされる場合、活發に動けないという様な事はありませんか？

答　「はあ別に、私は平生もズツと洋服でおりまして、和服を着る事はあまりありませんが、和服の時でも洋服の場合も同樣大して變りはありません。今まで日本の言語が複雜であつた樣に服裝も一般に複雜でしたが、この度漢字が制限されました樣に、衣服も單純化されなければと思います。和服にしても洋服にしてもそんなに澤山いらないと思います。」

——私、洋裁をされる場合には、洋裁はまあ机で出來ますが和裁の場合は如何されますか？

答　「實際に仕事机を置いてそこで和、洋裁共するのですが最近は殆ど洋服生活で和裁をしませんので別に不便は感じません。只和裁の場合大きく擴げたり、疲具の手入れ等の時は和室を使います。

——では次に食問題と住居問題について。最近は粉食が多くなつて參りましたが、それについて？

答　「パン食等にしますと副食丈ですみますので大いに樂です。普通の料理も調理の仕方で簡單になり、厨房の設備も變わつて來ると思います。又食器や台所器具類も大いに關係があり改善されなければいけないと思います。標準食器等が作られたらよいと思います。」

——竹製の器具等も作られ、簡單なものではスプーン、フオーク等も我々日常使つておるのですが、同製品について何か御意見は？

答　「竹製品はそつたり、又腐つて來たりしますので厨房器具として使用するのには今一つ改良の餘地があると思います。例えばプラスチツクを竹に加工するとか、オールプラスチツク製にする事が出來ればよいと思つているのですが。又硝子製の鍋等が出來ればと思つています。器具その儘食卓に出しても體裁の惡くない樣なものも出來てくればと思つてみたりします。結局、食生活の變遷により厨房、食器具類も改善され、主婦の生活活動の無駄を省き、能率的にはり且又住居も明るくなると思つています。」

——色々と多方面に亘り御話を承りましたが、その他に何か御意見でもありましたらお願いします。

答　「家というものは衣、食、住が最も深く關連

し、住宅と衣、食がバラバラでは困ります。能率的に調和をとり、衣服の改善、食事の方法もかえてゆかねばうそだと思います。三者を一致させ、先にのべた理想といいますか、それを實現させるのには國家全體が經濟的に豊になり、バランスがとれなければ難しいと思つております。」

——御忙しい中を大變長い間有難うございました。先生にも御意見を伺いたいのですが如何でしようか。（ここで先生に出て來て頂く）御休息中の處誠に恐縮ですが、御感想なり御意見をお願い致します。

答　「自分が大體のプランを立てたのでこれと云つて格別にとり立てて言う事もないのですが、當時の條件の枠内では成功したと思つています。空氣と太陽が充分に採り入れられるので愉快に暮していまます。しかし理想的なものを建てようと思えば30坪以内では無理ですね、と云つてもそれ以上は經濟的問題も大きく響いてくる事になりますが。」

——以前から洋式を採り入れられていたのですか？

答　「いや、以前は書齋だけでした。矢張り和室より洋間の方がよいですね。現在の家も全部洋間にしてもよかつたと思つています。併し現在の日本の大工は僕らの考えを充分生かさないので困りました。センスが違うのですね。とに角住宅の改善に對しても一般に關心が薄いですね。一般の人々が關心をもたなければ復興改善も出來ません。その改善も政治的、經濟的な問題から論ぜられなければなりません。技術的な面丈では單なる空論におわつてしまいます。又制限が緩和されましたが大した影響もないと思つています。」

——色々と有難うございました。今のお話の政治的經濟的と住宅問題に關してもつと御伺いしたいのですが時間もありませんので、御多忙中御手數ですが廣く世間の人々の知識を啓蒙する爲に御執筆をお願いします。

◇　◇　◇

執筆の件御承諾願い先生の家を辭した。小雨もいつしか止み、そぞろ寒くなつた如月の六甲颪を背に受けつゝ、暮れなむとする線路側の小道を東えと大阪に向つた。（2月12日文責記者）

●　●　●

先生にお願いした原稿が早速頂けたので、次に掲載する事にした。

住宅問題と講和問題

西川清治

われわれの住宅と政治、とくに講和問題との關係といえば、「春風や吹いてよろこぶ指物師」という諺のような牽強附會または我田引水の印象をあたえるかも知れない。しかし凡そ人間社會の一切のことがらは、複雑かつ間接的で常識や肉眼では一寸わかりにくいが、少くとも客觀的に存在しており科學によつて精密に檢證されうるという限りでは、自然法則と異らない必然的な社會法則によつて支配されており、春風と指物師との間の見えないが、しかも嚴然と存在している因果關係を看過しては、天にむかつて痰をはくのと同樣に、社會法則という見えざる手によつて報いをうけざるをえないということを强調し度い。しかもこの社會法則と自然法則乃至は技術的關係とは、現實には互いにからみ合い不可分の一體をなしている。だから今日の住宅問題も敗戰後の日本の現情の下で、資材があるとかないとか或いは高いとか安くなつたとか、乃至は純技術的にどんな間取りでどういう構造と材料が適當であり、制限はどれだけ緩和されたか、といつたことだけでは話は片附かない。かような意味から社會經濟的關係およびそれの集中的表現としての政治との關聯において、若干當面の住宅問題をとり上げようと思う。

ところで現在日本の國民、とくに無產勤勞者および堅氣の中產階級によつて最も切實な住宅の問題について、一面では職場や井戸ばた會議から市

會や國會に至るまで或いは徒らに嘆き或いは當面の無策を難じ、他面では敗戰後の日本の現情を諦觀するかのごとく十坪餘りのがたびしの簡易分讓住宅を策し或いは純技術的に如何にマツチ箱大の面積に人間を飼育する道具をつめこむかに腐心しているかのようである。わたくしは建築の專門家でないから茲で全く技術的な意味での住宅建築の理想を說かんとするものではないが、ただ專門家の理想も社會の經濟や政治との關聯を離れては實現されうべくもないし、またそれらの專門家が設計に際して少くとも當面全く動かしえない前提と考えている諸條件は政治の力で變更を加えうるし、またこれを是非とも堅實に眞面目に働く者にとつてより好ましいものたらしめ、技術家にその本來の使命を果させねばならぬが、その方法について一言する。例えば戰後の建築技術家の貴い努力の大なる部分が、政府補給金の橫流しによるダンスホールや料飮店、建築制限法規おかまいなしの闇利得者および會社利潤隱匿の爲の軍役の邸宅の建築に向けられ、一般國民には現在では法的制限は殆んど撤廢に近く、建築費は日々に下落するも、なお燒跡は一向に減らず、依然として相住いかトタン屋根に甘んぜざるを得ず、せいぜい「時代に相應しい」と銘打つた謂ゆるアプレ・ゲールの設計と建築にありつけばよい方である情勢は周知の所である。だがこの情態、この條件は運命的なものではない。問題は經濟と政治にある。戰爭終結後五年の今日なお國民に依然として住宅難と戰後派的住宅プランを餘儀なからしめているのは、その間における反人民的な政治と大資本本位の復興方策にあつたのである。

いかに戰爭による損害が大であつたとは言え、終戰當時なお莫大な軍保有物資が存在したのであり、これを隱退藏と生産サボを助長するインフレ政策ではなくて、正しく活用したならばすでに日本の復興に大いに役立つたであろうし、またインフレによる實質賃銀の切下げと物價の釣り上げ、地主溫存の農地改革と低米價强制供出並びに反人民的な大財政を賄うための重稅、さらに外資導入の前提としての集中生産と中小企業の崩壞ならびに賣國的貿易政策による米國からの恐慌の輸入がなかつたならば、今日の如き滯貨と金詰りおよび國民の大多數の窮乏は見られなかつたであろう。同樣に住宅問題についても、少くても今月まではまづ第一に遊休大邸宅の戰災者及び勤勞者えの解放を怠り、不急不生產的施設のみが優先的に建てられ、日本の復興再建を双肩に擔う勤勞階級のための住宅施策は獨占資本に對する補助金や民主化に逆行する彈壓費等のために切りすてられ、建築技術者は徒らにプチ・ブル的な住の理想プランを夢想するか、或いは現在與えられている諸條件を絕對に不動のものとして心ならずも量質共に貧弱な設計に甘んじている。しかしながらこの樣な狀態は敗戰國として全くやむを得なかつたのでは必ずしもなく、また建築技術家も單に專門家として自己の領域を墨守し、所與の社會的諸條件の埒內で純技術に問題を處理することに局限すべきではない。これらの專門技術家も自己の狹い殼を破り、眼を經濟と政治にも向け、現在設計の前提となれる諸條件の枠そのものを擴げることに何等かの努力を拂われることは、良識ある健全な專門家の責務である。こう考えれば、日本の現在の住宅問題と住宅設計には、戰後および將來のわが國の政治經濟が不可分の關係にあり、技術家並びに需要家も積極的に、正しく、明るい希望を以つて、住の問題に對しても社會的觀念から何らかの政治的行動にでられることを願つてやまない。

およそ生產が人間のためのものであると同樣に、住宅は人間の生活上の一機能を擔當するものたることは言うまでもない。だが現實はどうだろう。大衆の窮乏をしらぬげに徒らに貿易にも國內にも賣れぬ商品を生產し第二次大戰の餘燼なお消えやらぬ間にはやくも不生產的な軍需生產に色眼をつかいはじめている。住宅不足を尻目に有りもしない來客のために平常閉め切つた客間を確保し、床の間を飾り數人の女中を廊下の艷出しに奉仕せしめる封建的愚劣さもさることながら、低賃銀ベースで食うや食わずの住宅妄者には高い家賃の惡質公營住宅も建築制限の撤廢も何のかわりがあろう。また日本の國土がいかに狹隘であり、天然資源に惠まれず、さらに戰災を被つた上に人口が多かろうと、一應の建築技術家ともあろうものがクロス・ワード・パズルや二十のとびらもどきに僅か五、六坪の內に居間・應接・食堂・台所・玄

關・便所・風呂をはめこんだり、十坪前後に四、五人家族を航空食料よろしく壓縮するのに憂目をやつすのは、技術の冒瀆であり日本の恥辱である。贅肉と虚飾を去つた、實用的經濟的な、機能主義の住宅設計とはこんなものを言うのではないだろう。問題は技術家と雖も社會的諸條件を向上することをも同時に顧慮すべきであり、要は經濟と政治にも何程かの認識をもつべきである。でなければ限られた社會的諸條件のもとで技術を濱すことに甘んぜねばならないだけではなく、まがりなりにも出來た復興住宅を再び戰後の危險の前にさらさねばならないであろう。

昨年來の平和擁護運動が示しているように、日本は再び戰爭か平和かの岐路に立たされており、おそらく1950年の政治問題は講和の問題に集中されるであろう。戰後の日本の反人民的な復興方策ならびに戰爭中に醸成された新たな世界經濟の矛盾と對立の激化それ自身戰爭への危險を藏しているが、最近新たに顯著となつた恐慌に伴う滯貨の累增・貿易の不振・諸列强の對立は國際獨占資本をして軍需生産に矛盾の捌け口を求めることを餘儀なからしめている。これと關聯してわが國でも全面講和か單獨講和かが問題となり、さらに後者の一形態としてのなしくづし講和或いは戰爭終結宣言の上での日本の軍事基地化が論ぜられている。そして世界の强國を含む全面講和以外の講和方式は、その名稱はどうであれすべて逆說的に日本が再び戰亂の渦中に巻きこまれる危險を胎むものであり、住宅はおろか人命までも風前の燈火の情態におとしいれる可能性は否定しえないものとする。ところでわが國はポツダム宣言の存在を前提として大平洋戰爭に無條件降服したが、そこには講和の曉には進駐軍の撤退が明記されてあり、さらにこの宣言の精神にもとづいて新憲法には明かに戰爭抛棄が民主化と並んでうたわれている。われわれの進むべき路はすべに明かである。問題は外交上のゼネチユアとジヤーナリズムの雜音に妨げられることなく、行動においてポツダム宣言と新憲法の原則を貫徹するのみである。かくして始めて日本の平和、自由獨立が確保されうるわけであり、これはあらゆる日本人の當面の最大の責務であり、數年前の誤を再び繰り返すのを避ける唯一の道である。この點については建築技術家と雖も例外をなすものではなく、かくしてのみ技術家もその本來の使命を全うしうるのである。如何に紳技術的に名人藝の持主であろうと、再び戰爭に協力するごときものは日本民族の敵であり、無きに如かずと言わざるを得ない。かように講和問題にも正しき認識をもち、民主的な日本經濟復興の一環として、技術的にも住宅問題の解決に盡力されることこそ今日の日本の建築家の喫緊の課題である。かかる意味からあえて講和問題を住宅問題に關聯せしめて若干の所見を述べた譯である。

蠅　の　觸　手

日本の所謂、「文化住宅」はモダニズムに汚された日本のものゝようである。「文化」の二字は「文明開化」という文字を壓縮したものだそうである。左樣な一說がある。それはともかく、日本のその文化住宅の便所を覗いて見給え。糞槽にはカヴーがない。「文化」も日本の便所だけにはその觸手を伸ばせなかつたらしい。

その結果、蠅の觸手に對して日本人を非常に勇敢にした。

（「外人の見た日本」より）

理想的床材料
リノリユーム　リノタイル
特製リノリユーム糊
東洋リノリユーム株式會社
本社・工場　兵庫縣伊丹市伊丹五五八　電話伊丹1・51・69
大阪事務所　大阪市東區瓦町二丁目三和ビル　電話北濱375・376番
東京支店　東京都中央區銀座四丁目三和ビル　電話京橋1701・2564番



これからの婦人の服裝と住宅



河　合　玲

先日T夫人を圍む、アメリカ歸朝座談會の席でたまたま話が服裝のことについてはづんだ際に、ある人が

「一體むこうの方は、きものを賞めますが、きものの本當のよさを認めてのことでせうか」との問に「私のきもの姿を見て『きものは流行がなくて、うらやましいですね』と云われましたよ」

との返事を受けて、皆も成程、そんな見方もあつたかと、笑い合つたことでした。

◇流行は近代人の病氣

「きものは流行がなくてよい」と羨むアメリカ人の心も知らず、「洋服の流行がこんなに烈しくなければよいのに」と嘆きながらも、街を歩けば色々美しい布地の山と、スタイルブツクから脫け出たかと思うばかりのニュースタイルの女性が繁亂していて、美しく飾り度い、新らしい流行を取り入れたいと希ふ婦人心理がひしめき合つている有樣です。西洋的なものに對する憧れと、東洋的な長い歷史と共に、身につき育つて來た習慣との板挟になつて、幾多の矛盾を含みながら、あえぎあえぎ押し流されて行こうとしているのが現狀ではないでせうか。この點では、現在の服裝と住居の問題は一致しているように見受けられます。

人間の生活の合理化されてゆくことは大變喜ばしい事です。朝から晩まで仕事ノ仕事ノの連續で、オフイスから家庭え歸れば、住いは規格化された集合住宅、そこではボタンを押せば湯が沸き、カロリーの豊富な食事が見る間に整い、山積する洗濯物は何の苦もなく處理出來、健康に適した、しかも美しい衣服を着て家具は自由な姿勢に從つて寸法が定められている。便利で清潔な家がある。無駄なもの、冗長なものは、地上から姿を消し、そこには秩序と調和が保たれている。これが都會人の歡迎する生活なのでせう。然し、これが果して人間生活の最大の理想なのでしようか。

こんな話があります。フランスの有名な畫家ポールゴーガンが初めて太平洋の孤島タヒチを訪れた時、熱帶の風物に溶け込んだ生活を營む半裸のタヒチ人に、非常な愛着を感じて、素晴らしい繪を畫いて世界に紹介しました。その後年々タヒチ島を訪れる歐洲の旅行者が增し、次第に道路は舖裝され、一流ホテルが建ち並び、レストランではニューヨークと同じアイスクリームが食べられるようになりました。ところが、見物の目的であるタヒチらしい雰圍氣は何時の間にか消えてゆくのでした。そして單に暑い暑いニューヨークの延長都市が生れようとしているのです。この樣な例は世界中到る所で見受けられます。これを文化的進歩だと云ふのでしようか。

環境に適した生活とは、無理なく自然に即した生活を意味しているのだとは知りながら、人爲的に事を運ぼうとするのが、近代人の病氣のようです。然しそこには、やむにやまれない時代性が、私達を押し流してゆくのを感じます。

◇服裝の時代性

服裝は時代の鏡だと云われています。その時代時代の思想や環境を鋭く反影して、時代と共に生き、刻々に變化してゆきます。幾ら素晴らしいアイデイアを服裝に盛り込んでも、それが時代に生きている人達の氣持にぴつたりと合わなければ受け入れられません。流行は突序として起るものではなく、そこには何か時代の心理を摑み、時代の生活樣式に即していると云う風な原因があつて次第に世人の關心を高めてゆくものです。然し時代美は絕體のものではなく、歷史として殊に客觀的に眺めた時、私達は批評も出來るでしよう。かつ

て美しかつたものが、後には美しくないと思われる場合もよくあるものです。その反對もあり得ましよう。美人だつて瓜實顔で柳腰を禮讃した浮世繪時代と、スポーテイで張り切つた姿態を理想とする近代美の感覺の變化があり、これは當然服裝にも關連して參ります。長い袂に、巾廣い帶を結び內輪に歩む姿を、本當に理解してくれないと文句を云うことが出來ましようか。それは珍らしい故にエキゾチツクなものに對する賞讃ではあるでしよう。ギリシヤ時代にはギリシヤ時代の美の表現があり平安朝時代には平安朝文化に生きた美しい十二單衣の姫姿があつたのです。

近頃のように混雜した乘物に搖れ、限られた時間內で事を處理してゆかねばならない生活をしている人達にとつて、服裝も又機能を第一と考えねばなりません。身動きも出來ない程大きな衣服を纏つて、人間を尊大に見せようとした時代は過ぎました。急ぎ足に歩むことの出來る裾仕末、手を上げても引張れない袖の構造、身體を壓迫しない自然な姿態から、着用者の內面的な氣持のありようをも、服裝という手段を借りて、表現している美意識、これらのものが渾然として、にじみ出て來る服裝を求めるのです。

◇和裝美と洋裝美

行きづりに見た中年婦人の粹な和服姿に足を止める私達です。和裝は祖先の殘してくれた傳統の結晶としてそっとしておきたいと希うのは私ばかりではないと思います。むしろ和服と洋服との二樣式を着こなし得る私共は、少くとも洋服のみを着ている人達をよりも複雜で味のある變化に富んだ衣服文化を持つていることに一種の誇りを感じます。私達がこの土地に住む限り影も形もなくなるとは考えられません。むしろこの樣な世界に類のない民族衣服は保護され殘されてゆくべく努力する必要がありましよう。然し若い世代の者達にとつて和裝の魅力は、母や祖母が感じたと同じものではないと思います。常に洋裝を着て活動的な生活に慣れた私達にとつて、それは餘りに用の美を缺いた衣服なのです。着物そのものが、美しく飾られ見る物として存在し、これを人が着てその人と溶け込み、着物が背景となるには盛澤山過る



場合がよくあります。洋裝はその點、服は地味で胸えから美しいブラウスをのぞかせたり、衿飾りを附けたりしてアクセントをつけます、日本の着物も又、布地そのものの美しさより、例へ着物としては未完成であつても着こなしによつて、着用者と云う主題に對する、背景としてあつかう程の、洗練が今後もなお生きてゆくのではないかと思います。

きものをモーフとしたナイトガウンはフランスでも人氣があります。物質の爲にあくせくせずにすむ時代がくれば、優美な姿を求めて和裝が憧れの的になるかも知れません。

◇服裝美と個性（パーソナリテイ）

「姉は妹より派手な色の服裝をしては笑れますよ」と教えられた私達は、老人は黑つぽい澁い着物を、娘さんは黑いドレスを着てはふさわしくないと云つた觀念を持つておりました。五十歳になつても赤い服を平氣で着こなすアメリカ婦人を見て驚ろきます。服裝にもつと個性を盛つて、自由に使いこなせるようになりたいものです。

服裝に限らず個性の無視が精神文化の障碍となつていることは事實でしよう。藝術感覺を持つ婦人は、自己主張を持つていますから自然服裝も、「その人らしい」という感じを受けるものです。その人の印象が服裝を通じて一層深められます。それは服裝に彼女の個性が生きて動いているから

でしよう。一口に個性と云つても中々むつかしく、表面的なものでなく内面的な教養や經驗が、氣づかない程、自然な形になつて表現されねばなりません。優れたデザイナーは、素材として與えられた人のまず個性を捉え、導き出して形に表はします。この仕事は、彫刻家が粘土の素材に目鼻をつけては生命の息吹を吹き込むと同樣に、藝術的な喜びを感じさせるものです。又出來上つた服を着て、ある時は街を歩み、又の時は食事をする等の光景を思い浮べながら、鋏を持ち、針を置ぶのは樂しいものです。この樂しみは建築家の仕事にも當然見出し得るものでせう。

服裝美は、個性を尊重することによつて、……それは個人の生活環境との調和をも意味しているのですが……その特徴を摑み、助長すると一層効果的に生き生きとして參ります。そうすれば流行に取り殘されまいと氣をもむこともないでしよう。時の流行が、若し個性と相容れない場合は、個性の表現の妨げになる部分は捨て、助長させ役立つ所を取り入れて、流行の氣分を失わずに進んで行くことが出來ると思います。

◇住いと裝い

服裝の面で私達が思い切つた開拓を進めてゆこうとしても、その生活環境、特に住宅の問題が解決しなければなりません。ここにも服裝の時代性と同じ、住居の時代性についての惱みはあります。もともと和服は疊の生活に裏附けられた服裝ですが、私達の着ている洋服は歐米文化に裏附けられ發達したものです。日本の住宅は熱帶的であると云われています。冬の寒さよりも夏の濕度の高いむし暑さの方が、凌ぎ憎いからなのでしようが、この土地に發達し、今もなお生き長らえている理由は、一口に貧乏國だからと片附けられないものがあります。然し非能率的、非衛生的な國はどしどし改善されてゆかねばなりません。現代仕事を持つ殆どの男性が、背廣姿をし、過半數の女性が洋裝生活をしているのに比べて、住宅が餘り變化していないのは何か理由があるからでしようか。一軒の建築物が三十年から五十年もの生命を持つので、脫皮がおくれるとは考えられますものの、私など素人考えでしても、それは建築の仕事にたづさわつている人達が、時代の動向に對して鋭敏でない爲だと云いはしますまいか。と云うのも職人藝にたよる大工の手に寄つて殆んどの家は造られます。過去の樣式を捨てるのに勇敢でないこの人達は、日光を上手に取り込むことよりも、便利な臺所を造ることよりも、立派な床の間を造りたい人達だからです。こ[こでも住宅の近代化は、よきデザイナーを必要としています。

茶室の簡素さ、靜寂さを愛する私達に取つて、各部屋を壁とドアーで區切り、嵩い椅子とテーブルを置く、ことが最上の理想だとは思えません。

土地の氣候風土に適し、時代に生きる人達が要求する、便利さ、清潔さと、生活を樂しみ、くつろぐことの出來る新らしい住宅があると思います。

家庭の實生活に最も關係の深い、いや住宅そのものを自己の仕事場とする女性達が、服裝に對する關心と同じ位の關心を住宅にもそそいでゆくことが必要だと考えます。女性の住宅デザイナーがどしどしお仕事をする日を期待します。服裝も住宅の問題も、公衆の目を喜ばす爲に、自己の虛榮心を滿足させる爲に、取り上げるのでなく、自己を充實させる爲に研究してゆかねばならない問題だと思います。（昭和二十五年三月）

（筆者は京都府立女子專門學校講師
河合衣服專門學院長）

強くて優雅な
リグノイド床
テックス
フローリング
気光式通風器
責任施工
田辺工業有限會社
大阪市西区江戸堀上通一丁目五
電話土佐堀(44)2677

株式會社 矢橋大理石商店大阪出張所
大阪市東區高麗橋二丁目九野村ビル五階
電話土佐堀㊹3285番

小宮町市營鐵筋アパートに住んで

郡山千鶴子

私共は1949年10月18日に天王寺區小宮町にあるこの住宅に移りました。罹災以來の疎開生活で賣り拂い物に換え今は大してお金にならないガラクタと、家族6人の生活にはこれだけはなしにすまされない最小限の手廻り品だけでトラツク一台に積んでも、なお75歳の父と主人と幼い子供3人と私と6人が充分座れる場所が殘る程の荷物でした。しかし荷物の少いのが却つて簡單でサツパリして、みんなが乘り終つて自動車の上から今迄住んでいた住居や子供達の遊び場であつた山や池を眺めましたとき、この一台のトラツクが動き始めると永い不自由だつた他家え厄介になる疎開生活と奇麗に結末をつけて新らしい獨立した生活が始まるのだと思うと、泣き出したい程の感情の昂りを覺えるのでした。刈り殘りの稻穗が焰の樣に照り映えている田圃の中を一筋に走る國道を車が調子良く進んで行くと、丁度稻刈に出ていられた御近所の顏見知りの方々が、鉢卷きの手拭をとつて御辭儀をしたり若い人は手を振つて「左樣なら」「お元氣でね」と口口に挨拶される樣子が遠く近くに見え、主人の兩脇にかかえられる樣に座つていた上の男の子2人はいちいちその人達の名を呼んでは「さいなら」「さいなら」とのびあがつて聲を限りに叫んでいました。小春日和の大變おだやかな秋の日で私は三つなる末の女の子を膝にだいて、ここが一番らくなんだよと主人が作つて與れた運轉台の直ぐ後の蒲團包の上の席に座つていましたが、車の動搖に身を委せてついうとうとと眠つてしまつて主人に笑われました。然し氣苦勞と不便な永い間借生活の後で自分達だけの家が出來た安堵と喜び、それは心勞と疲れを肉體の節々からゆるめとかし流し去る快い眠りに、しらずしらず誘い込んで了うのです。この氣持は永い間家に苦勞した人、もつと嚴格に云えばそんな家庭の主婦でなければ判つて戴けないと思います。

1時間足らずで車が四階建の灰色の鐵筋住宅の前に止ると、子供達は高い建物を見上げて「ここがお家？」とおびえた樣に私に尋ねるのでした。水のない田舍の生活と水洗便所のあるコンクリートアパート。上の9歳の男の子も4年の間にすつかり水道を忘れて了い、3つになる末の女の子は水が壁から出るのを不思議がりました。これからお便所のあとでちやんと手を洗うのですよと教えると、水洗便所の水のほとばしりの中に手を入れて家中大笑いをしました。初めての夜電氣がつくと白い壁に映えて部屋の隅々迄明るく一時に眉の間が擴る樣な感じで、その晩はこの電燈の下で一家6人が心ばかりのお祝いを致しました。

この樣な轉宅の日の有樣を詳しく云いますのは、私が今住んでおります家のことをこれから述べますについて、私の幸福に反しこれ迄の私の樣になお家で苦しんでいられる多くの主婦の方々があることを思い、もつと眞劍に、もつと心の通つた住宅對策を政府なり府、市なりが建てねばならぬことを、又1日も早くそんな政府や府、市の成立することを希うからでございます。

私達は豊中で罹災した後、島根縣の山奥に1年、それからすつと寶塚の近くの村で轉々としていました。最近の2年間はある農家の離れ家にお世話になつておりましたが、その家は西側に緣があるだけで三方共通風採光の利かない大變濕氣の多い家でした。水も20米程離れた井戸からバケツで搬びカメで濾して使つていました。台所もなく、便所も屋外にありましたので妻は毎日の家事に心身共に疲れ、夜は子供のお便所に、特に雨の日は困り果てました。それでもこの家が疎開生活の3度の住いの內最良の家だつたのです。そんな生活から急にこちらえ參りました當座はお恥しい

ことですが水が出ると云つては嬉び、電燈が便所、洗面所など5燈もあると云つては有難がり、便所の清潔なのに、台所の便利なのに、果ては市場や風呂が近いの迄うれしくて、宛で醉つた様で何故こんなに住み心持の良いのか一つ一つ別けて考えることなぞとても出來ませんでした。既に3ケ月餘り經ちました今は少し氣が落ちつい來ましたが、まだこの天國の不平を申し上げる程住み慣れてもいませんし、又本當に家の住心地を話すならば夏冬を越して見なければなりませんが、強つてのお話ですので10月から1月迄の3月間住んだだけの經驗の淺い感想を思いつく儘述べて見ましよう。なお私共は父（75歳）主人（39歳）公吏、私（29歳）無職、長男（9歳）次男（6歳）長女（3歳）の6人家族です。

先づこの住宅の良い所を大ざつぱに申しますと**耐震、耐火、對盜難であること。**これは日常生活の能率には直接關係はありませんが、生活に安定感を與え意識するしないに拘らず精神的に支柱になつております。戰災の經驗はあつても、未だ1度も震災火災盜難を受けたことの無い私達ですから、そのどれかの厄にあつた人にはこの點大きなプラスであると思います。全體がガツチリしていて少々の事にビクともしませんし、隣家の聲も音も振動も感じません。雨風が強く吹いても家は音ひとつ立てず靜まり返り勿論揺れもしません。雨洩りの心配もなく、木造家屋ですと強い風が吹く場合は疊のすき間や壁のすきから何處となく風が洩れるものですがそんな事は一切ありません。それから玄關のスチールドアーを掛けて置けば盜難の心配はありません。勿論ガラス障子を破つて窓から這入る事は出來ますけれども、建物が長方形でかくれ場所がなく遊んでいる子供と隣りの棟からお互に見通しであることがこの上ない看視の役を果します。今迄屋上の干物の盜難はありましたが木造住宅集團には避けられない空巢の被害は1件もありませんでした。

社交性と獨立性を自由に調節出來ること。社交的な人と孤獨を好む人と夫々個性がありますが、その人の好む處によつてどうなりとも自在な生活態度をとることが出來ます。社交的な人でも時としては近所づき合いのわずらわしさを感じるものですが、此處にいれば4階迄の兩側8軒のお宅と交際することも自由なら、スチールドアーを締め切ることによつて好きな時に完全な靜けさを取戻すことも出來ます。これは木造獨立家屋の場合は相互協同による生活の關連の面が多いし、又木造アパートの場合は隣室の響、氣配に影響され殊に廊下台所、便所などが共同の場合にはそう云う場での付合もあつて仲々得られるものではないと思います。

濕氣が無いこと。私達は1階に住んでおりますので2階以上よりも地表に近いだけに最も濕氣の多いはずですが、部屋中どんな隅迄濕氣はなく台所の隅々も自分でこぼした水以外は濕りません。これは1階でも床高は地表より3尺以上で、建物の構造上基礎工事が充分で地下室でも濕氣が感じられない位防濕が完全に出來て居る爲です。尤もこの邊は大阪中での最高燥地帶で、普通の低濕地に建つた場合こんなにうまく行くかどうかは判らないと思いますが、床高3尺以上と云えば普通の木造家屋の3倍近い高さですからそれだけでも良い譯です。移轉當時私達が持つてきました蚤がいつの間にか絶えて了い不思議に思つて尋ねて見ますと、どのお宅も同じ様に仰言つていましたが、之も濕氣の無い爲虫の育たないのぢやないでしようか。

溫いこと。これは濕氣の無いことも關係していると思いますが住んで見てその暖い事に驚きました。木造家屋、殊に日當りの惡い濕氣の多い家では冬期骨にしみる様に冷え込んで來ますが、ここでは晝間は少しも冷え込む事はなく日照がよく隙間風が無い爲、南側の部屋は實に溫室の様に暖で一度上つた溫度は下ることがありません。私の感じでは鐵筋の壁帶は木造より熱を保存する様です。唯夜間1時、2時頃になると流石に冷えて參りますが、それはコンクリート構造よりも硝子障子1枚で外氣をさえぎつていることにより多く原因するのではないでしようか。戸と障子と2枚にするか、今の儘でも經濟的な餘裕があつて厚手のカーテンを設けるかすれば解決すると思われます。

便利であること衛生的であること。水洗便所は實に清潔で臭氣もなく、これで住居の中から觸れ

てはならぬ處、かくさねばならぬ處が追放され初めて宿命的な汚れから解放されることになりました。在來の便所が私達の氣づかない儘に實は大變私達の氣持を暗くしていたことが、これを取り去つたときに感じる罪をザンゲした後の様なサツパリした氣輕さ朗かさを味つて始めてはつきり判りました。この氣持を知るともう二度と在來の糞尿と同居の生活に戻れません。それから鼠と蚤がおらぬことも衛生的です。便利なことに就いては炊事や掃除が非常に能率的に出來ます。台所の設計が非常によく出來ている事も感謝のまとですが、根本的には廊下、部屋、炊事場の床が同じ高さにあることと、部屋が二つの方形のつらなりで無駄な小さい場所がないことに由ると思います。

以上で住い方の點から見て、この鐵筋アパートの方が從來の獨立木造住宅に勝つている點の氣づいた處を申し上げました。では劣る點はと考えますと、木材の材質から來る親しみ易さ、家庭的な落ち着きなど懐古的な趣味の上からの理由の他見當りません。唯年寄りは矢張り小さくても自分の庭があり盆栽の一つも作つて見たがる様ですが、自分の庭を持つと云う事は郊外なら別として、木造の獨立家屋でも市内では仲々得られない贅澤と云えましよう。何と云つても我々の家庭は働く者本位に能率的に生活しなければならないのですから、この冬期3ケ月住んだ經驗から申しますと、働く者の住宅としては文句なく鐵筋アパートに軍配があがります。

次に細部についてこれ以上の欲を申しますと、**廣さについて。**衛生上の許容限度は1人當り3疊と伺いましたが、夜間就寢時の空氣の汚染度とかむづかしいことは判りませんが、住んで見た常識的な意見としては、現在の1戸當り14坪、疊數14疊で六人家族でも充分住めると思います。地下室に平均1坪以上の物置がありますので季節的に見て不用な品は思い切つて納めてしまい、二間の押し入れとその上段の鴨居の上にも押し入れがあり、これらを上手に利用すれば部屋を100%に使うことが出來ます。こう云う風に住めば大人3人子供4人位でも住めぬことはありません。勿論社會的地位のある人で來客用の部屋が要る場合は少しは不便でしようが、私共ではお客さまも家族も一緒に話し食事をしますので格別に不便とも思いませんし、段々一般ともそう云う傾向になつて行くのが本當ではないでしようか。

4階建と云うことについて。私共は1階に住んでおりますので3階、4階の住み心地ははつきり判りませんが、洗濯物を干しに屋上へ上りますときの疲れから考えますと、4階に多數家族が住むことは少し無理ではないかと思います。オフイスでも4階位迄は階段による所が多いのですけれど私もオフイスに勤めたことがあるのですがここで申し上げたいことは、オフイスの4階と住居の4階とは事情が違うと云うことです。オフイスでは働く人が皆青壯年層ですし、服裝氣分共に活動的ですが、家庭には子供から老人迄のあらゆる年令層を構成員に持つておりますし、又家庭にあつては皆多分に休息を求めております。殊に和式の部屋であれば自然服裝も和服下駄ばきの場合を考えねばなりませんが、特に婦人の和裝は平坦な道を歩くときは左程感じないとしても、階段を登る場合は非常に亂れ易く疲れるものです、和服で登山する婦人の姿を御想像下さいませ。又下駄ばきでコンクリートの階段を登り降りしますと靴ばきと比べて足えのひびきが強く4階迄登りつめるとホツト致します。この場合の被害者は家庭に於いては荷物を持つたり幼兒を負つたりして1番出入回數の多いのが主婦です。私共の4階にお住いの若奥様で最近流産なさいました方がありますが、確に登り降りが原因の一つになつていると思われます。それで4階は現在2室1戸になつておりますのを獨立した二間とし、洋式にして獨身者アパートに利用するのが適當と考えます。

浴室について。現在の廣さで各戸に浴室を設けるのは無理と存じますが、同じ階の二戸の中間に一つの浴室をとり入口を兩側に設けることは出來ないでしようか。隣り同志意見が合えば共同で沸してどちらも利用し、又それを好まない場合は交互に沸せば隔日に自家風呂に入浴出來ます。瓦斯風呂にして双方のメーターに連結してその時々に栓を切り替えますと、燃料費負擔のいざこざも無いと存じます。

室内の塗裝について。現在は壁は純白、木部も生地の儘です。成程照明は効率的ですが、部屋と

しては何か締りのない感じです。壁を薄く着色するか木部に塗料をかけることで引き立つと思います。塗る場合は、出來ますならば數種の用意をして居住者が決つてから居住者の希望する色に塗つてあげる親切が欲しいと思います。

下駄箱について。 5人以上の場合は備付の下駄箱では小さく、と云つて今の踏み込みの廣さでは別の下駄箱を置く場所もありません。も少し大きい下駄箱の方が整理し易いと思います。

臺所について。 今の台所で申し分ありませんが、色々の小さい台所道具を掛ける釘打ち用の横木をはめ込むことと、未だ利用されていない空間、つまりガス台の上方に二段位の棚があればよいと思います。

洗濯場と物干しについて。 洗濯場と物干しは屋上にありましてこれが唯一の共同設備となつております。冬期は屋上は風が強くこの洗濯場で水を使いますと手が切れる様に痛む程ですので之を利用する人は殆んどありません。夏は利用者は多いと思われますから洗濯場そのものは必要なのですが、出來れば直接風の當らない何かの設備が欲しい處です。しかし冬期の風よけは又夏には邪魔になるかも知れませんのでどんなものでしようか。それから水槽の手前に傾斜を向う側につけて洗い台の部分があればもつと便利です。共同物干物は盜難の危險と、いちいち屋上へ上る煩しさとでどんなに管理者が監督されても窓に干す方がありますので、これは思い切つて規格統一したテラスを各戸に設ける方が無理が無いかも知れません。

其他水道、瓦斯、電氣の設備など申し分御ざいません。

以上色々拙い意見やあつかましい希望など申しあげましたが、實は求められてあれやこれやと頭をひねつて思いつきました様なわけで、強いて考えなければ、日常は何の氣もつかず氣持よく過しております。むしろこれだけの設備を生かして本來の能率を發揮さす爲の研究が私共主婦の側の方に足りなさを感じる程でございます。結論と致しまして、私共勤勞者の住居としては纖筋アパートが一番能率的で簡素で適當していると存じます。

（筆者・市營纖筋アパート1號館1號室居住者）

相　互　斡　旋

（本欄十二分に御利用下さる樣各位に切望）

○求　職

京大建築科出身48才勤務先何れも可。

下關工業建築科出身21才北九州方面希望。

關西工業建築科出身22才。

○人を求む

30才前後現場係一名中工務店勤務及30才前後雜誌編集事務員一名を求む至急。

○求　婚

女專出21才、25才、26才三名各何れも良家の女、容姿體格良、身元確實父建築關係者、三者共專門程度出身の人物本位の方に嫁ぎたし。

○土地家屋讓渡

1.神戸市楠町土地120坪、二階建延75坪外に物置、電話、水洗便所、ガス電氣設備あり。

1.二階建住宅附事務所延22坪並ガレーヂ向倉庫40坪、大阪驛附近40萬位。

○家を求む

大阪—京都間で約50萬位の家を求めたい。但し成可大阪寄りの方を望む。

○お茶とお華の稽古斡旋

表流お茶。未生流お華の稽古希望者は男女を不問御申込下さい。稽古場阪急附近、會費廉、懇切教授

○賣　却

シヤツター（チエン卷揚式）ボツクス、シヤフト、鎧戸、その他附屬品一式但しガイドレールなし、數量5組、以上賣却したし。

以上御連絡は本會事務局長宛の事

スチール　サツシユ

〃　　ドアー

〃　　シヤツター

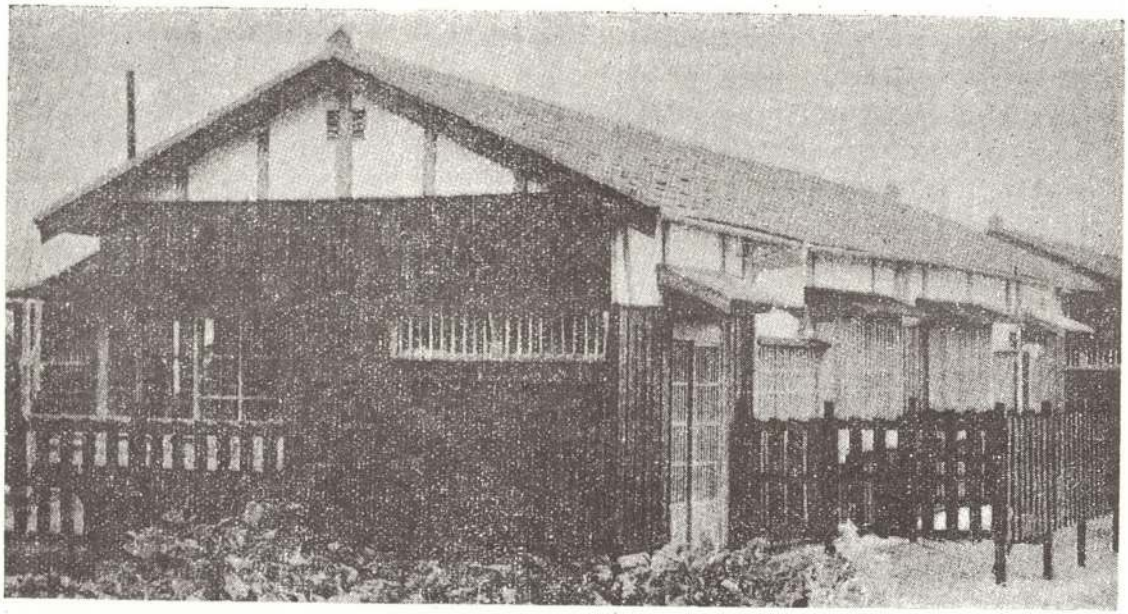
オペレーター・伸縮戸・面格子

設計・製作・修理

日本サツシユ株式會社

大阪市東區高麗橋二丁目九番地

電話土佐堀㊃2995・3979番



赤川モデル住宅を截る

深澤一彦

家賃1000圓はたしかに痛い。

しかし寶くじよりもはかない、暁天の星さながらの確率だといわれている市營住宅にとにも角にも當選の幸運を擔つた私たち親子三人は昨年10月1日、文字通りこ躍りして吹田市のうらぶれた間借り生活から大阪市營赤川住宅（旭區赤川4丁目）にいそいそと居を移した。

大阪市當局が「テスト住宅」と誇るだけに住心地ますますというところで、「新しいだけでも氣持が良いでしよう」と知人にもいわれ私たちも一應は素直にそううなずいている。しかし住むほどに慣れるほどに間借り時代の不自由さも忘れてつい色々と不服が出、不滿が洩れやすい。また事實「テスト住宅」としてここが將來の市營住宅のあり方と、スタイルを決めるものとすれば率直な住み心地を知つてもらうのも無駄ではあるまい。

◇……12坪の建坪と割合に廣い敷地、2戸1棟毎に簡單な板圍いをめぐらして裏には多少の植木をあしらつたところはますます樂しい我が家。

「1戸を張つた構えとこの庭木、大阪人の庶民性をよく現わしているよ」とある友人は遠慮のないところを浴びせたが案外偽りない、いまの私の感懐でもある。

ところがこの板圍いなのであるが——移る早々妻が一寸買物に出たスキに乾してあつた妻の冬のスーツとセーターなど4、5枚を失敬された。雨戸もあり、入口も嚴重に戸締りはしてあつたのだが氣をキかせたつもりで造られた小門に扉がないばかりにどう頑丈に戸締りをしてもその小門からユウユウと裏庭に廻れるのである。コソ泥君は樂々と仕事が出來たに違いない。氣をキかせるついでに何故扉を付けてくれなかつたのか、妻の泣きごとを聞くまでもなく如何にもお役人らしい建て方にあきれるばかりである。その後、妻にうるさい程いわれるがまだ扉を取付るまでに至つていない。聞けばそんな事まで一々お役所の許可とやらが必要だとかで、やれやれ市營住宅とは六ケしいものだと、まだ無斷扉取付けの勇氣をよう出さず

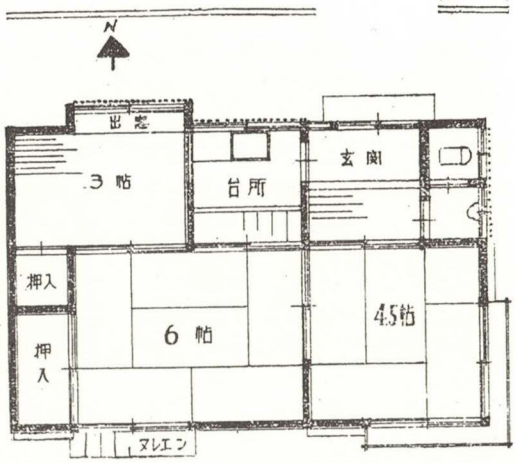
にいる。

◇……6疊と4疊半と3疊の板の間（勿論東京疊である）それに1疊足らずの玄關の板の間という間取りは3、4人家族には廣くはないがいまのご時勢では文句はいえまい。

最初に惱まされたのが障子である。玄關、4疊半と6疊の境界、そこと台所の仕切り、6疊と3疊の境目、これことごとく障子なのである。この8枚の障子を張るのにマル2日がかり、小人數でも何時の間にか破れる繼ぎ張りに追いまくられている。子供の多い或家の主婦などは障子張りに泣かされるとしみじみ市場の立話に泣き言をならべていたというが。「豫算が少ないものでございますからね」とおつしやるかも知れないが、これがすべて「ふすま」であつたならモデル住宅は錦上さらに花をそえて赤川住宅の名聲をいやが上にも高からしめたであろうに。惜しむべきはお役人根性である。

◇……幸か不幸か戰災をまぬがれたためガラクタが多いのに押入が1間と半間の二つきり、納屋もなく移つた當座は置場に困りぬいた。仕方なく板を買つて裏庭に一間の急造納屋を建てガラクタをやつと始末したが、もう一つ押入をふやすか納屋の一つぐらい設けても外觀に比べてぜい澤でないように思う。12坪の建坪に制限されて致方もなかろうが便所が玄關脇にあるのだけは何としても一番の黒星だろう。慣れてきたわれわれでさえ玄關を入つたトタン、ムツとくる臭氣に飛び出したくなり、たまの來客にそればかりがいつも氣にかかる。この便所を張出しにしてその跡へ1間の押入れをつける工夫と親切さはどうしても必要だつた。

◇……臺所の設計ももつと主婦の立場になつて考えるのが本當の親切ではなかろうか。流しもあり、ガス設備から2段2つの棚までついているのだが惜しむらくは狹いのと勝手が惡い。上りカマチからタタキに降りる場所えは下駄を履かずに炊事が出來るよう板を置いたが1人立つたらあとは洗面をするのがやつとこさ、漬物桶の置場もないという狹さである。ナベ、カマ類は棚にならべられるものの食器類は一々3疊の水屋へ取りに上らねばならず、もし臺所との境界の戸を取去つて臺



所からすぐ手が屆くところへ水屋でもハメこみに置けるようにしてあつたらと忙しげな妻の姿を見る度に思うことである。ガス器具の置場もないので板を張つたがこれとて低くにしか付けられず、こういう細かい點まで考えて設計は出來ないものか、立ちすめの炊事場で少くとも立つたままで用が足せる高さにすべては設計されていなくてはならないはずだと一再ならず考えさせられる。姙婦でもあれば腰をかがめるだけでも大變であろう。公營住宅でそんな點まで氣をくばつて設計出來ない。住む人間が好きなように金をかけてやれば良いといわれればそれまでであるが。日本家屋の設計もそこまで考えるべき時期に來ているように思う。

◇……戰後建築の通例とはいいながら柱の思い切つた曲りようも相當なものである。玄關の障子、窓のガラス戸、雨戸、座敷のガラス戸、數えたてれば限りがないが廣くもない家の戸障子のスキ間はひどいもので、夜など遠慮なく吹きこむ風はたまさか家え持つて歸つて片付ける仕事の手を止めさせる。入札建築の弊の端的な現われだろうが、いま少し請負業者も良心的な仕事がしてほしいものである。5年や6年、少々の地震ぐらいでは倒れもすまいが。1年後、3年後のスキ間の空き具合や柱の曲り方がいまから樂しみである。そんな氣でいなけりや市營住宅には住めまい。オツトこれは口の惡い友人の言である。

◇……疊もひどい。これも例の「豫算」とやらの仕わざでもあろうが、米をコボしたら疊の目に

入つてしまつたと妻が笑つていた。大して上ものの外出着も持たないわれわれ風情ではその心配もないが、盛装の來客でもあれば着物がスレて痛みはしないかと氣を使わねばならぬ。聞けば復興疊と呼ばれるアブレゲール型の疊表だということだが、疊表ならぬ「草表」である。それに疊の合つていないこと、ひどい隅や角などは一寸近くもスキ間が出來て掃いたゴミは遠慮なくドンドン入つてしまう。疊があるだけ良い方だというかも知れぬ。成程疊なしで住わせた戰災市營住宅もあつたが、食も衣もようやく落ちつきを見せてきた昨今、遲れ勝ちな「住」だけに餘計疊までが氣になるというものである。

◇……それに床が欲しい。洋間のアパート生活なら別だが、矢張り日本間でなれば床のないのは齒の抜けたような物足りなさと寂しさを感じさせる。床を本棚に改造せよとか洋服タンスにしてはなどなど婦人雜誌の新生活設計かにそんなことが出ていたが室内のうるおいは矢張り床の間と花にあるような氣がする。置床でも置けば良いのだがそこまでは手が出ず、またこの上置けば寢具ものべられない。ここまで望むのは餘りのゼイ澤だろうか。電氣も一應1部屋に1燈づつ、外燈もありそのうしろにはラン間も取付けられてあるのだが便所にどうしても電燈が欲しい。それもメートル制なればこそ餘計痛感されるのであるが。その代りに便所の上方にガラス窓があり、外燈の光が入るだろうとおつしやるかも知れないが、成程なかなかご苦心のあとは歷然としているのでございますが子供がいることでもあり、もしソソウでもして落こんだりしてはと存じまして……

◇……電氣といえば、すいぶん惱ませられた。私たちが入つたのは10月だつたがすでに大部の人（この一かくは8棟16戸）は9月中に入居していた。ところが何かの手違いで配電會社えの連絡と手續が行違つて「無斷で點燈したのは怪しからぬ、即刻罰金を納めよ」ときついお達しが届いた。すでに連絡濟だと安心していたわれわれは少々狼てて、色々辭を低うして（この節電氣會社は恐しいですから）お願いに上つた結果やつと配電會社のお怒りがとけて「それではメーターを取付けるまで1燈40圓の割で2ケ月分前納せよ」というので、2百何10圓かの2ケ月分4百何10圓かをそれぞれ届けて（集金に來たのではないのですゾ）やつとそのときは納まつたものの、こんどは12月には取付けるというメーターがさつぱり取付けられず、12月はとうとう暮れて、例の電氣料金3倍値上げとはなつたものである。1月に入るも一こうに音沙汰がない。3度足を運んだ揚句やつと1月末に取付けは終つたものの1月分はあとの祭り、料金は値上新料金で5百何10圓かを支拂わされたわけである。5百圓もの1月の電氣料なんて無茶苦茶だとごうごうの聲がモデル住宅一帶に鳴りひびいた。市が建てた市營住宅なら元來は電氣設備一切整えたのちに入居させるべきが本當だ、この電氣騒ぎに市當局が積極的に交渉に當らなかつたのは無責任も甚だしいともつぱらの住宅界わい聲である。

◇……家賃も市がご自慢おく能わざる住吉區岸の里文化住宅（850圓）よりも上等の1000圓なのだから鼻もいささか高かろう。安月給のわれわれ風情には考えただけでもゾツとする高額なのだが背に腹は變えられぬ、涙をのんで……というのが偽りのない內幕である。しかしピンはバス改造住宅の55圓（いや16圓というのがあつたかな、玉出附近に）からキリは鐵筋住宅の1400圓まである中で木造住宅中のNo.1、横綱なのだからたしかにモデル住宅に間違いなかろう。ところがである、この1000圓也の家賃にはなかなか面白いイツ話が秘められている。元來お役所というところはむつかしいところで家賃を決めるにも、市營住宅へ入れるにも一々市住宅使用條例という入居資格者だとか入居者心得だとかを定めたシチ面倒くさい規定があつて申込にもあの行列となるわけだが、その條例第二條には「使用料は1戸1月につき木造住宅は850圓、鐵筋住宅は1500圓以下において市長が定める」と明記されていた。だが赤川住宅が出來上つてみて、原價計算をしたところがどうしても1000圓とらねば採算割れになるということになつた。まあモデル住宅だから仕方あるまいと關係者や係員は簡單に考えて新聞でも發表し、入居者も決つたトタン市會方面から横ヤリが入つた。「第2條の家賃規定では850圓しかとれないぞ、1000圓にするのなら市會本會議に改正案を出して

市會の承認を求めよ」というわけである。アワを喰つたのは係長や係員で早速改正案をつくつて緊急市會にかけるやら大狼てて、やつと條例を改正してボロを出さずに濟んだものの、市會からは「たいまん」だときめつけられるし記者連中には迫められるし轉任早々の課長さんは青くなつて首をなでたことだつた。こんないきさつの1000圓であつてみれば餘計横綱の貫錄たつぷりというわけで、私たちも大いにその榮にカンゲキして1000圓の住心地を滿喫したいと願つている。

◇……不足をいい出せば限りもないが、風呂が近くて　電車や小學校も近く、公園へはすぐだし、淀川という絶好の散策地とすぐ眞近という環境のめぐみと、外觀だけは整つていると人にもいわれるこの我家なれば住み方によつてはことなく樂しく豊かなものに違いあるまい。私たちもすでに裏庭には菜園を設け、いま菜つ葉やほうれん草が端境期の野菜を補おうと待期している。春ともなれば表の庭木も綠を增し、アカシヤはきつと美しい花も咲かせるだろうといまから心待ちに樂しんでいる。隣附近では鷄を飼いはじめたところもある。表側を立派な花壇にしつらえた家も見受けられる。私も暖くなれば鷄も飼おうし花壇も作ろうといま種々ささやかな計畫をこらしている。モデル住宅が眞のモデル住宅となり、樂しいホームとなる日はそう遠くはあるまいと自負している。文字通り1000圓の價値ある住宅として何としても育て上げたいものである。

しかし將來の住宅は矢張り壁へハメコミの洋服タンスと水屋とタンスと下駄箱のついたそれこそ行李と風呂敷包とガラクタだけを運べば家財道具は何もいらず、移り住んだその日から立派に整理、整頓の出來る住宅であつてほしいものである。市營住宅が完全なものとして完成される形は矢張りこのスタイルの住宅でなければならず、市當局も他の豫算を割いてもこのような理想的な住宅を獨自ででも建てるべく努力し、それを成し遂げるのが近藤市長の公約を果すゆえんではなかろうか。　　（筆者・大阪新聞記者）

建　材　部　大　會

（3月2日於大阪建設會館）

通產省雜貨局建材課長伊藤憲太郎氏の列席を乞い、京阪神建材各部門の有志約25名出席、伊藤課長より產業合理化と建材界の本年度見透し等につき別項（　號同氏記事參照）の如き說明を聽集、列席者との意見交換後將來關西方面よりも2、3の審議會委員を選出されん事を望まれた。因に產業合理化審議會委員は大變彩大なもので、我國工業技術の首腦部やエキスパートが多數擧げられているが、機構の大要を記すると下の如きである。

◎審議會　設置部會は

綜合、ゴム、窯業、生活用品、電氣、通信、紙業、車輛、綿業、絹業、麻毛、化學纖維、皮革、產業機械、鍛造、油脂、鑛鋼、ガスコークス、金屬等

凡81部門である。

各部委員長は各團體組合の會長理事長等代表者委員は概ね各社長重役級が嘱されている。建材關係は生活用品部に屬し、大阪では關西石材社長上山元市氏を見るのみである。

◎24、9、13閣議で產業合理化に關する件が決定され、均衡豫算確立、單一爲替レート設定、健全金融方針推進等合理化するため、

（1）產業指導方針確立　（2）國際價格が速かな轉嫁を目標とする　（3）企業內部合理化、創意工夫、合理化推進、障碍除去　（4）能率向上、優秀技術者採用、積極化等が主要題として取り上げられている。

之等の各項目に更に夫々十餘の分科科目を列擧して、細胞的に調査研究する構想である。そのため審議會が設けられている。

鋼　構　造　講　習　會

昨年來京阪神で開講した際記を今般下記の通り九州、中國支部主催で開催し盛會であつた。

九州支部　3、22、午前9～午後7時於福岡勞働會館聽講約200余名藤島副支部長司會の下に宮脇支部長開會の辭後小泉、小西兩講師講演大和理事閉會の言葉と協會支部發展に協力方依頼散會

中國支部　3、24、25日2日間午前9～午後5時於　廣島文理大學分室、聽講220名、藤岡正一氏司會の下に古林副支部長開會辭後小泉、小西兩師講演25日は午前中終了した、尙同地方は學會支部と共催したので25日午後より27日迄學會側コンクリート外講義あり終つて建築中の原爆研究所を見學した。

●座談會●

女子學生座談會

大阪市立大學家政學部學生
同　　女子專門學校學生
教官、其の他參會者數名

司會者　伊藤正文（大阪市立大學家政學部教授）

園田惠子（生活科）　和田史子（育兒科）
堀川千代子（〃）　濱地惠子（〃）
川村マリ子（學部）　井上壽子（被服科）
羽瀨伊都子（〃）　浦田ソノ子（〃）

阿部榮子（伊藤研究室助手）　大門恒夫（參會者の建築學生）
吉田年子（參會者の婦人研究家）　白木小三郎（家政學部教官）
一丸剛七郎（參會者の建築學生）　場所　大阪市立大學家政學部住居研究室

司會　「本日の座談會は日本建築協會から若い方々の住居に關する意見を聞きたいとの依頼で、皆樣に集つて頂きました。協會は30年の歷史をもつ建築の專門家と關係の方を包含する會で、今日の座談會は同協會で發行している「建築と社會」の誌上に發表されるものですから、皆さんも建築の專門家に注文や質問を出す積りでお話を願います。では最初に最小限住宅の間取りや規模について現在皆さんの住んでいられる住居の經驗から思いついた事を話して下さい。先づ園田さんどうですか？」

園田　「現在の日本の住宅で使つているものの中に實際いらないものが多いと思います。計畫せず漠然として建てたように思われます。一般に建てる方、住む方が設計者に抗議しないのです。住宅に對する關心が薄いと思います。」

司會　「家というものに馴れすぎた感がありますね。無關心じやないという事が言えますね。日本での建築の進め方は一般に建てる人々の頭に入つていない。家主の算盤と大工の考えで建てゝいるのが多かつたのです。アパート等は主としてそうです。住い方の相談が出來ていないのですね」

井上　「間取、面積について申します。現在の日本の生活樣式は外は洋服、內では和服になりますが、外も洋服であれば家庭でも洋服にして洋式生活にしたらと思いますが、その場合の疊の生活と洋式の生活の最小面積はどの位い違うでしようか？」

浦田　「疊の部屋を洋間として使う場合も差がありませんでしようか」

司會　「若し疊の場合では設備が洋室のようにゆきません。西洋住宅と違つて台所の設備も大きくなり仕事する時間も多いわけですね。大體主婦の台所で働く時間は起きている時間の50%にもなると言います。台所の問題は後に願うとして最小限住宅を造るためには居間の廣さ12平方米を基準にしたいと思います。それにアパート公營住宅、日本の鐵筋アパートでは設備が不充分です。前大戰後瑞國やドイツで建てた居室の最小限面積は16平方米です。この頃のアメリカの大きいのは32平方米あります。32平方米あればリヴイングパートの中に台所としてのキチンキヤビネツトも置けます」

羽瀨　「全部椅子式にしたいと思いますが」

川村　「生活が洋式になれば椅子にしたらよいと思います」

司會　「30年來云われてきた問題ですが、若い時代は椅子の方がよいが、年をとると疊の方がよいと言いますね。私の家では初め洋式を嫌がりましたね。年が經つにつれ馴れてしまいました。自分としては餘り疊を好みませんが皆さんの家では勉強される場合どうされていますか？」

（園田、川村、和田、濱地、浦田各孃は椅子式）

（羽瀬、井上諸孃は坐式）

堀川　「その時の氣分によつて坐つて見たいと思います」

司會　「昔は机の高さは2尺5寸、椅子は1尺5寸と思い込んでいたのですが、自分の身體に合つたものが一番よいのです。自分で設計位いしなければなりませんね。今後は子供の頃から椅子式が多くなるので若い人達の間では椅子が多くなることでしよう。話が横にそれましたが皆さんの生活樣式によつて廣さが違いますが、そういう面でお聞きしたいのですが」

和田　「田舍のダダ廣い建物を最小限度に區切つて自分の好みに直してみたいと思いますが？」

司會　「それについて農家では土間が狹ければ暮らせません。生活環境から色々の制約があります。野菜など廣く擴げる場所がいるし、家具什器に至るまで大きい、農家としては土間の廣い方が便利ですから、それを制限するのは難かしいようです」

堀川　「土間の改造ですが今迄のキツチエンとダイニングルームとを合せたものにするとよいと思いますが」

司會　「それもやつている人もあります。しかし土間の利用は田舍では仲々大切なことです。では次に環境問題について御意見が多いと思いますが、どうですか」

堀川　「衞生的立場からいつて現在の日本住宅では台所、便所等は考慮されていない。完全な洋式を取り入れたい、便所は水洗式がよいと思います」

司會　「外人が來て一番ビツクリするのは便所です。私共には惰性になつているので大して感じませんが、タウト氏の話に「床の間の裏壁一重で便所があるのは大變不思議な構想だ。しかし家全體がこえ臭い。けつぺきな日本人が何故臭いのを平氣でいるのだろう」と言つていました。（笑聲）傳染病も便所からです。厚生省案の便所もよいが、水洗式や木槽にするのに補助金を出すようにしたらよいのですが。しかしアメリカでも田舍え行くと未だ汲み取り式があります。前大戰後ベルリンでは肥料不足で人糞をためてオランダ風の風車を動力として鐵管で糞尿を郊外の農地え送つた例も聞いています。それから政府が住宅法を早く施行する必要があると思います。現在、農林省では生活改善の指導委員會を作り委員が農村を指導しているようです。その指導は全員婦人の筈です。ドイツでは前大戰前、婦人住宅官が各地方の住宅局に屬していました。その局長も婦人だつた筈です。そして一軒毎について育兒、住居の取扱い方、椅子の寸法等生活問題萬般の世話をやき生活指導をしたのです。農林省の場合でも、これを法律化して各地方の生活と住宅の改善等、婦人の意見を加えた指導をやるように法律化されなければならないと思います」

井上　「被服科の學生として要求したい事は私達の衣類整理室として3疊位いのミシン、裁ち台（和洋）、シミヌキ藥品、アイロン、シンシバリ等一つの部屋に纏める事が出來れば便利だと思います。外套をぬいで整理する。シミヌキの藥品は台所にある。穴を綴る場合はタンスの抽出に小布がある等纏まつていない現狀ですと大變不便です。着物を作るのに衣類場がないのは不合理です。主婦は台所の外に縫物に多く時間を費やす關係上益々必要だと思います。居間で裁縫する場合子供でもあれば落ち着いて仕事が出來ないと思います。更衣室につゞいてあれば尙よいと思いますが、今までにそういうような部屋は作つてありませんか？」

司會　「プランだけは見た事があります。洋裁研究家の方で自己の衣類を整理するのに日當りのよい所え設けていました」

浦田　「その部屋に水道があれば尙およいと思います」

井上　「疊の上え椅子を置くのでは糸屑が落ちてとれません。板の間ですと隙き間がありませんか

らスベスベした床板えワツクスを塗ればよいと思います」

浦田　「それは台所え近い方がよいと思います」

司會　「外に環境問題について、明るすぎるとか暖かすぎるとか、又寒暖の問題についてどうでしょう」

川村　「便所は日當りがよいのがよいか、又日陰がよいのでしようか？」

羽瀬　「蠅のわかぬ爲めには暗い方がよいと思います。蠅は暗い所えは飛んで來ないからです」

司會　「夏になるとよく店先にのれんがかけてありますが、中が暗いので蠅が中えは入れない。のれんは一つの蠅よけです。成る可く入口を暗くすれば入りません。鼠の問題について、タウト氏は「天井で鼠があばれて寢られないことがあるが、日本では家畜として優待しているのか」と言つていました。（笑聲）又鼠がいると火事も起らないとよく云われていますが」

全員　「私たちでも言います」

堀川　「鼠は明るい所を恐れます故天井裏のような暗い所におりますが、天井裏に電球をつければいなくなると思います」

井上　「併し初めは寄りつかないが馴れゝば寄りつくと思います。」

濱地　「洋室、鐵筋コンクリート建では空間がないからいないと思います」

司會　「ところが市役所のような所にもいますが巢を作ることは出來ません。ドアー等の角に穴をあけて入るのです」

浦田　「食べ物があればどこでも生きてゆけます。台所全部をコンクリート壁にすればよいと思います」

司會　「從來の防鼠工事では椽の下に空氣抜けの穴を作り網を張つて入らぬようにしますが、それでも土を掘つて下から入ります」

浦田　「私は以前大連のアパートの4階にいたのですが、1階にはおるのですが2階から4階にはいないのです」

司會　「4階で炊事をしておつてもいませんか？」

浦田　「いゝえ、いませんでした」

司會　「鐵筋建でしたか？」

浦田　「はい」

司會　「食料の關係でしようね。時に日當りや通風、暖かさ涼しさの問題ですが」

園田　「日本の住宅はその點便利と思います。襖を全部開け放せば風通しがよいのですから」

司會　「併し全部を開け放すと自分の部屋が確立しないし落ち着く場所がない。日本人に哲學性がないのもこういう事に大いに影響していると思います。今の日本の家では思想が生れないと云われているが、落ち着く場所がないからです。地方的に見ると寒い雪國の方が溫暖な南の國より思想的に深いものがあります。文藝作品等はイタリー、フランスよりはロシアの方が深いものがあると思います。フランスとドイツのそれはよいコントラストをなしていて、住居や被服のデザインでもフランスはやわらかできれいであるが、ドイツは現實的で科學的に深くつきつめている。住居のつくりにもその差が現われています。だからウキーンのものはその中間をとつているとも云えます。暖房の裝置ですが日本の家屋に入つての寒さは？」

和田　「火鉢だけでは身體全體が溫まりません。何かよい方法がありますまいか？」

司會　「或る意味でよいのはオンドル式のものでしよう。滿洲では坑（カン）といつて、外で火をたき寢台の下を溫めます。ロシアのペーチカは壁を溫める。壁の表面溫度と衣服の表面溫度とが約10°以上の差がなければ寒さを感じない。近頃の新建築物にはこの理論から輻射熱暖房（パネルヒーテイング）が使用され、床や天井にパイプを蛇行して埋め込み、湯やスチームを通して溫める方法です。これだと窓を開けても風がなければ寒くはありません。非常に衛生的です。ストーヴは煙が漏れ埃が立つて部屋を乾かすので喉を惡くするから湯氣をこしらえねばならない。今後は壁や床を溫める輻射暖房がよいと思います。北海道大學の中谷先生の宅はうまく出來たデザインによる耐寒住宅です。中央に煙突を置きその壁面が周圍の室に面しているのです。一種のペーチカなのです。オンドルは毎年ほりかえして掃除せなければならないので日本の住宅では一寸困るでしよう。ドイツのカツフエルは壁の一隅に煉瓦を積んだ輻射暖房です」

浦田　「折角部屋を暖めても熱が外部に逃げないように壁の裝置をよくしなければいけませんね」

司會　「輻射熱の溫度の感じは空氣の溫度とちがつて、多少の換氣にはこたえません。その代りに表面溫度の低いコンクリートの壁は木や土の壁の部屋よりも寒いわけです。コンクリート壁が人間の皮膚の溫度を輻射作用によつて奪うので底冷えするからです。暖房については考える事が多いですね。經濟の問題があり、又費用の掛からぬ方法を考えねばならない。又一町內が協力し暖房や風呂場をこしらえ電氣洗濯機を使うようにすることも考えられることです。但し町內共同の炊事場は無理でしようね。台所の問題、生活の仕方についてはどうでしよう」

堀川　「台所の棚の寸法を工夫して見ました。材料は竹です。窓には虫除けの網を張りました。又洗濯は町內共同でもよいのですが家庭で使う洗濯台が欲しいと思います。毎日する仕事の中でも忘れられています。坐つてするタライは過勞を伴います」

司會　「タウト夫人が言われていますが、日本人は毎日體操をしている。即ち便所や居間で坐つたり立つたりしているから——と。（笑聲）又、タライはエネルギーの消耗がひどいと言われています。皆さんは腰かけて洗濯したことがありますか？」

堀川　「ありません。力が入らないので立つてします」

司會　「私の考えですが、日本の住宅は隙間だらけですが、外は補裝されていないし、風が吹くと埃ぼくすぐ砂が溜り、そこに主婦の勞力の無駄を生じます。被服に關係することですが、埃が生地を傷めると思います。建て附けをよくし防塵裝置をしたいものです。その點洋風の室であればその被害は少い。又寢台がよいか、床の上に寢るのがよいか。どう思いますか？。不良の寢台はスプリングの關係で動くたびにビンビンして背中に響き寢にくいものです。又、埃は床上1尺の所までが多いものです。それに寢台を置くと場所が狹くなるので寢台を折疊みにして壁の中にしまうことも行われています」

吉田　「寢台の問題ですが疊の上に寢台を置いて寢ると埃がたまらないが、疊の上で直かに寢ると埃がたまり、又床の間等に埃がたまりますので寢台生活の方がよいと思います」

川村　「矢張り洋風生活をしていても茶室があればよいと思います」

司會　「ではお話を茶室え移しましよう。貴女はやつて居られますか？」

全員　……

川村　「圍爐裡みたいに掘つてあるのは茶室として使わぬ場合は炬燵代りに使えると思います」

司會　「洋式で茶をする矛盾を感じませんか？」

大門　「洋式生活と茶をする矛盾は二重生活の問題だと思います。洋式生活とどこまでマツチさすか、又生活にとり入れるかという事に問題があると思います」

司會　「外の方で今までの事以外に何かありませんか？」

阿部　「間取りのときの暮し方ですが、押入れの問題を考えます。今のところ押入れは整理されていないで只だ物をほり込むだけです。寸法というものを考えてデーターを取り無駄をなくしたら、取り付けの戸棚がとれると思います」

白木　（後刻參會）「ともかく二重生活を考慮して住宅を考えなければならないでしよう」

井上　「茶室やリヴイングルームを客間に使い泊り客の寢室にも使つたらいゝと思います」

白木　「お茶のことですが、日常生活に入つて居ないと思いますね」

一丸　「生活樣式には影響しませんね」

園田　「しかし日常の挨拶、應對は茶によつて敎養される所が多いと思います」

白木　「その點で生活樣式に入つてきますね」

司會　「茶の本當の精神でやつていない、形式だけを眞似ているだけなのが多いようですね。もう時間も遲くなりましたから、この邊で終りたいと思います。長時間に亘り色々と御意見を伺い多大の收穫を得ました事をお禮申します。皆さん御苦勞さまでした。（終）（文責記者）

貧　民　窟

日本の街はどこへ行つても貧民窟のようである。
（「外人の見た日本」より）

わが黨の住宅政策の基本點

日本共産黨科學技術部

現在、住宅問題は非常に切迫しているが、他方では、木材、セメント、鐵鋼などの建築資材が餘り、土建業者は購買力の低下によつて殆んど仕事がない狀態である。

これは、今迄の諸內閣、ことに現吉田內閣が買辨的な獨占資本だけを利益して、勤勞者の生活と日本產業の復興のために何ら努力しないばかりか、却つて、これを破壞する政策をとつてきた結果に他ならない。

このような情勢では、住宅の政策を樹てることよりも、政策を實行することが先決であり、このためには、人民の生活と日本の產業の復興を實行し得る人民的な諸政黨と民主的諸團體が提携して政權を握り、その政策を實行することが先決である。現在のような條件では、人民的な政府の下での、住宅問題の解決はかえつて容易であり、又この前提がなければ解決の途は望み得ない。

このような前提になつたうえで、現在の住宅問題の要點をまとめると次のようになる。

（1） 住宅の絕對的不足と老朽化。

（2） 不足狀態の甚しい不均衡

（3） 生計費中、住宅費にふりむける餘裕が非常に低下している。

（4） 市街地が地主資本に專有されて、その合理的使用ができない。

從つて、第一に一切の勤勞者に健康で文化的な住宅を保障しなければならない。住宅問題の根本的な解決は先づ家を建てることであり、これを安く勤勞者に供給することである。戰災や災害で數百萬戶の住宅が不足しているにも拘らず、政府はその責任を殆んどサボつて、大部分民間の建設にまつているが、この民間の建設も大部分が資本家や大ヤミ業者のものであり、しかもそれすら最近では建ちかたが減つてきている。わが黨は先づ、勤勞者の住宅の確立を主張する。

第二に、超大邸宅、遊休建築が依然として殘つていることが注目される。厚生省の佐藤博士の調査によれば、一般に復興しつつある住宅で、一人當り三疊以下という住居水準が八〇%を占めているにもかかわらず、大邸宅地域では一人當り三疊以上のものが二二%に達している狀態で、いかに餘裕住宅の解放をサボつているかがわかる。わが黨はこれら超大邸宅を積極的に解放し、これを人民によつて管理することを主張する。これによつて大資本家も人民とともに住宅難の切實さを體驗し、その建設に協力するだろう。尙超大邸宅に對する高度累進課稅を併用する必要がある。

第三に、過去には、生計費の一五——二〇%を占めていた住居費が、現在は四%にすぎない。この事實は勤勞者の生活費の中で、住居費に見込む部分が極めて少い程の低賃銀が支拂われていることを示している。このような低賃銀と長期資金の不足とは、勤勞者住宅の建設を不可能にし、その結果尨大な權利金を生むようになつた。この影響を最も強く受けるものが勤勞者であり、その最大の原因が政府の低賃銀政策であるから、これに對しては當然に、國家の責任と負擔によつて住宅が大量に建設され、しかもそれが勤勞者の生計費で賄える家賃で貸與されねばならない。

この財源は、インフレ利得者、大資本家、大ヤミ屋からの稅收又は低利債券引受などにより、その配分及管理は勤勞者が組織的に參加している民主的な機關に任すべきである。

これは、前述の住宅解放をも行う組織として住宅委員會を設けることを主張する。委員會には、需要者としての勤勞者組織の代表、供給者としての建設工業團體、官廳及專門技術家とが參加する。これは地區毎に設け、その地區の狀況を調査し、その實情を明かにしておく、これは都道府縣の住宅委員會によつて總括され、その判定に基い

て國家が餘裕住宅に所有權を設定し、入居者を決定、或は國營住宅の配分を決定する。

更に、都道府縣住宅委員會は、全國を數地方に分割した地方住宅委員會で總括し、行政官廳はその指示に從つて建設を實行する。

わが黨は縣と國家の負擔によつて建設を行い、人民によつて配分することを主張する。

住宅を個々の勤勞者の所有にすることは住宅費の實質的な負擔を全部勤勞者に押しつけ、賃銀中の住居費部分だけ實質賃銀が減ることになつて、結局勤勞者に不利であり、ブルヨジア的な政策であるからわが黨は反對する。

住宅組合による建設或は分讓も、その住居の負擔が貸家に比べて實質的に大きくなるので、これも結局勤勞者の負擔とならざるを得ない。從つて住居のような基本的な生活手段は、國家によつて整備さるべきである。

第四に、現在の住居水準が以上の原因によつて非常に低く押し止められているので、今後建てられるものも、この水準で考えられており、例えば現在の公營住宅もその一戸當りの面積が七・五一一〇坪程度のもので、多家族の勤勞者に當然必要な面積には遙かに及ばない狀態である。

又給排水などの設備もわるく、居住者は衛生上の危險に絶えずさらされている。その上に過密住居によつて日常の生活に及ぼす苦痛は甚しい。

わが黨は、一切の勤勞者にその家族數に應じた大きさの住宅を與えることを主張する。又基本的な設備、給排水、燈火、便所は完全でなければならない。

尙、建設は集團化して　托兒所、保育所、診療所、配給所などの共同施設を完備し、全體として合理的な面積の節約を計るようにするとともに、特に主婦の解放と子供の完全な保育に注意しなければならない。

第五、に市街地の投機的所有が計畫的な住宅建設を阻む要素となつている。これを公有にして、住宅委員會が管理することを主張する。尙、敷金權利金を撤廢して、住宅委員會により適正な家賃を決定し、老朽家屋の修理を國家或は都道府縣の負擔において實行する必要がある。

第六に、民間建設業者の問題であるが、彼らが過去の植民地的な、人民には何らの利益にならないような工事態度を一掃して、勤勞者のための建設に協力するならば、黨はその事業を積極的に助けて、これを近代的に機械化し、工場生產化することを主張する。

この際資材、資金その他の配分は住宅委員會の下に行われなければならない。

最後に不動產取得稅その他の建設を阻害する一切の大衆課稅と惡法は以上の基本方針に反するから、これを撤廢してむしろ大衆の購買力をふやすことによつて住宅建設を容易する事を主張する。

技術部と管工事部會

（3月16日正午—2時　於清交社）

瀧鹽章氏外技術部員今西安衞氏外管工部計13名會合大和常務理事司會、意見交換後兩者が將來の復興に善處すべき事共懇談し有意義な會を閉じた。

當日語られた主なる話題は、管工關係資材は戰前の約70%程度に復している。技術面も凡其域になつてるが作業慾まだ職人は充分という處に到つてない。昭和13年頃管財局の標準規程に從つてやつていたが戰時中隨分無理をしていた。一定の標準がほしい。設計には管工事面のスペースを充分考慮すべきである。施工に當つては綜合より離すべきが本當である。アメリカはプラマーが相當重要視され又權威もある。文化の向上と共に復興日本に於いてはプラマーは重要の地位にあり一層の努力と勉强が必要であり、又工員の養成も急務である。然して附帶工事と云う事を脫却せねばならぬ。技術面に就いては充分な檢査と嚴格な監督の下に良い施工をし技術の向上を期する事。業者は衞生施設の重大性其他につき宣傳する要があり、又立派な仕樣書や又四會連合でやつてる樣な工事請負規程等も一定の良いものを作成する等々でつあたが、最後に經費面等懇談し相互非常に利する所があつたので、今後も此催しを時々續ける事にした。

基　礎　杭

ペデスタル基礎杭

太洋組株式會社

大阪市北區絹笠町堂ビル3階

電話堀川㉟1820. 951番

木村寛一さんを偲ぶ

木村さんが去年の晩れ霜の一夜に夢の如く去られてから早くも２ケ月を迎えたが、吾々は愛慕の念禁じ難いものがあり有志相計り、去る１月24日同氏の命日を期して故人にゆかりのあつた市内高麗橋吉兆別邸で想出の會を催した。當日は協會の會勢委員を中心に故人に緣故の深い方々に案内したが支障の方もあつて會する者10餘名であつた。山本義樹氏司會で座談を終り眞口愃夫氏謠曲百萬の內笹の段を謠ひ弔意を表したが、更に同君の若かりし頃のニツクネイムにもぢつて貫一お宮を唄う事を申合せ、一同感慨無量の裡に熱海の海岸の一節を低唱し冥福を祈つた。茲にその語り草の概要と當日不參の方から寄せられた短信を誌し同君の想出の記とした。　(本記は順序不同。紙面の都合上重複の點削除。或は短縮などした事と文責記者にある事を諒せられたい。(山本記)

火鉢圍んで貫一お宮を唱ひけり
語り終るや梅の香りの芳しし

……

中西六郎氏（同級）本村君は大正12年の早大出身で同期であつた自分は大阪市に就職、木村君は當時農人橋の橋本組に入社した。學生時代は寛ちやんのニツクネームで皆から愛されていた。社會に出てからも自分は貫ちやん式でザツクバランの交際をしたが、貫ちやんはなかなか左に非らずで職業意識と云うか誠に叮重な言葉と謹嚴な態度で應對され聊か面喰つたと云う狀態でもあつた。宗教は佛教かクリストか二又の樣だつたが此間頂いた御禮狀には七七日取越しとあり佛教が本家かとも思つた。結婚式の時は教會であつたがクリストは奥さんの方が熱心であつた樣に思う。學生時代から物を考え過ぎる方で試驗の時など前年の問題をタンネンに研究したり相當氣にしていた。又木村組を會社にする時も非常に考慮していた。死期を早めたのも一面こうした考えすぎも禍したでないかと思う。終焉のホン數日前或る事でワザワザ電話して來たがあれが最後とは想わなかつた。道樂も餘りなかつた樣だ。本人とは誠に親交深かつたが今にして想えば家庭的に大變不義理が多く申譯なく感じている。尙告別式の時は折悪しく自分の方の電車がストで殘念ながら參列叶ず自宅から遙拜するなど全く失禮した。本席は御夫人にお遭したら平素の無沙汰や何かと心からお詫び申上げたいと考えていた次第である。

志垣正次氏（會員）木村組創立當時からの知己であつたが會勢會で一層懇意にして頂いた。何時も世話になる計りで申譯なく想つていたのに、急に亡くなられ誠に殘念に耐えない。協會が御堂筋に會館設置すると云う時の問題などとても熱心であつた。實に惜しい方であつた。

竹腰健造氏（會長）朗かな太つ腹の方と想つていたのに、……ホントに意外であつた。協會の爲めには終始御熱心で常に感謝と感激の念に充ちていた。恐らく自分の任期中あの位會勢發展に御盡力された方は先ずないと言つても過言でないだろう。今にして想へば御生前何かの御相談でもあつたら多少でも御力になる事があつたのでないかと愚にもつかぬ事を思うのである。何等酬ゆる事も出來ず甚だ申譯ない次第である。これと言うも稀に見る精神的人格者であつたからと考える。言葉はおかしいが今少し人が悪かつたならなど考える。何れにしても惜しい仁であつたし、協會としても大きな損害であると思う。

山本義樹氏（會員）種々の事情と多忙でつい去年夏頃から疎遠になつていたが、何事も熱心な人だつた。遊ぶ事もトコトン迄行く人だつたと思う。又普通に見られぬ人格、容姿、言語どの點から見ても一般男女共に好かれる素質の持ち主だつた。チヤランポランを言う事の出來ない誰からも好感を持たれる人であつた。

山田芳夫氏（知己）自分は理髪師で職業柄隨分知名の士とも面識が多いが、自分の性質として威張屋ば大嫌いで床屋など呼ぶ人には一遍にお斷りと言う職業人として聊か變人の部に屬する者と自信している。木村さんはとても叮嚀な方で

吾々にもさん附され又旅行された時など何かと土産物を頂くなどとても親切な細い所に氣の着くよい紳士でした。そんな關係で少しは建築の世話もしたが少しばかりの自分の家を遠慮して頼まなかつた時は聊か、御氣嫌が悪かつた様だつた。木村さんは別に金の事など深く考えてなかつた様だが……又鳥取支店出張の時お伴し世話になつた事もあるが、一面フトなどせられお聲も相當のものだつた。又やつし屋の方で御承知の様に一寸髪の恰好も異つてゐた。7日か10日目には必ず來られた。最近私の型は古いので息子の方がお好だつたと思う。ともかく信頼していたのに意外の急逝で殘念にたえない。

堀口龜吉氏（會員）科は異うが同窓の知己だつたが、協會、會勢會でその熱心といつも馳走になりお禮する事も出來なくなつた事が申譯ないと思う。いつも紳士的態度で常に敬服していた。あの忙しい中を奈良の見學の時馳せつけられなど今に眼に殘つてる。話はズツト古いが橋本組時代に面會に行き前後4時間待された事がある。後で實はスツカリ忘れて外出した誠にスマンスマンと其責任を感じられ長く氣にしておられ爾來一層懇意に願つた。再びお目にかかる事が叶ず誠に淋しい限りである。

中野順次郎氏（會員）欠點のない圓滿家、そして理屈を言わぬ、愛嬌、觸感の良い、聲がよい更に身だしなみのよい、氣持から來たいやみのない輕いおしやれであつた。一面挨拶が上手で順序だつた周到な無駄のない而も叮重な實に甘いものだつた。和歌山支部發足打合の時淡輪で相方有志會合の時などの挨拶は全く感服した。又非常な親切家で人の世話もよくされた。

野中駒市氏（會員）一面から考えると損な人でもあつた。夫は島の內署で或委員同志であつた時何か面倒が起ると一人で東奔西走物を纏めると云う苦勞人であつた。例の大谷會館と協會問題も自分が鐵道の方を連絡したが遂に纏らなかつた。あの時も木村さんは一方ならぬ苦心された。又小唄や義太など上手で藝能人であつた。

眞口愷夫氏（會員）言わんとする所は大方話され殆ど同感で何にもない。自分も此の會勢委員で知遇を得て常に心服していた一人である。將來益々指導して頂きたいと念じていたのに永遠のお別れとなり全く夢の様で只々人生朝露の感で胸一杯である。

中尾保氏（學友）木村君は級中の人氣者だつた。お宮貫一に通じて貫ちやんと云うニツクネイムは餘りにも有名だつた。剽輕な中に非常な眞面目な青年であつた。時々うどんやで一杯やつてる所を見受けた中西君に酒はバーかおでんやで飲むんだこんな所で呑むヤボな奴があるかと言われても、いやこれが一番僕の樂みだと言つて依然としてうどんやで飲んだ、自分も貫一さんに再三おごつて貰つた。木村君の思出は澤山あるが何にしてもまじめ、几帳面な性格は却て同君に禍したと見える、惜しい事をした。建築界の大損害である。遠因は歸する所現下の社會情勢、政治の貧困に在るとも言える。建築界も反省し同君の死をして無意義に終らさぬ様したいものである。

庄野貞一氏（知己）木村さんの結婚式に參列してから昵近となつた、それは奥さんが學院第一回卒業生であつたからである。其後ゆくりなくもあやめ池協會の援助で出來たあの厚生住宅地で隣組となり一層親しくなつた。文樂や又中座の柿葺落の招待や其他會合によく招かれ、樂ませて頂いた事など一瞬の夢となつたのは誠にかなしい事である。氏は溫厚篤實の人格者で律義な人であり乍ら一面ユーモアもあり、美聲で義太も垢抜けがしていた。滋味に富んだ誠に惜しむべき好紳士であつた。

星　廣文氏（會員）學窓を出てすぐ御世話になつたのが上野先生ついで中西先生であつた。兩先生共木村さんとは同窓で親しい間柄で其關係から自分も木村さんとは特別御懇意に願つていた。想い起せば15年も前のこと、木村さん施工の神戸聚樂館の落成式に招かれた時、若氣の至りこれは鐵骨のバラツク建築ですねと言う意味の批判して反つておほめに預つた事を記憶している。若い者の意見をよく受入られしかも情を以て指導されていたあの溫顔を思い浮べ感慨深いものがある。

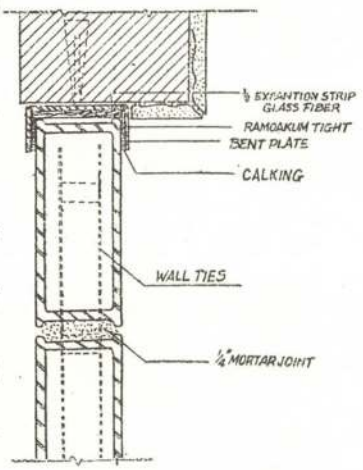
大和榮衛氏（協會事務局長）私が協會就職當時職員間の茶話に協會の三人男を選び一同激賞將來

の大成を期待したのは、當時大林組營業部長吉井さん、設計事務所經營中の岡部さん、橋本組營業部長木村さんの三人であつた。三者共容姿、體軀、圓滿親切、溫和の好紳士で然も協會に非常な熱心家であつた事も亦職員に對する思いやりの深かつた點も之又期せずして三者共通の持主でもあつた。更に私個人的にも奇しき因緣で三人の方には非常な御世話と御愛撫を願つた。其後吉井さんはアメリカから歸られて間もなく旅行中急病で倒れられ、岡部さんは終戰直後の遽しい中に亡くなられ誠に淋しく感じていたが、又最後の一人として居られていた木村さんは公私共に深く賴りとしていた丈に同氏を失つた事は眞に掌中の珠をさらわれた心地である。訃報を耳にした時思わずも「慈父に別れし想抱くや年の晩」を駄句つたのは當時の私の實感であつた。想えば長い間に社員も10餘人紹介したが、中には隨分迷惑かけ申譯ない事件が起つた場合も　あんたの罪でないと許されたり、何事を賴んでも快く引受けられ、いつ行つても忙しい中を協會のため直に引見された。戰時中協會が朝日から一部追出しを喰つた時は、備品圖書の疎開先に困つた時一諾、同社の寮と倉庫に預られた時は大變助かり、戰時中、協會が出雲大社旅行の時、鳥取支店から一同に大變なサービスを受けたり、委員長時代、會合度にいつも何かと自辨で接待されたり、數え上げれば限りなく只々感謝の二字で一杯である。本支店社內には必ず神棚を設け出入時は誰がいても必ず眞劍な態度で拜され　同席の者が思わず身のしまるを覺える位で神佛の御信仰も强かつたのに……噫、世は夢か幻かの感が深い。

弔句　　小夜の嵐に大輪の菊散らしけり
　　年の瀨や慈父に別れて如何にせん

最近アメリカの硝子ブロツク施工方法に就いて

硝子ブロツクが積上げ施工後に於いて破損する場合のあることは私共の一番惱む課題でありましたが、絕對に近いまで信賴度を高めようと苦心を拂つて參りました處、アメリカの技術書を基礎とし、之れに20年の經驗を生かして結論を得ましたものを下圖の圖面に致しました。尤も1個1個の硝子ブロツクの周側面にアルミニユーム鍍金、ゴムアスベス塗料を0.5%以上塗附し、セメント1、砂4の割合のモルタルにて積上げる方法であります。



以上を要約致しますと、如何にエツクスパンシヨン・ジヨイントが破損防止の決定的な要素であると云うことに盡きると云えます。

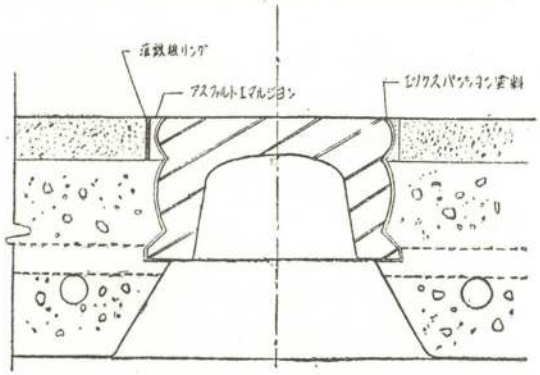
（防止の方法）　硝子の伸縮に對してエツクスパンシヨン・ジヨイントを設けることであり、プリズム硝子の周側面にアルミニユーム鍍金をなし副射熱線を反射さし硝子體に熱の吸收を防止し、之れにエツクスパンジヨン塗料を0.5%程度を塗附し、上面より約1.5cmを殘してコンクリートスラブに打ち込み、殘された硝子の部分に薄鐵板のリングを嵌めて目地仕上げなしたる後リングを取除き生じたる間隙にゴムエマルジヨンを突つ込んで仕上げます。

（コンクリートスラブ）に直打する（ペブメント）硝子の破損防止の方法に就いて

破損の狀態（ペブメント）硝子の表面上より約2cmの深部までに於いて周圍部より中心部に向つて環狀に貝殼狀態を呈する龜裂を生じて之れが脫離に破損するものなり

（原因）　硝子が異狀なる熱度を吸收せる場合異狀變化をする點は硝子が粘稠性狀態より脆弱性の固體に轉移することであり、この際に膨脹を伴い、1m の長さに對して膨脹する長さを%で表はせば下記の通りであります。

溫度範圍　C°	a	m　%
9.7—13.1	7.43×10—6	0.671
13.1—102.8	6.64×　〃	0.770
102.8—182.5	5.10×　〃	1.176
182.5—252.8	1.65×　〃	1.294



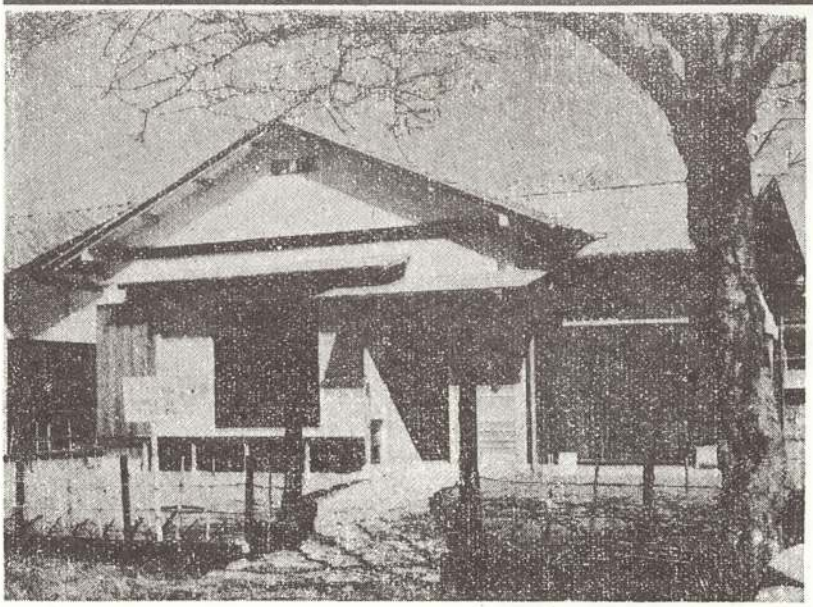
この伸長率 t ◁ と溫度との關係は 20～500° に於いて

$\triangle t = 0.778\left(\frac{t}{100}\right) + 0.0296\left(\frac{t}{100}\right)^2$ m%（ペブメント）

硝子が膨脹して周圍部の（コンクリート）を壓迫して（コンクリート）の抵抗に逢い龜裂を生じ斷續的な衝撃を受け龜裂から離脫に移行するものなり。

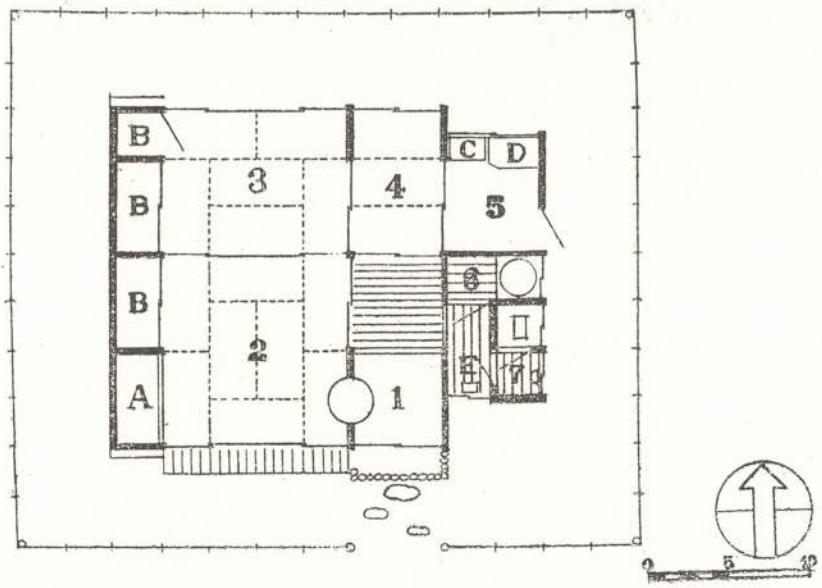
名古屋市分譲住宅





所在　名古屋市瑞穂區東栄町八丁目
設計　水野建設株式会社
監理　名古屋市住宅部建築課
施工　水野建設株式会社
竣功　昭和24年9月25日
構造　木造平家建屋根錆色厚型スレート葺
規模　15坪
外装　腰竪羽目板張防腐剤塗其他白漆喰塗
内装　八帖砂壁其他鼠色大津壁天井は總て竿縁天井

本住宅は名古屋市制六十周年を記念して計畫された分譲住宅二十戸のうちの一戸であります。限られた豫算と期間内で當時としては相當の無理をして約一ケ月という短期間に設計施工しましたので不備な點が多々あります。施工に無理をしたので若干遺憾な点もあるが設備は大体に完備したものと信じております

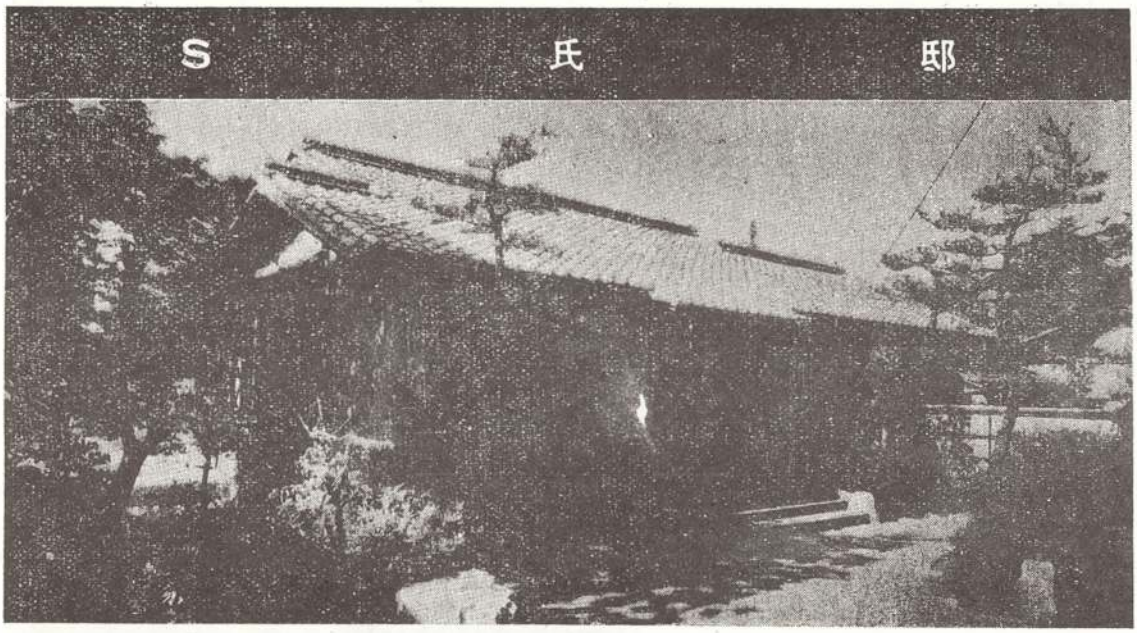


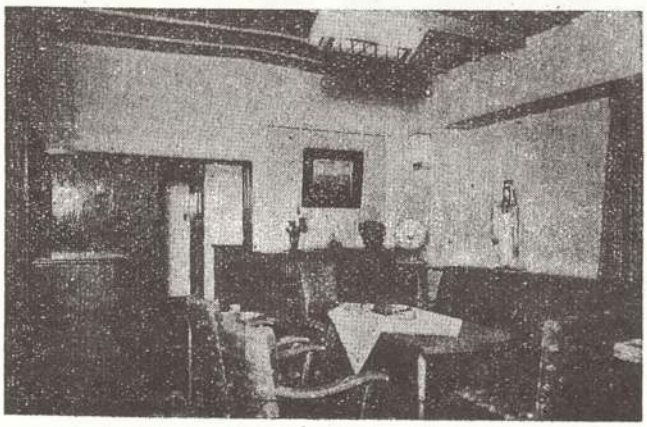
平面図解說

1	玄關	6	浴室
2	八帖	7	便所
3	六帖	A	床
4	三帖	B	押入
5	炊事場	C	流シ

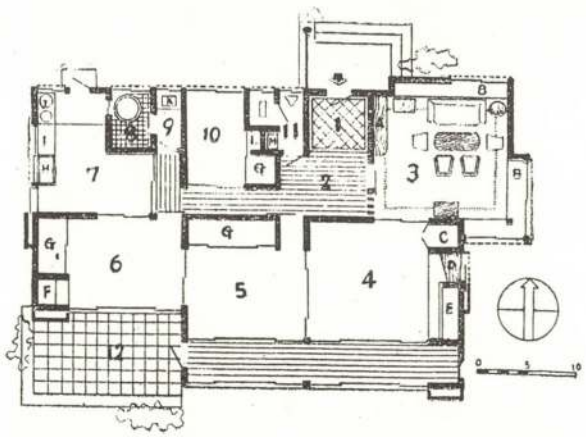
D　竈（ガス設備二口あり）
E　洗面所

S　氏　邸

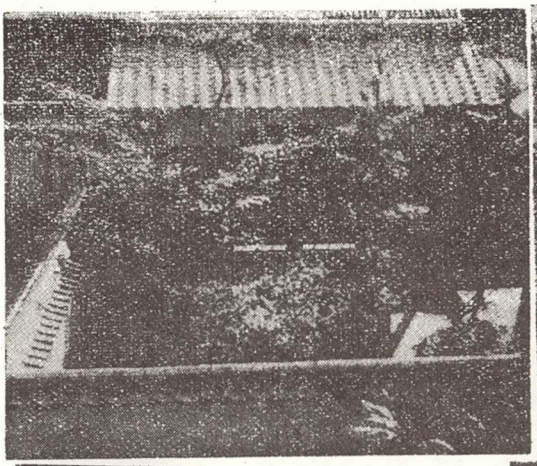


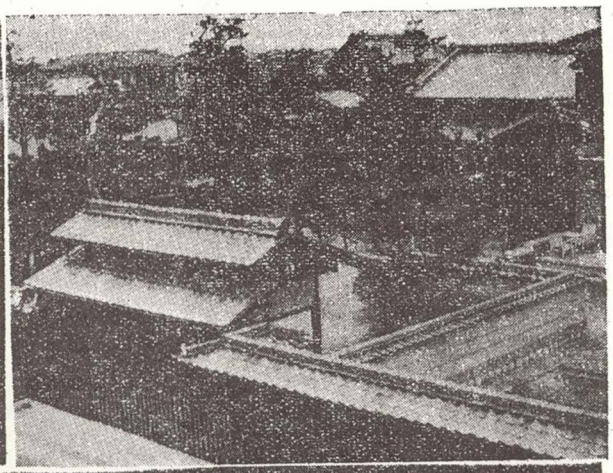


所在　名古屋市東區白壁町
設計　日本建設産業株式会社名古屋支店建築課
監理　全　上
施工　竹中工務店名古屋支店
竣功　昭和23年12月
構造　木造平家建　日本瓦葺
規模　建築面積　30坪
外装　リシン掻落シ仕上
内装　應接　大壁　ペンキ小叩キ仕上
　　天井　シンキ竹漆喰ハミ出仕上
　　床框木貼
　　客間　和式　天井二重廻縁棹縁天井、壁眞壁京錆

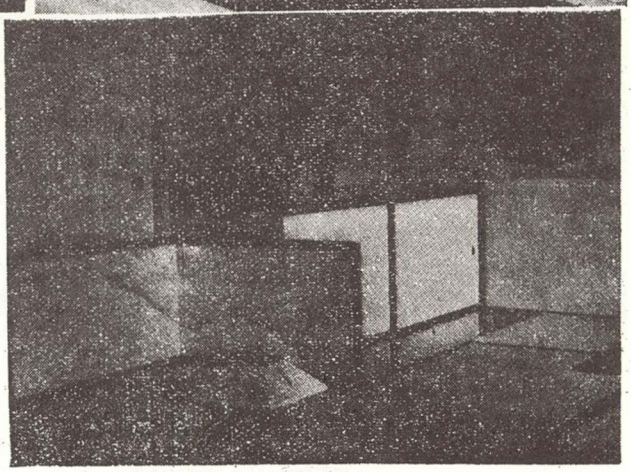


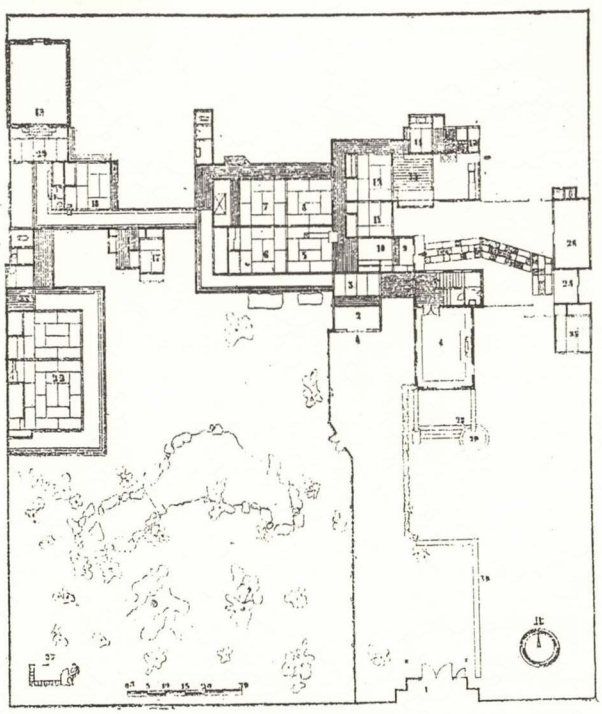
1 玄　関　A 飾　窓
2 廣　間　B 出　窓
3 應接室　C 押　入
4 居室八帖　D 脇棚
5 居室六帖　E 床間
6 居室六帖　F 床の間
7 台　所　G 押入
8 浴　室　H ガス料理ヤ
9 脱衣室　I カ
10 女中室　J 洗面器
11 便　所　K 物入
12 テラス　L 手洗
　　M





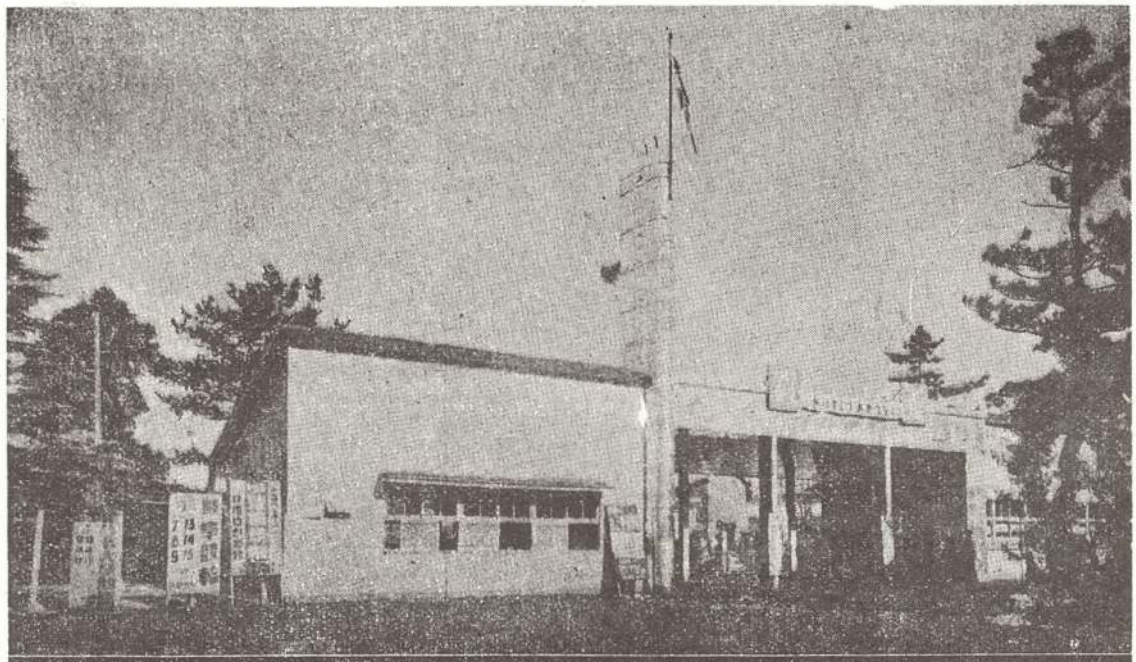
S E 氏邸



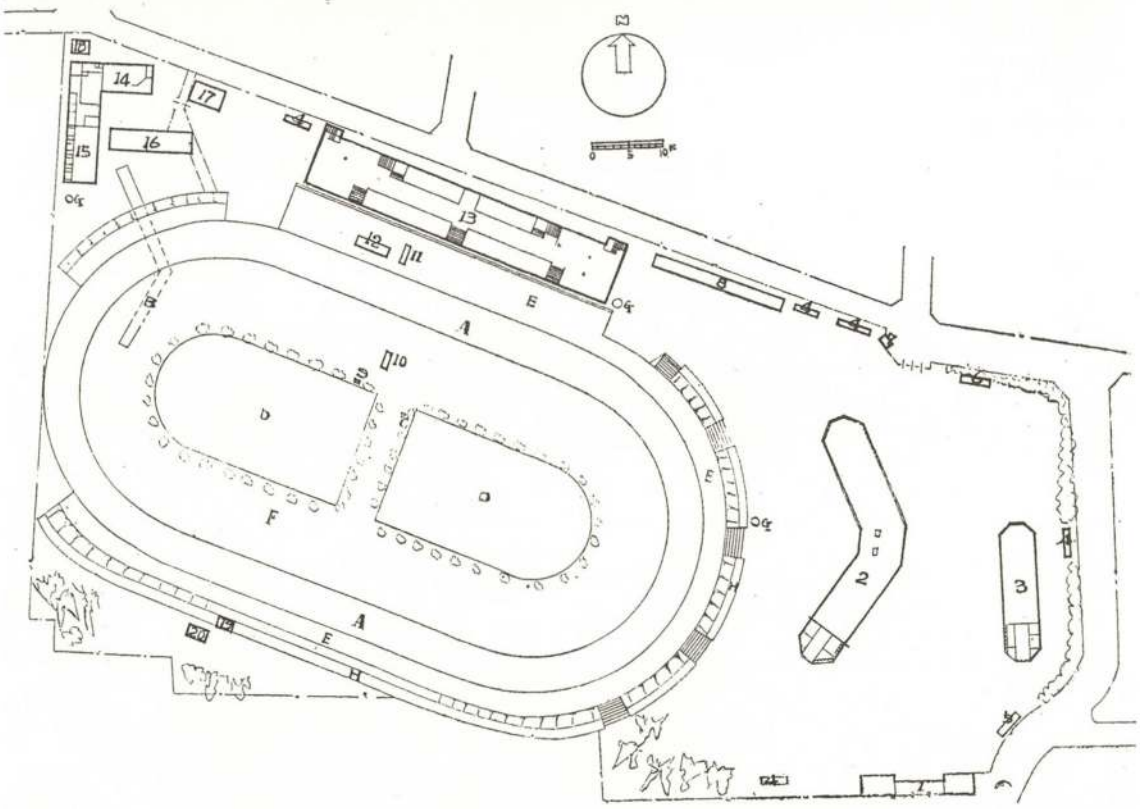


所在　津島市向島中ノ町
設計　篠田川口建築事務所
監理　同　上
施工　直　營
着工　昭和21年5月　工事中
構造　木造日本瓦葺、平家1部2階建
規模　1階、124坪615　2階21坪875　合計146坪490
外裝　本家、眞壁式腰1部竪羽目板貼り黒漆喰塗り
應接室、大壁式ハーフテインバーモルタル塗リ仕上げ
ポーチ、床大理石モザイク貼り手摺及段石は櫻御影
土塀は高5尺瓦斗瓦積ミ目地白漆喰仕上ゲ
內裝　應接室床寄木貼リ壁、壁紙貼り天井砂壁仕上ゲ

1. 表　門
2. 表玄關
3. 取　次
4. 應接室
5. 主人室
6. 客　間
7. 佛　間
8. 主婦室
9. 內玄關
10. 取　次
11. 女中室
12. 茶ノ間
13. 炊事場
14. 化粧室
15. 浴　室
16. ボイラー室
17. 茶　席
18. 裏座敷
19. 藏
20. 藏　前
21. 水　屋
22. 離レ座敷
23. 物　置
24. 裏　門
25. 下部室
26. 物　置
27. 待合
28. ポーチ
29. 水　泉
30. 土　塀



名古屋競輪場

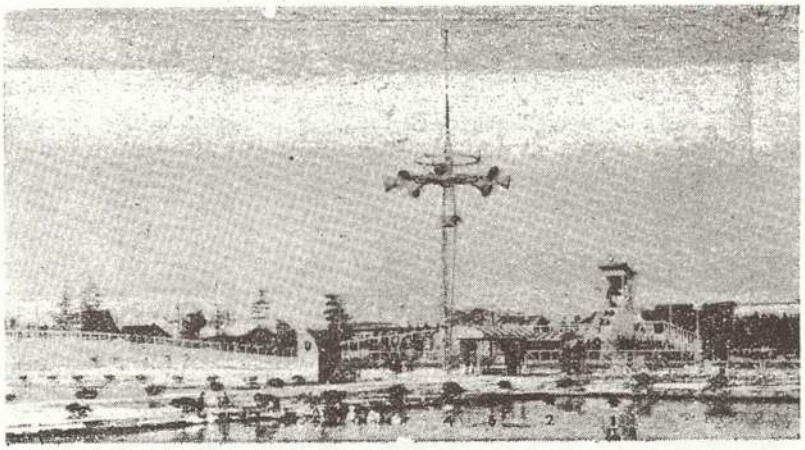




所在　名古屋市中村區中村公園敷地內
設計　名古屋市復興局建築部
監理　名古屋市復興局建築部
施工　大林組名古屋支店
竣功　昭和24年10月23日
構造　木造屋根厚型スレート葺一部亞鉛鐵板葺平家建
規模　建築面積 639坪6合5勺
　　延面積　639坪6合5勺
外裝　板張りペンキ塗及クレオソート塗り
內裝　天井上壁プラスターボード張り腰壁竪羽目板張り

1. 正門入場券賣場
2. 車券賣場
3. 拂戾所
4. 便所
5. 手荷物預所
6. 休憩所
7. 北門入場券賣場
8. 賣店
9. 選手便所
10. 選手溜
11. 審判所
12. 本部役員室
13. 鐵骨スタンド
14. 管理事務所
15. 選手控室
16. 自轉車置場
17. 警察車置場
18. 物置
19. 時計塔
20. ポンプ室

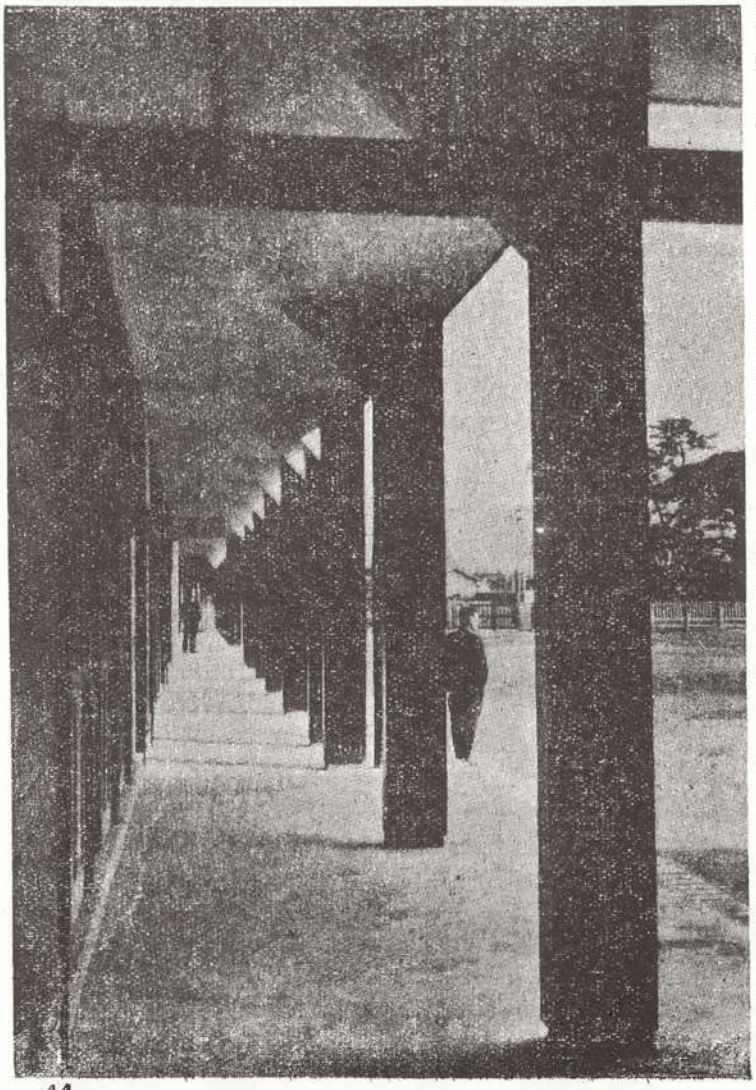
A. 走路
B. 地下道
C. サイレン塔
D. 池
E. スタンド
F. 芝生
G. 水呑場
H. 水路



1. 審判所
2. 本部役員室
3. 選手休憩所
4. 擴聲機鐵塔
5. 選手休憩室附屬便所



名古屋市立柳小學校



所在　名古屋市中村區烏森町大字五反畑地内
設計　名古屋市復興局建築部
監理　同　上
施工　株式會社　三浦組
竣工　昭和24年8月13日
構造　木造　厚型スレート葺　2階建
規模　1階　333.82坪　2階　258.52坪
　　合計　592.34坪
外裝　横羽目板張リクレオソート塗り
　　一部竪羽目板張リペンキ塗り、小壁、軒天井モルタル漆喰塗り仕上
内裝　床檜條甲板張リ　腰横羽目板張リ
　　壁漆喰塗り　天井折上天井

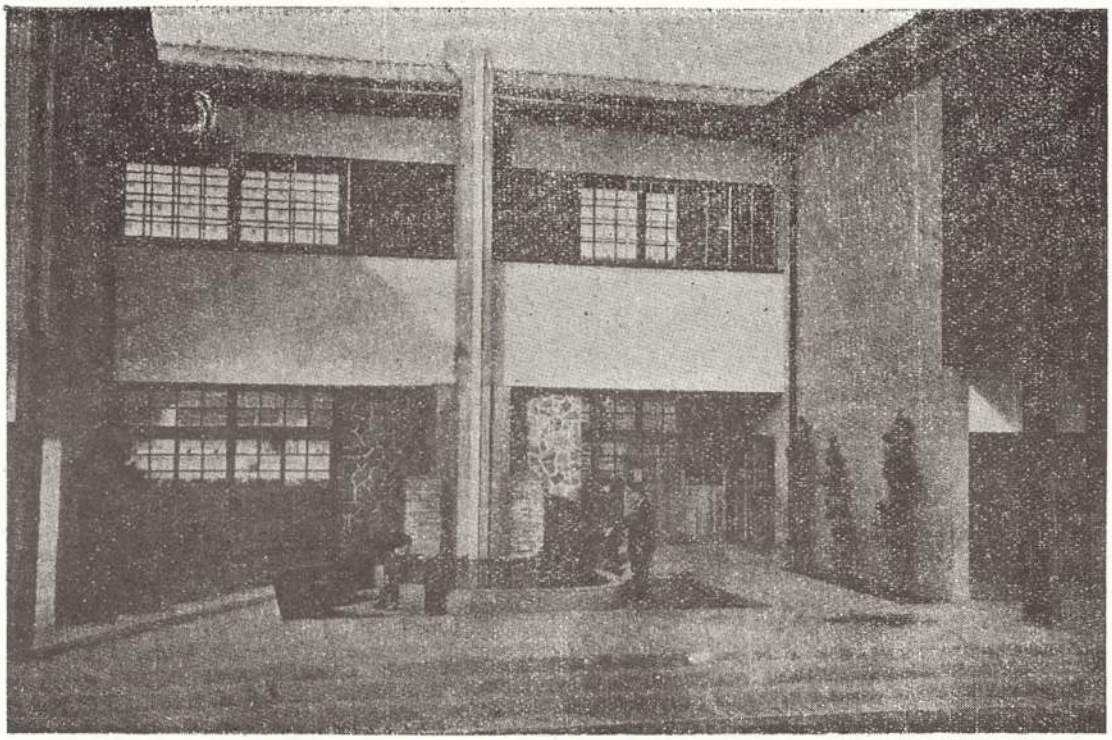
（特記事項）

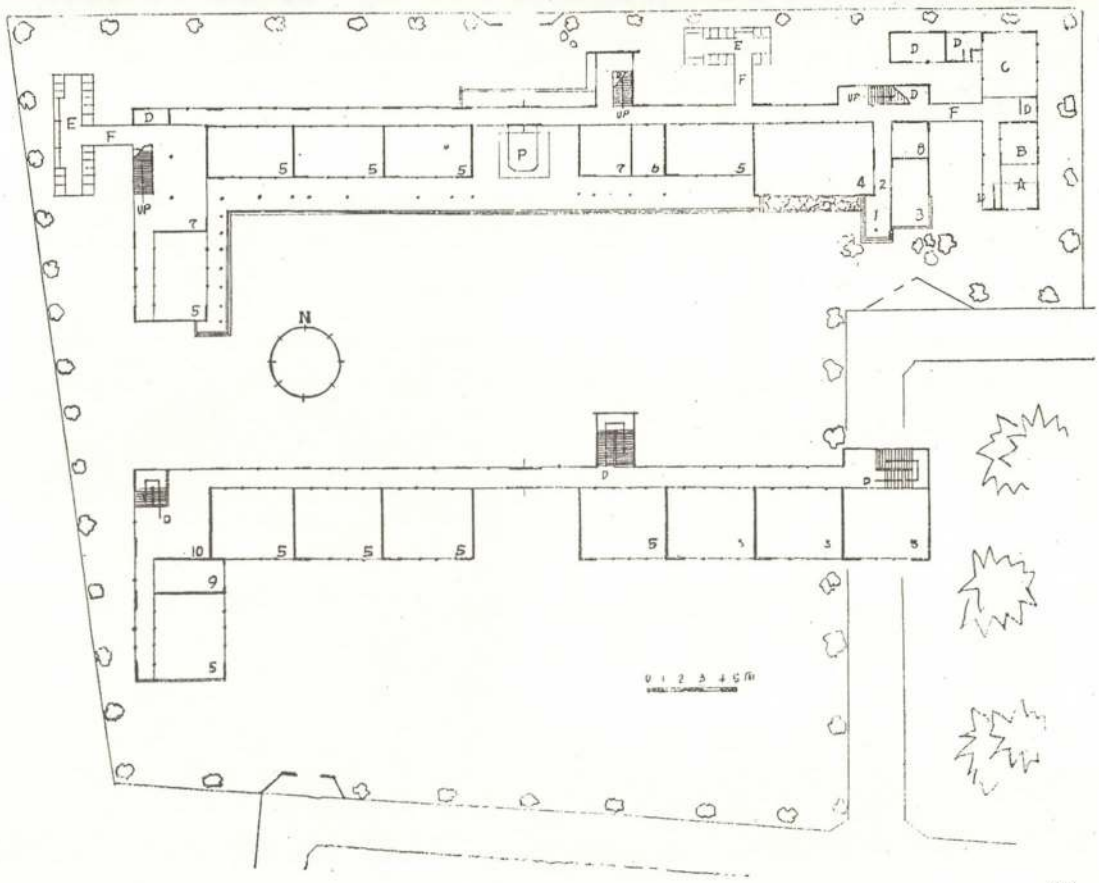
南は一區劃を於いて往來の繁しい街道に至り、北は道路を隔てゝ高等學校に、西は計畫高架路線に接する狹い校地ではあるが、東は老樹の茂る公園豫定地に接するので將來はこれも校地の一部であると言つた考えを持ち「自然」と云う設計課題とした。總て平面計畫であるが、先ず公園を經て校門に至ることは眞に清々しいものであるから、正門を東にした。この事が自ら管理室關係の位置を決定した、從つて教室の配置を決定されて行つて、偶々當初より望んだ處まで兒童中心主義の平面が出來上つた。2階を高學年に1階は低學年を收用する事は固より、特に1階は南、東側に教室の一部と見なす「テレス」とし開放的に取扱い突發的の事故災害時の逃避を考慮した。この事が又「アクテイビテイ、カリキユラム」に効果的な結果を得ると思う。尚、豫算の都合で南の教室二つが削除されたことは殘念なことであつた。

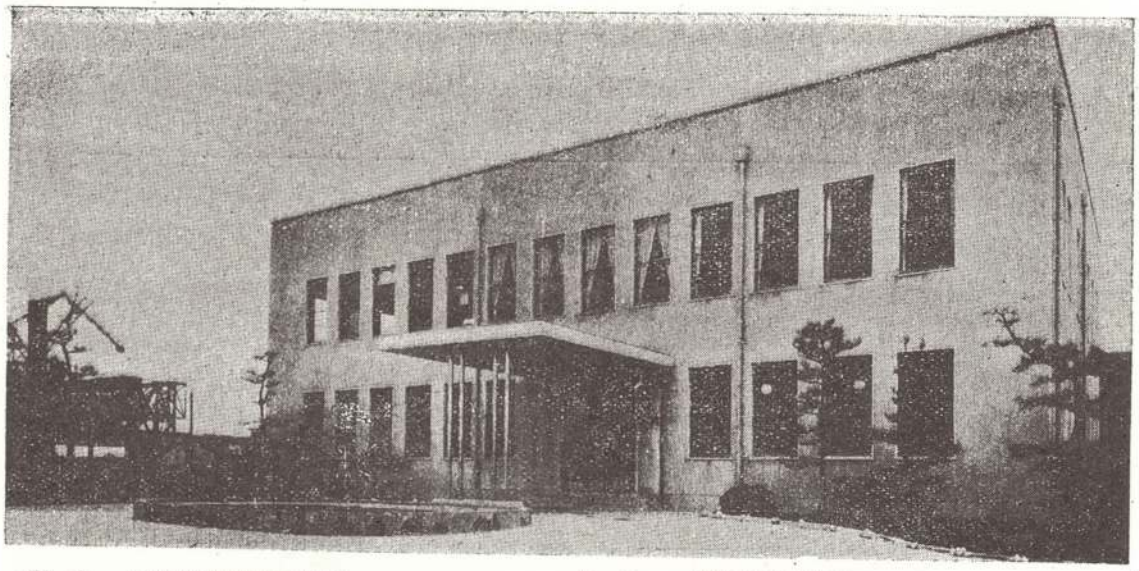
平面圖說明

1. ポーチ
2. 玄關
3. 應接室
4. 職員室
5. 教室
6. 衞生室
7. 脫衣室
8. 宿直室
9. 研究室
10. ロビー

A 小使室
B 湯沸場
C 給食所
D 物置
E 便所
F 渡リ廊下
G 池及足洗場



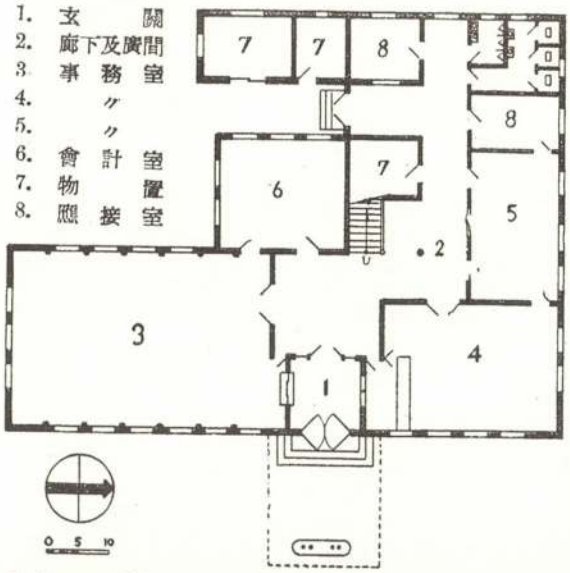

N
0 1 2 3 4 5m



所在	三重縣四日市市千歳町	施工	大林組名古屋支店
設計	日本建設産業株式會社名古屋支店建築課	竣功	昭和24年11月
監理	同上	構造	木造大壁造り 2階建
規模	1階 123.50坪 2階 116.50坪 屋階 5.00坪 合計 245.0坪		
外裝	ワイヤーラス張り色モルタル掻落し仕上、窓上げスチールサッシュ		
內裝	床椰纖甲板張り、壁漆喰塗り、腰油性ペンキ塗り及びベニヤ板張り、天井漆喰塗り及びプラスターボード張り水性ペンキ叩き仕上げ		
特記事項	四日市港に面する元四日市商工會議所（昭和5年竣功）の建物を舊態をとどめぬ程大改造したもので、屋上は陸屋根とし屋上よりは四日市港を一望におさめてゐる。5mm厚4′×4′を窓に使用し其他硝子を非常に多く使用している。		

一階平面圖

1. 玄關
2. 廊下及廣間
3. 事務室
4. 〃
5. 〃
6. 會計室
7. 物置
8. 應接室





日本板硝子四日市工場事務所

各會記錄 昭和二十四年度

（總會、評議員會、理事會、部會、各委員會）

總會

臨時總會

5月24日　大林組講堂　出席者　2名

昭和23年度決算報告……承認

昭和24年度收支豫算の件……原案承認

顧問推薦に關する件……池田實氏外10氏推薦承認

通常總會

1月27日　大阪建設會館　出席者310名、672口（委任狀共）

1. 監事及び評議員選擧……監事1名、評議員24名當選（別紙會告の通り）
1. 定款一部變更に關する件……原案承認（別紙會告の通り）

評議員會

第　1　回

5月18日　朝日ビル本會事務所　出席者55名（委任狀共）

昭和23年度決算報告……承認

顧問推薦に關する件……池田實氏外10氏推薦決定

常務理事辭任につき後任承認の件……中澤誠一郎氏辭任につき後任として書記長大和榮衞氏を選任決定

第　2　回

9月19日　朝日ビル本會事務所　50名（委任狀共）

議案　第1號　細則一部變更に關する件……會費及び入會金値上げ承認

第　3　回

11月21日　朝日ビル本會事務所　44名（委任狀共）

議案　第1號　細則第12條による評議員選出數決定の件……原案承認（本部24名、兵庫4名京都2名、東海1名、中國3名、九州2名）

第2號　定款一部變更に關する件……原案承認（別紙會告の通り）

第3號　細則一部變更の件……原案承認（附則中不必要事項削除）

理事會

第　1　回

4月14日　兒島邸本會分室　竹腰會長以下23名

議事　定例日決定の件、理事會務分掌の件、理事會申合せの件、各委員委囑の件、春季大會及び支部長會議開催の件、資料集發行の件、申繼事項檢討の件、會員詮衡

報告　昭和23年度決算並びに建築便覽決算報告、其他諸報告

第　2　回

5月9日　朝日ビル本會事務所　大林副會長以下10名

議事　顧問推薦に關する件、評議員會並に臨時總會開催の件、委員委囑の件、春季大會並に支部長會議經費の件、大阪商工會議所並に關西經濟連合會入會の件、會員詮衡

報告　4月分會計報告其他諸報告

第　3　回

6月8日　朝日ビル本會事務所　竹腰會長以下10名

議事　諸規程檢討の件、地震對策委員會より經費要求の件、財產目錄承認の件、行政、災害調査各委員會設置の件、支部地域變更の件、大阪建設會館借室契約の件、職員上半期賞與支給の件、會員詮衡

報告　5月分會計報告其他諸報告

第　4　回

7月8日　朝日ビル本會事務所　大林副會長以下6名

議事　大阪府建築代理業審査委員推薦の件、建設業審議會大阪府委員推薦の件、大阪日々新聞社主催展出品方の件、大丸百貨店より展覽會開催方申越の件、ユネスコ國際圖書交換に關する照會の件、會員詮衡

報告　6月分會計報告其他諸報告

第　5　回

8月8日　朝日ビル本會事務所　竹腰會長以下14名

議事　借室料値上げの件、建材審査委員會設置の件、委員委囑の件、事務局規程改正の件、建築代理業者受驗講習會開催の件、會員詮衡

報告　建築と社會發行日變更報告其他諸報告

第　6　回

9月8日　朝日ビル本會事務所　竹腰會長以下15名

議事　細則一部變更の件、更正豫算の件、定款改正案懇談の件、評議員會開催の件、事務局係長任命の件、支出經費節約の件、會員名簿調製の件、會員詮衡

報告　7、8月分會計報告其他諸報告

第 7 回

10月8日　朝日ビル本會事務所　竹腰會長以下7名

議事　定款一部變更の件、建材審査委員會規程の件、家具工藝展審査員推薦の件、會員詮衡

報告　9月分會計報告其他諸報告

第 8 回

11月8日　朝日ビル本會事務所　竹腰會長以下10名

議事　定款變更案決定の件、評議員會開催の件、會員名簿調製の件、支部發展策の件、新會員募集方策の件、入札制度問題の件、建築學會長と會合の件、建設業審議委員再推薦の件、會員詮衡

報告　10月分會計報告其他諸報告

第 9 回

12月8日　朝日ビル本會事務所　竹腰會長以下10名

議事　木村理事逝去の件、　定款改正字句決定の件、通常總會開催の件、建築基準法及び建築士法案諮問事項の件、事務室暖房の件、四會連合工事請負規程委員會の件、會員名簿調製の件、會員募集の件、學會圖書取次販賣の件、會員詮衡、職員昇給並に賞與の件

報告　11月分會計報告其他諸報告

第 10 回

1月10日　大阪建設會館　竹腰會長以下16名

議事　定款字句決定の件、創立記念日の件、大丸共催住宅展の件、入札制度の件、創立35周年の件、會員詮衡

報告　12月分會計報告其他諸報告

第 11 回

2月8日　朝日ビル本會事務所　大林副會長以下9名

議事　展覽會並に建築行政委員會委員委嘱の件、十日會より申越しの件、朝日ビル事務室の件、ビニロンフイルム座談會後援の件、職員辭職願出並に採用の件、會員詮衡

報告　1月分會計報告其他諸報告

第 12 回

3月8日　朝日ビル本會事務所　竹腰會長以下8名

議事　朝日ビル事務室の件、25年度收支豫算の件、評議員會開催の件、役員重任の件、會員詮衡

報告　2月分會計報告其他諸報告

財務委員會

(1)　3月8日　於朝日竹腰會長外6名
二號會員募集、事業企畫、會誌問題等協議。

(2)　8月11日　於朝日、事業委員と合同會議、會費値上げの件、雜誌內容向上と定價改正會員名簿調製等を議し直に理事に進行方を傳達した。

住宅委員會

(1)　6月7日　總委員會開催委員長互選。
昨年來繼續事業の住宅金融公社促進運動が效を奏し近く建設省案が國會に提出されんとするに到つた經過を會誌發表並に連合建議した向へ周知方協議、本年度は住み方指導住宅の質。組立住宅の研究等をなす事を計る。

(2)　7月5日　委員一同堂島大樋北詰佐々木式ブロック建築中の現場を視察後朝日ビル事務所で其結果批判をした。次に理事會委嘱に係る大阪日々新聞社主催の生活展に後援住宅の部門につき援助出品する事とし中野順次郎、小林清、關屋毅氏に一任した、及今夏市內大丸で開く本會主催の之からの住宅展示計畫につき協議した。

(3)　7月12日　大丸にて總委員會開催大丸側共16人期間、會場展示內容、建材出陳、其他萬般決定、中野、小林、塚本三委員に實行プラン其他進行方一任。

(4)　7月15日、22日、26日　實行委員協議。

(5)　7月23日より10日間阪急百貨店に於て主婦の生活24時間展開催本會後援展示下の通り。化學的整頓、雜務改善、働き易い台所、子供のために、戶外の活用等。

(6)　8月8日～6日間、大丸にて之からの住宅展開催。15坪モデルハウス、模型各種
家は狹くても敷地は廣く。間取、構造合理化
家族本位。生活美化と規格化。通風と日當。
設備工夫。適切家具の撰定。耐震耐火的。
設計による指導者を、豊中住宅、各校、各社設計圖案各種、建築材料。圖書手引。

(7)　8月5日　住宅總委員會
使い方指導、組立住宅の是非、煉瓦造建物對震問題等論した、尙大丸展中出場人員割當をした。

(8)　8月13日　大丸4階にて委員及出展關係會合本展覽會に就ての感想と將來の希望等につき座談會を催す。

(9)　10月4日　今後の研究方針檢討。

(10)　11月2日　大阪府農務課申越に係る府下農村住宅改善指導を議す。

(11)　25年2月13日　同上問題檢討、近く農村實地調査する事とした。

(12)　3月15日　小林委員門脇技官一行は貝塚に赴き下記農村住宅台所を視察調査撮影した。

（主記、主計代表會略）

伸びる家住宅展委員會

（1） 1月18日準備委員として協會側中野星理事外、大丸側波多野建築相談所長外6名出席、金融公庫に關連した住宅展を4月下旬大丸に開催する事を協議し取敢ず協會側で設計圖懸賞募集方に着行する樣申合せた。

（2） 1月28日 於大丸 兩準備員會し名稱及經費負擔の事等協議した。

（3） 2月7日 於大丸 兩者會合家具部と連繫展示方を議した。

（4） 2月11日 於朝日 本委員會構成12名出席委員長副委員長幹事、係互選準備委員協議事項檢討の上各分擔の係にて直に着手進行する事とした。

（5） 2月15日 於朝日 全員會合 諸般協議

（6） 2月18日 於分室 企畫及全員會合伸びる家と名稱決定展示內容パンフレット等決定した

（7） 2月17日、20日 第二會場問題につき大阪新聞社長と中野、小林委員會合同社とタイアップ家と庭圖案募集を議した。

（8） 2月24日 同上募集審査委員打合會開催。

（9） 同月25日 於朝日 總委員集合第一會場伸びる家展示內容一切資料を大丸側に手交した。

（10） 3月18日 於分室 伸びる家應募圖案120通整理、同20日分室で審査會を開催別項の通り、當選者を決定した。

（11） 同月26日 於大阪新聞社第二會場豫定の家と庭應募圖整理同29日審査會開催下項の通り。

伸 び る 家 入選者

入賞 清水千榮子君、今西茂雄君、岩本博行君、

佳作 池田光夫君、櫻井叡君、堀武雄君、佐々木明夫君、伊藤清君。

編 集 委 員 會

（1） 昭和24年4月7日 朝日ビル事務室建築積算便覽の件、5月號より新建築作品紹介掲載の件、支部特輯號の件（神戸6月京都8月に決定）24年度新委員詮衡。

（2） 昭和24年4月16日 朝日ビル事務室5月號內容決定本年度編集豫算の件。建築積算便覽掲載決定の件。5、6月號表紙色決定、24年度編集幹事決定報告各自挨拶及委員長互選大林委員長留任決定

（3） 昭和24年4月27日 於天神橋分室 副委員長星理事推選決定、新理事に對し委員會主旨說明、23年1號より24年3號迄の經過報告、新建築作品紹介計畫及カット等小川幹事に一任の事、筆者名は會の權威上ペンネームを用いぬ事、特輯號の件（別に企畫せざる事、但機により計畫してもよき事）7、8月號表紙色決定、年內支部特輯號掲載月決定。

（4） 昭和24年5月11日 於朝日ビル事務室、6月號（神戸號）內容檢討、本文行數變更の件24行に決定、7月號掲載記事內容詮決定。

（5） 昭和24年6月13日 於朝日ビル事務室 7月號原稿不足補充の件、原稿料變更決定6月（神戸號）新建案寫眞未掲載分處理の件、8月（京都號）打合せの件。

（6） 昭和24年7月12日 於朝日ビル事務室、9月號原稿依頼先詮衡決定、寄稿原稿詮衡外國文献よりピックアップ掲載の件、外國雜誌購入希望誌名詮衡決定、原稿料等改正決定の件。

（7） 昭和24年9月9日 於朝日ビル事務室、11月號を觀光特輯とし原稿依頼先詮衡の件12月號企畫の件、同號に會員作品集を掲載の事及掲載方法決定の件。11、12月號表紙色決定、東海支部號企畫は25年春にする件外國雜誌購入依頼先決定、10月號よりアート使用の件決定及雜誌定價改正の件決定名簿調整の件編集委員に考案の事決定。

（8） 昭和24年9月20日 於朝日ビル事務室、11月號掲載內容決定、12月號掲載豫定の會員作品募集の件、事業報告掲載の件年度末に變更の事、名簿調整の件。

（9） 昭和24年10月27日 於朝日ビル事務室、12月號內容內定、25年1月號より表紙デザイン懸賞募集の件。

（10） 昭和24年11月1日 於朝日ビル事務室、1月號記事依頼先詮衡決定、東海支部號を2月にする件決定、3月號內容決定及名簿調整問合せの件、外國文献轉載方再調査の件、支部特輯號今後繼續企畫の件及九州號を5又は6月とする事。

（11） 昭和24年12月16日 於朝日ビル事務室、表紙懸賞募集圖案審査入選、佳作作品決定。

（12） 昭和25年1月10日 於天神橋分室、會員名簿調整方針決定、2月號をアルミ特輯に變更の事及記事內容檢討。3月東海號、4月婦人と住宅號、5月神戸博及アメリカ博特輯號、6月九州號、以上本年度委員にて企畫決定の件。

（13） 昭和25年1月13日 於天神橋分室、2月、3月號經過報告、4月號原稿依頼先詮衡決定、名簿調整件（(イ)表紙文字及色、意匠等內定 (ロ)體裁內容配列等組方等決定、(ハ)印刷所詮衡の件）

(14) 昭和25年2月5日　於天神橋分室、3月名古屋號內容檢討、揭載方法決定。

(15) 昭和25年2月11日　於朝日ビル事務室　4月號經過報告、5月號アメリカ博、神戸博進行の件。

(16) 昭和25年3月14日　於朝日ビル事務室　手持新建築作品寫眞整備決定。アメリカ博、神戸博特集に對する寫眞配列方檢討及原稿、寫眞集收方進行の件。

建材部會

(1) 6. 24日　於朝日　本年度幹事長、幹事互選、事業計畫、部員擴大建材要覽發行の可否等協議

(2) 7. 13、於朝日　技術、綜合、建材三部連合協議會開催出席15名三部門の技術、施工向上を談じた。

(3) 8. 16、於朝日　技術と建材部會開催15名出席設計と建材の向上發展につき協議、今後の兩者の在方を懇談した

(4) 11. 17、綜合部門と建材部協議開催17名出席兩者今後の在方及向上につき懇談した

(5) 25. 1. 17、於朝日　建材部會開催、通產省伊藤建材課長出席、產業合理化につき協議近く關西大會開催の事を申合せた

(6) 3. 2、於大阪建設會館、伊藤建材課長外同課員列席、京阪神建材各部有志約20名出席產業合理化促進其他意見交換をした

電氣部會

10. 14、於清光社　綜合部門と懇談會開催出席20餘名兩部との關連事業、現場との連絡、工事進捗方等につき協議した

管工部會

25. 3. 16、於清交社　出席13名　技術部と綜合兩部門の向上と今後の在方等につき協議した

災害委員會

(1) 8. 23、委員長幹事長、互選委員分擔を定めた地震、風水害、火災、其他四分科とし夫々幹事を設け調査事項の起つた時は直に活動をする手配を定めた

(2) 9. 21　於朝日　耐震問題につき意見交換した尙今後は必要により開會する事とした

地震對策委員會

(1) 5. 27、於朝日委員長、幹事等互選、昨年來研究のパンフレット原案檢討後鷲尾、横尾、高橋、藪中、四委員、最後檢討を一任した、府下市町村長に檄を飛ばし無料出張講演をなす事とした、所要經費を理事會に提出した

(2) 9. 19、於朝日前年研究の資料中ポスター作成する事、パンフレットにつき意見交換後高橋、横尾、鷲尾三委員に最終仕上方を一任する事とした對外的には直に活動に入る事を議した

(3) 10月中旬　府下市町村長約200個所へ出張講演に應ずる旨書面を發し誌上發表した、尙宣傳ポスター約10枚を作成した

(4) 25. 3. 27、於朝日、パンフレット最終原稿につき高橋、横尾委員より內容披露一同檢討後之を以て一應終了とし理事會に報告すると共に直に出版手配を要望した

教育委員會

(1) 5. 14、委員長幹事互選、本年度事業としてコンクリート構造、文化講座、鐵骨構造講習會計畫した

(2) 6. 14、於工業獎勵會　鐵筋コンクリート構造概要設計、講師高橋慶夫氏の下に講習會開く約200餘名來聽、終つて建築中の同獎勵館基礎工事見學

(3) 6. 29、於朝日　神戸高砂商行實例講習會、文化講座開催の事議す

(4) 8. 11. 12、於大丸4階　2日間に亙り住ひ方向上について文化講座開く、講師、西山卯三、小林清氏來聽約300名

(5) 鋼構造講習會開催、講師高橋慶夫、小泉昇、小西岬三氏

第1回　24. 11. 24、於兵庫支部　約80名　縣工業組合にて

第2回　24. 11. 25、於京都支部　約65名　商工會議所にて

第3回　24. 11. 26、於大阪　約150名　大阪建設會館にて

第4回　24. 12. 7、於大阪　約80名　大阪建設會館にて

第5回　24. 12. 16、於和歌山　約50名　センイ會館にて

第6回　25. 3. 22、於九州支部　約220名　福岡市勞働會館

第7回　25. 3. 24. 25、於中國支部　約250名　廣島大學皆實分校にて

第8回　25. 4. 2、於東海支部　約200名　名古屋市敎育館

建材審査委員會

（1） 24. 9. 27、 於朝日、委員長、幹事、互選規程作成檢討今後の方針を議す

（2） 24. 9. 29、 分室、小委員にて規程原案作成

（3） 24. 10. 7、於朝日、規程案審議理事會報告

（4） 24. 1. 20、 於朝日、第1回審査會開く出席9名 大信瓦を審査し欠席者の承諾有無を確認する事とした

（5） 24. 12. 26、於朝日 第2回審査會開催 日本塗料エマコート、日本セメント防水劑2件を審査に着手、小委員分擔とした

（6） エマロート分科調査竹内孝幹事外上六驛信號所に施工し實地調査した

（7） 置場委員長竹内成夫外小委員4名は明石エマコート工場及市内既施工の現狀調査した

（8） 日本セメント防水劑は西村幹事分擔にて分析に着手中

建築技術者制度委員會(士法)

（1） 8月20日 於東京 第7回目4時連合委員會開催井上、尾崎委員上京要綱案檢討。

（2） 8月13日 於朝日 本會側委員會開き、草案檢討意見を附して連合會に送る。

（3） 8月26日 於朝日 連合案再檢討。

（4） 8月31日 於朝日 協會案審議。

（5） 9月3日 於東京 藪中委員上京協會案提出同會審議。

（6） 9月16日 連合會要綱成案檢討。

（7） 9月20日 同會にて要綱案關係大臣に建議す。

（8） 10月11日 於朝日 藪中委員上京經過、要綱說明。

（9） 11月9日 於建設會館 建設省内藤指導課長、小宮技官、後藤事務官を招じ建築基準法並士法案につき說明聽集後意見開陳檢討京阪神關係30餘名出席。

(10) 基準及士法兩案につき協會意見を當路に建議した。

會勢委員會

（1） 4月26日 於分室 委員長副委員長互選後春季大會中見學部代行の件。其他議した。

（2） 5月19日 2時 市内 府市アパート見學200餘名。

（3） 5月15日2時 市内 大阪港灣大改修工事、埋立實況見學 約20名

（4） 6月9日 於分室 委員會開催、今後事業檢討

（5） 6月12日 宇治方面。京都支部と共催平等院黄檗寺見學、藤原博士東道說明 約40名。

（6） 7月22日 神戸市内 兵庫支部と共催、鐵筋建物、千代田銀行有姿移動工事現場見學 約120名

（7） 7月25日 於清水建設支店講堂 臨建規則說明會開催、稗田府課長堀技師解說 約130名。

（8） 8月11日 於分室 委員會開催、9月後計畫檢討。

（9） 9月8日 於朝日 見學及會員募集協議。

(10) 9月22日 雨天 岡町府營住宅見學約20名。

(11) 10月25日 市内心齋橋キヤバレーシスコ見學 115名。

(12) 11月10日 委員會開催、會勢發展、會員倍加、見學事項協議。

(13) 11月12日 雨天 兵庫支部共催仁川日本板ガラス寮逆瀨川三和寮建物見學、105名

(14) 11月22日 京都支部共催 京都嗣仙堂、曼珠院修學院見學70名、晩餐會山端平八にて30名。

(15) 12月13日 市内櫻島日立造船所見學 30名。櫻島會館、工場、ドック、新造船内見學。

(16) 12月17日 兵庫支部と共催、新築の高砂商行倉庫及社屋、日本毛織社屋及建設中の大建、竹中支店無床版鐵筋工事現場見學 約35名。

(17) 25年1月11日 於朝日 委員會開催、見學先、會員倍加、募集方法協議。

(18) 25年1月21日 中座歌舞伎觀劇 60人

(19) 25年2月7日 委員會開催、會員倍加運動第一着手全會員に依賴狀發す。

(20) 25年1月24日 於吉兆 委員會開催後元會勢委員長故木村寛一氏を語る會を催した 12名。

(21) 25年2月16日 大阪中央放送局見學 約39名終つて分室で委員會開き次の事業計畫協議

(22) 25年2月26日 雨天 兵庫支部と共催神戸博覽會王子會場見學 約35名。

(23) 25年3月2日 於大阪建設會館大阪建設業協會と共催、臨建並細則說明會開く 130名、府稗田課長及恒岡技師解說。

(24) 25年3月15日 窯業セメント大阪工場見學 約20名

(25) 25年3月17日 西宮アメリカ博覽會見學 60名

(26) 25年3月23日 市内道頓堀新築キヤバレードミノ見學70名以上26回 見學會 15回延約1000餘名講演會2回 延260名 觀劇1回60名

事業委員會

（1） 24. 4. 11、 於朝日、春季大會事業、建築資料集覽發行の件につき夫々委員分擔した

（2） 24. 4. 25、 大會委員會諸般打合せした

（3） 24. 5. 19、 同上實行に關する萬般の協議した

（4） 24. 5. 24、 春季大會下記開催

講演會　2時～4時、於大林組本社6階　約60名(雨天)

大阪市換地と都市計畫　井上新二氏

經濟界見透　伊東敏夫氏

最近アメリカ事情　畠中　博氏

懇親會　5時～7時、於大阪建設會館　56名

竹腰會長挨拶物故會員弔意、名譽會員顧問招待テーブルスピーチー、池田實中西六郎、瀧澤眞弓松本儀八、小崎修池田谷久吉氏谷民藏氏萬歲三唱解散

見學會　22日府市アパート、築港埋立、宇治方面

支部長懇談會　21日　大手前會館にて宮脇九州、今津山口、松井京都、玉置東海、岡本兵庫、支部長代表等と尾崎、藤木東畑理事代表及大和常務理事會合協會發展を議した

（5） 6月3日　於朝日　事業計畫を協議下記を提案された、稅の相談、代願事務代行、資材市場、圖書代賣出版、保險代理業、住宅博、青寫眞事業、雜誌廣告增收。

（6） 6月25日　前回提案事項檢討の結果大要下記協議した、建材市場、青寫眞謄寫、印刷、保險事業は會の性質上難事につき一應保留する。建材審査土地家屋斡旋積極的たる事、住宅博、朝日ビル事務所利用、會費値上斷行、圖書出版廣告增收等出來る限り直に進捗實現を期する事等。

（7） 7月1日　住宅博調査分科會開催研究淺海、井場委員分擔檢討

（8） 7月1日、7月6日　淺海、井場委員住宅博再檢討土地、稅金、資金業者關係、調査、本委員會に報告した

（9） 25年2月9日　委員總會　建材審査と會費値上は理事會で既に實行に着手した、朝日ビル利用斡旋事業、圖書代賣、廣告增收は更に進捗る圖り、住宅博と圖書出版は別途展覽會委員に移牒協議25年3月30日創立記念行事は略昨年と同程度として講演會會員作品展亦懇親會見學博等催す事を議す明春35周年記念事業としては下記項目を擧げ次年度に參考案として送くる事とした。

住宅博。放送。協會賞創設。クラブ又は事務所建設、資金募集、慰靈祭、記念出版、社會記念誌、表彰事項、大講演會、支那視察旅行、見學等

（10） 25年3月30日　雨天　於建設會館　2時—9時　創立記念日行事を下記の通行う

講演會、60有餘名來會、米ソ抗爭と日本の將來、朝日新聞記者田中豫章氏、住宅公庫と基準法並土法等について大阪府建築部長吉田安三郎氏。會員餘技展同日同席上竹腰健造氏外8名よりの出品展示した、6時より同席にて有志懇親會開催名譽會員顧問外列する者54名井上副會長挨拶後池田宮彦鈴木末尾、大海卯一、池上勝郎、齋藤光夫、島村佐次郎、鍛高輝之、尾崎久助氏等のテーブルスピーチあり　置鹽章氏萬歲三唱後散會した、之に先立ち見學會は15日窒業セメント工場、17日アメリカ博、23日キヤベレードミノ等開催3月25日には於朝日各賞會員、顧問各位7名出席懷舊と將來の協會につき座談會を催した、尙30日講演終了直後伸びる新入選者へ賞金授與式を兼ね行つた。

行政委員會

25年3月2日　於分室　委員長等互選した後將來事業を檢討した。

四會連合工事請負規程委員會

（1） 4月4日—8日　於東京　總會開會藪中委員上京四會と協議

（2） 4月27日　提案の第2讀會檢討

（3） 5月19日—21日　於東京　藪中委員上京連合會開催、尙此日所要經費は四會平等負擔を申合せた

（4） 9月12日と22日　協會側案につき修正された部分檢討した

（5） 9月26日—29日　於東京　連合會開催、藪中委員出務全體協議

（6） 10月12日　四會連合協議案內容檢討

（7） 11月24日と25日　於大阪　東京側太田、增田、柳瀨委員西下協會側案と比較逐條檢討した。

（8） 12月7日　四會連合委員長より一應成案到着檢討した。

（9） 12月12日と15日　最後案檢討の結果修正意見を加え四會連合會に伸達した。

（10） 25年3月1日　最後案につき再檢討の結果を上京の上協議する事とした。

（11） 25年2月6日　尾崎委員長上京四會連合最後協議に列し協會側意見を開陳、大要一致終了直に建設相へ申請し本連合案の利用方を强張した

（12） 年3月6日　四會協議結果建設省審議會と連携等につき報告今後に處する方法を研究した。

（以上23年10月よりの繼續事業）

會　務　（三　月）

主記及代表會　1日2時　於　朝　日

主記代表尾崎理事、東畑主計、星編集代表外6名出席25年度收支豫算案作成、朝日ビル事務所問題、會誌取引稅問題、評議員會開催の件等議した。

建材部會　2日1時　於　分室3階

伊藤通產省建材課長を招き別項の通り產業合理化問題につき京阪神建材代表25名會合協議した。

行政委員會　2日1時　於　分室3階

委員長神田治、副委員長恒岡俊行、山口久五郎、互選今後の方針協議した。

臨建規則及細則說明會　2日1時半　於分室2階

神田、恒岡兩技師說明　來會　130名

請負規程委員會　6日2時　於　朝　日

尾崎委員長外6名出席、尾崎委員長東京に於ける四會連合會經過報告今後の事協議した。

理　事　會　8日2時　於　朝　日

竹腰會長外8名、朝日ビル事務所問題、25年度收支豫算案、評議員會開催、役員重任に關する件、入退會銓衡諸報告、定款變更2月21日認可、創立記念日、住宅展經過、取引高稅の件、各會合、2月會計報告等。

九州支部役員會　14日2時　於福岡縣建設業協會

宮脇支部長外7名、本部より尾崎主記理事、大和常務理事列席、役員選出、講習會開催、會員募集、事業企畫、專任事務員の件、豫算決算、其他協議打合せたが22日別項の通り鋼構造講習會を勞働會館で開催した。本部より小泉昇、小西卿講師と大和理事を派した。

見　學　會

會勢委員會主催。15日1時から大阪窯業セメント大阪工場見學、約20名出席。山本副委員長挨拶後場內巡覽非常に參考となつたが參加者の少かつたのは殘念であつた。

17日2時～4時アメリカ博見學。

阪急土地經營部宮野次長外並竹中工務店小川、岩本技師現場係の各位案內說明で第2會場より第1會場隈なく見學終つて本館3階休憩所に集合、大林、竹中、長谷川、日本金屬、東亞建築關係各組より寄贈の茶果を喫した後、大和理事より宮野氏外各關係者に謝辭を述べ參加者一同に會員倍加其他依賴する所あり、4時半三々五々散會した。紙上を通じて重ねて上記5社各位と御案內の勞を煩した各位に深甚謝意を表する。

技術部と管工事部會　16日正午～2時於　清交社

尾崎氏外技術部2名、今西氏外6名管工部出席、大和常務理事司會の下に別記の如き連絡會を催した。

伸びる家設計圖案審査會

18日と20日2時から分室で審査會を開き、會告通り決定した。應募圖123通であつた。

キヤバレードミノ見學會　23日2時　市內道頓堀　會する者80名　設計者宇賀一郎氏說明案內後謝辭を表し4時散會。

中國支部

12日午後、田坂幹事外と大和理事、事務打合せ、24、5日鋼構造講習會開催、小泉、小西講師と大和理事を派遣した。別記參照。

座　談　會　25日2時　於　朝　日

名譽會員、顧問7名出席、竹腰會長挨拶後懷舊談及今後協會事業等別項の通り懇談した。

家と庭懸賞圖審査會

27日と29日2時から大阪新聞社で審査會開催、會告の通り入賞者決定した。應募600余通

地震對策委員會　27日2時　於　朝　日

池田宮彥委員長外8名出席、懸案のパンフレット內容最後決定と今後の事業につき協議次年度、申送事項等定めた。

評議員會　28日2時　於　朝　日

評議員　37名　理事者　8名出席、議長、副議長互選役員重任に關する件、會長、副會長、理事。25年度豫算案審議等議した。

創立記念日行事　30日2時　於建設會館

講演會　時事問題　大阪朝日新聞社　田中豫章氏

住宅金庫と基準法について　吉田大阪府建築部長

懇親會　同所5時から開催、井上副會長挨拶後、テーブルスピーチ　池田寅氏外6名

萬歲三唱和氣藹々裡　6時半散會。

座談會　25日2時　於朝日

竹腰會長、顧問池田實、池田宮彥、今林彥太郎、松本儀八等4名及置鹽章、谷民藏兩氏等出席、竹腰會長司會の下に懷舊談及將來の事業等についての座談會を催した。尙當日の話題の主なるものは下記の通りであつた。

1. 戰時中の各委員の苦心談
1. 前會長片岡安先生の人となりについての思い出
1. 戰前と戰後の會員動勢
1. 協會今後の發展に寄與すべき抱負及推進させてゆくべき指針等々……以下略

九州中國支部鋼構造講習會終了

3月22日午前9時～午後7時、福岡市勞働會館にて九州支部主催で開會、藤島副支部長開會辭あり、小泉昇講師講義、12時半、宮脇支部長挨拶、午後は小泉、小西兩講師熱講、7時すぎ迄電灯の下で終講、大和常務理事閉會の言葉と會勢發展につき協力方を願ひする所あつて閉會した。

當日は小倉、直方、大牟田方面からも多數來聽され忽ち200人突破、豫期に反した來場で滿員、70餘のテキスト不足と云う盛會で、聽講各位も非常な熱心であつた事は喜びにたえない事であつた。

中國支部では建築學會と共催で24、25兩日、廣島大學旧實分校講堂で開催、遠く山口、鳥取、岡山、四國路方面からの來場で之又約250名有餘、テキスト不足50餘の盛況であつた。古林縣營繕課長、學會、協會代表開會挨拶と協會の會勢發展に協力方依頼する所あり開講、小泉、小西兩講師熱講5時第1日を終り、25日9時より12時半迄小西講師續講質問應答後、司會者藤岡委員協會側終講挨拶後、午後より引續き學會側の講義に移つたが非常な盛會であつた。兩支部共テキスト不足のため御滿足を與え得なかつた各位にお詫び申上げると共に、夫々御盡力頂いた役員委員各位に深甚の謝意を表する次第である。尙テキストは近く增刷準備中につき御希望の方は兩支部へ至急所要數御申込みおき願う。

實際に役立つ（主して工場建築に就いて）

鋼構造の計算法テキスト 增版印刷中

曩多來、京阪神、九州、中國、東海方面にて講習會を催して來たが、各地共非常に盛會でテキストの不足を來たし、聽講者各位に多大の不便を與えたが、目下增刷中にて近く出來上る豫定故御希望の向は至急下記場所へ申込みされたし。尙價格はこの度增刷の分は特價として一部送料共130圓にてお頒ちする。

申込場所

大阪	北區中之島朝日ビル內及東區天神橋 建設會館內
和歌山	和歌山市三木町南之町 鳥村建築事務所內
京都	京都市中京區夷川通河原町東入 京都支部
兵庫	神戸市生田區福慶町45 大興ビル1階 竹中工務店神戸支店內 兵庫支部
東海	名古屋市中區榮町 土木建材協會內東海支部
中國	廣島市國泰寺町 土建會館內 中國支部
九州	福岡市渡邊通6丁目 建設會館內 九州支部

後記

本年度最後の編集方針に又この面を取りあげ、特に婦人の方々の御意見を承ることにした。

父君陶工、河合卯之助氏と共に婦人服飾の權威河合女史の最近の目ざましき活躍、本會と大阪新聞社共催の「家と庭」懸賞圖案の審査委員に推薦せられた西川女史本會主催の「伸びる家」懸賞圖案一等及「家と庭」一等入選の清水千榮子君の著るしき進出等、女性の住文化に對する啓蒙、まことに高いものがある。

本會は更に進んでこの方面の啓蒙運動に前進するであろう。

占領下最後のあがきの中にも衣料、食料の問題は一應緩和の形をみたが、いぜんとして住宅問題は容易に解決する前途の見透しもない。むしろ住宅難は惡化してゆく狀態にある。益谷大臣は昨年末に國會の建設委員會で「350萬戸の不足住宅の內、急を要するもの65萬戸を5ヶ年計畫で建設する」とこんどの住宅金融金庫の發足を自信をもつて答辯しているが、こんどこそは時の大臣の言葉に終らずに强い政治力を出してもらいたいものである。

餘裕住宅の解放を强くさけんだ共產黨の住宅政策にも大きな失望をかんじたが、結局のところ自力で建てられぬ者には强い政治力をまつ以上に方法はない。

5號の「博覽會建築と建築家の立場」の企畫を最後に本年度編集委員會の任務は終了した。この一年間、會員諸兄の御期待に添え得なかつたことをお詫び申上げ、多大の御協力に對して厚く感謝する次第である。（24年度編集委員會、星記）

建築と社會

第31輯　第4號

賣價1部60圓（送料共）

昭和25年3月25日印刷・昭和25年4月1日發行

編集發行人　戸川弘

發行所　社團法人 日本建築協會

大阪市北區中ノ島3ノ3朝日ビル

電話 {土佐堀 ㊹1836・3631番 / 北濱 ㉙1334～9番}

振替口座大阪39975番

印刷者　井澤英壽

大阪市西區江戸堀上通二丁目

株式會社　大洋社

會　　告

定款一部變更に關する件

昭和25年1月27日開會の通常總會に於て議決されました定款一部變更の件は昭和25年2月22日大阪府知事から認可されました。

變　更　定　款

第19條第2項を次の通り變更する。（支部長を民法上の理事から除く）

「會長、副會長及び理事を以て、民法上の理事とする」

第21條第2項を次の通り變更する。尙現第2項を第3項とし以下順次繰下げる。（役員の重任を制限する規定を追加）

「役員は、同一の役員に重任することができない。但し、特別の事情あるときは、評議員會の議決を得て重任することができる。」

第40條第2項を次の通り變更する。（副議長を設ける）

「評議員會の議長及び副議長は、評議員の互選とし、その任期は1年とする。」

附則を次の通り變更する。（大部分前變更の際の經過規定で既に必要ないものを削除）

「本定款は、民法第38條による認可の日から、これを施行する。」

「從前の定款による終身賛助會員は、そのまゝとする。」

以　上

役員當選に關する件

昭和25年1月27日開會の通常總會に於て監事並びに評議員の選擧を執行いたしました結果下記の通り夫々當選されました。

監　事　松久保敬三氏

評　議　員　（五十音順）

（技　術）	飯田精次郎氏	石川　宏氏	大海卯一氏
	大倉三郎氏	岡田孝男氏	香川芳明氏
	榊　弘美氏	津村重一氏	中野吉彌氏
	村島　彰氏		
（施　工）	秋山俊一氏	岩崎甚太郎氏	野村辰雄氏
	濱口幹三郎氏	矢野豊作氏	山本義樹氏
（管　工）	齋藤光夫氏	南　長吉氏	
（電　氣）	古市峻治氏	山本昂之助氏	
（建　材）	田中民三郎氏	田村次郎氏	園野由太郎氏
	福井敬一氏		

昭和25年3月28日開會の評議員會に於て會長、副會長並びに理事の選擧を執行いたしました結果下記の通り夫々當選されました。

會　　長　竹腰健造氏
副會長　井上新二氏
理　　事

（技　術）桐本楠雅氏　小林清氏　白石博三氏
高橋慶夫氏　瀧澤眞弓氏　吉田安三郎氏
（施　工）淺沼猪之吉氏　鴻池藤一氏　松村雄吉氏
（管　工）山田文次氏
（電　氣）佐竹則蓊氏　山本龍太郎氏
（建　材）園野由太郎氏　日垣太市郎氏

各支部評議員當選の件

各支部選出の評議員は夫々の支部に於て下記の通り當選されました。

（東海支部）伊藤鑛一氏
（京都支部）小崎修氏　高丘治季氏
（兵庫支部）神田省三氏　早良俊夫氏　野田清三氏
山内嘉兵衛氏
（中國支部）古林義敦氏　近藤兵四郎氏　二村四郎氏
（補欠）岩田勝巳氏
（九州支部）井上正志氏　小栗治平氏

第2回日本學術會議會員選擧に關する件

首題の件本年12月施行されるが之れに先立ち、本會々員中有資格者を豫備調査して同會選擧管理會に提出するから右資格者は4月30日迄に本會宛到着するよう經歷書を添え申込まれたい。詳細は昭和23年7月22日第37號の工業新聞記載參照、又は本會え照會されたい。

アサヒビール見學會

時　4月20日（木）午後2時半集合
所　アサヒビール吹田工場正門入口（省線吹田驛前）
見學　同工場一巡後正門横のビヤホールにてビール乾盃をなす
會費　150圓、ビール突出し代共、申込と同時に頂く事
申込締切　4月18日迄、但し豫定人員に達した時は先着締切りの事
◇入場の時は會員章を是非着用の事　◇申込後不參の時も會費負擔の事　◇ビール不要の方も會費頂きます　◇本見學は會員外絶對お斷り致します　◇晴雨不論擧行

椎寺町大阪府營鐵筋住宅見學會

標記府營住宅を下記により見學致しますから御希望の會員は折返し御申込み下さい。
時　4月18日（火）午後2時集合（暗雨不論）
所　椎寺町府營住宅前（市電椎寺町下車）
會費　金30圓也　申込みと同時に御拂込み下さい
締切　4月17日午前中、但し豫定人員に達した場合は期日前でも締切る
◎會員章は御着用願います。

昭和25年4月1日

社團法人　日本建築協會

●第三一集 第四号 掲載広告一覧（掲載順）

協和製作所
ケントク
安藤組
盛工務店
近畿電気工事
朝日設備工業
大阪城口研究所
大阪電気商会
大阪暖房商会
斎藤久孝
桐田商会
明正社
須賀工業
西原衛生工業所
建材社
大和工業
栄興商会
三晃商会
今西商会
江昌工業所
日本セメント防水剤製造所
芦屋左官工業所

三高製作所
中川ラス製作所
鈴木シャッタア工業
ライトラバー興業
北尾商店
日建鋼業
水島商店
飯田商店
浪花工房
下村工務店
関西スレート
樫野石灰工業
興亜建材工業所
石田建材店
三幸商会
寶珠園
産業スレート
神治屋本店
産業スレート
兵庫県瓦工事
山本建材社
旭化工板製造

吉田芳雄商店
米谷建材店
清光社
日新建材
岩元工業
西林石材工業
東洋陶器
東洋洋瓦
奥村重兵衛商店
河津装飾
山本窯業
竹林塗装工業
玉置産業
やよひスレート
大阪城口研究所
日垣本社
村田硝子店
日本レイヨン
朝日スレート